

街区の再生

信州大学工学部建築学科

建築設計製図Ⅳ課題

- 須坂市の歴史的街区を対象として、都市組織の個別的再生を通じて、街区全体を段階的に再生する。
- その全体プログラムを組み立てるとともに、個別的再生を個々に設計する。
ex) ...step0 → step1 → step2 → step3

敷地調査（ヒアリング調査・敷地周辺の調査）



敷地調査（対象街区）



2



1



3

敷地調査（対象街区）



5



4



6

講評会

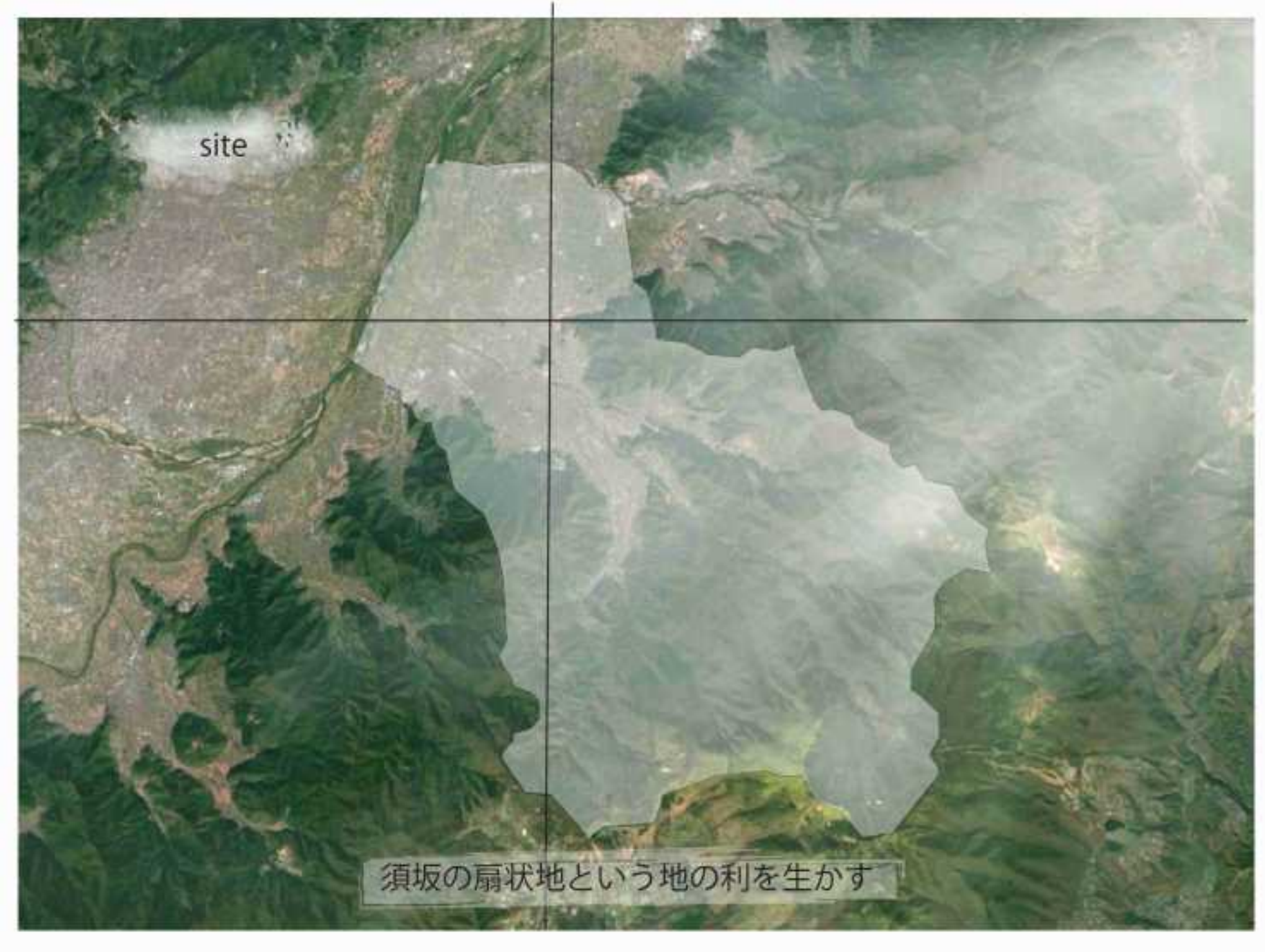


水がつなぐ縁

—街と人の隙間を建築で埋めていく—

親水空間をコミュニティ空間とし、
建築的に建物間の隙間を埋めて
いくことで、人と人との隙間を埋め
ていく街区の設計



A satellite map of a mountainous region. A semi-transparent, light blue/purple polygon is overlaid on the map, highlighting a specific area. The polygon is roughly rectangular with irregular edges, following the contours of the terrain. The surrounding area is covered in dense green vegetation, with some brownish patches indicating cleared land or different vegetation types. A black crosshair is visible on the map, intersecting at the center of the highlighted area. The word "site" is written in white text in the upper left corner of the image.

site

須坂の扇状地という地の利を生かす



駅と対象街区の位置関係



水が生活を、コミュニティを支えていた時代の終焉

水空間の復元からデザインを考える

program

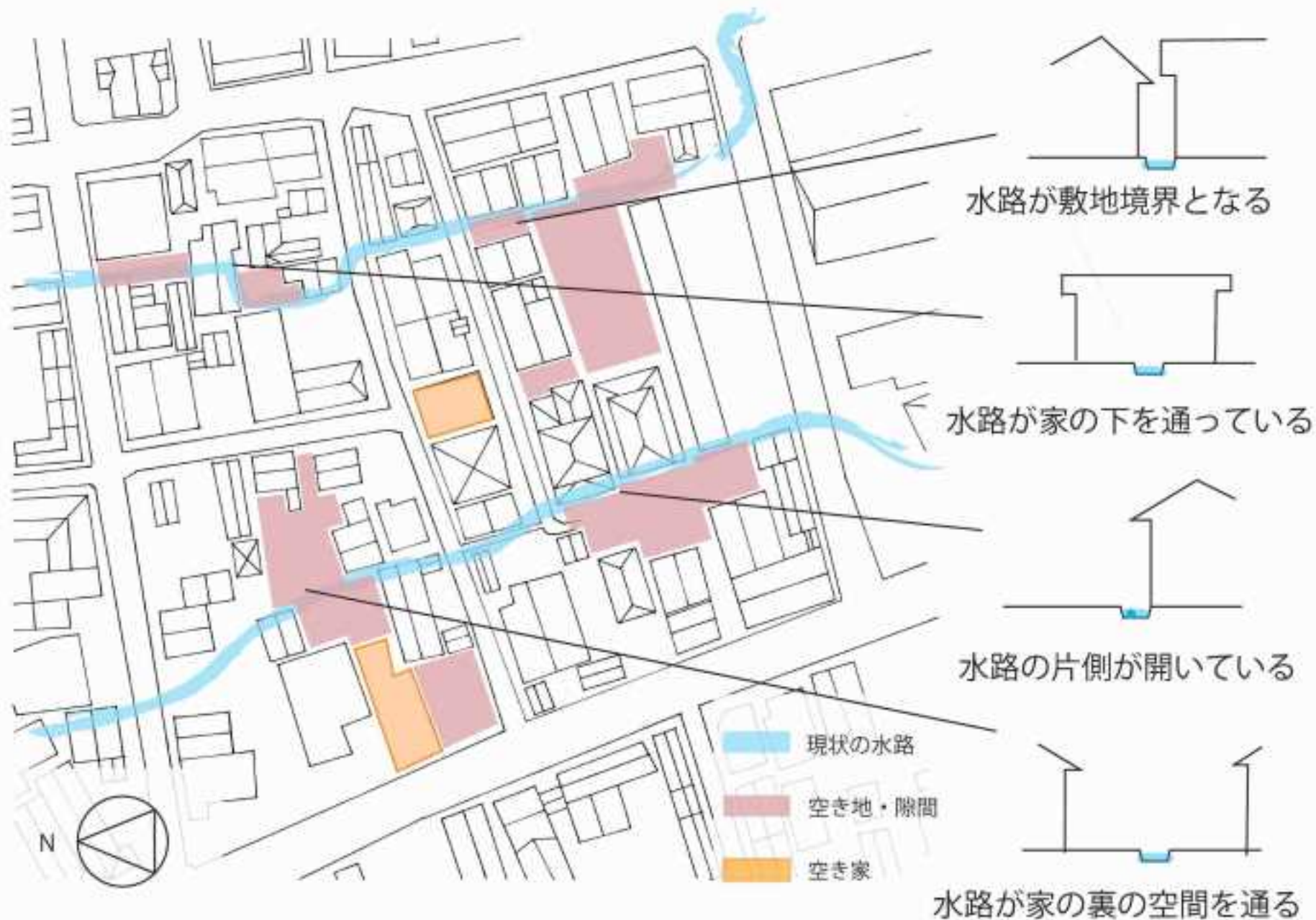
- 1 水景計画 ーコミュニティ空間の形成
- 2 改修計画 ー住空間の提案
- 3 修景計画 ー地域市民とのまちづくり

program

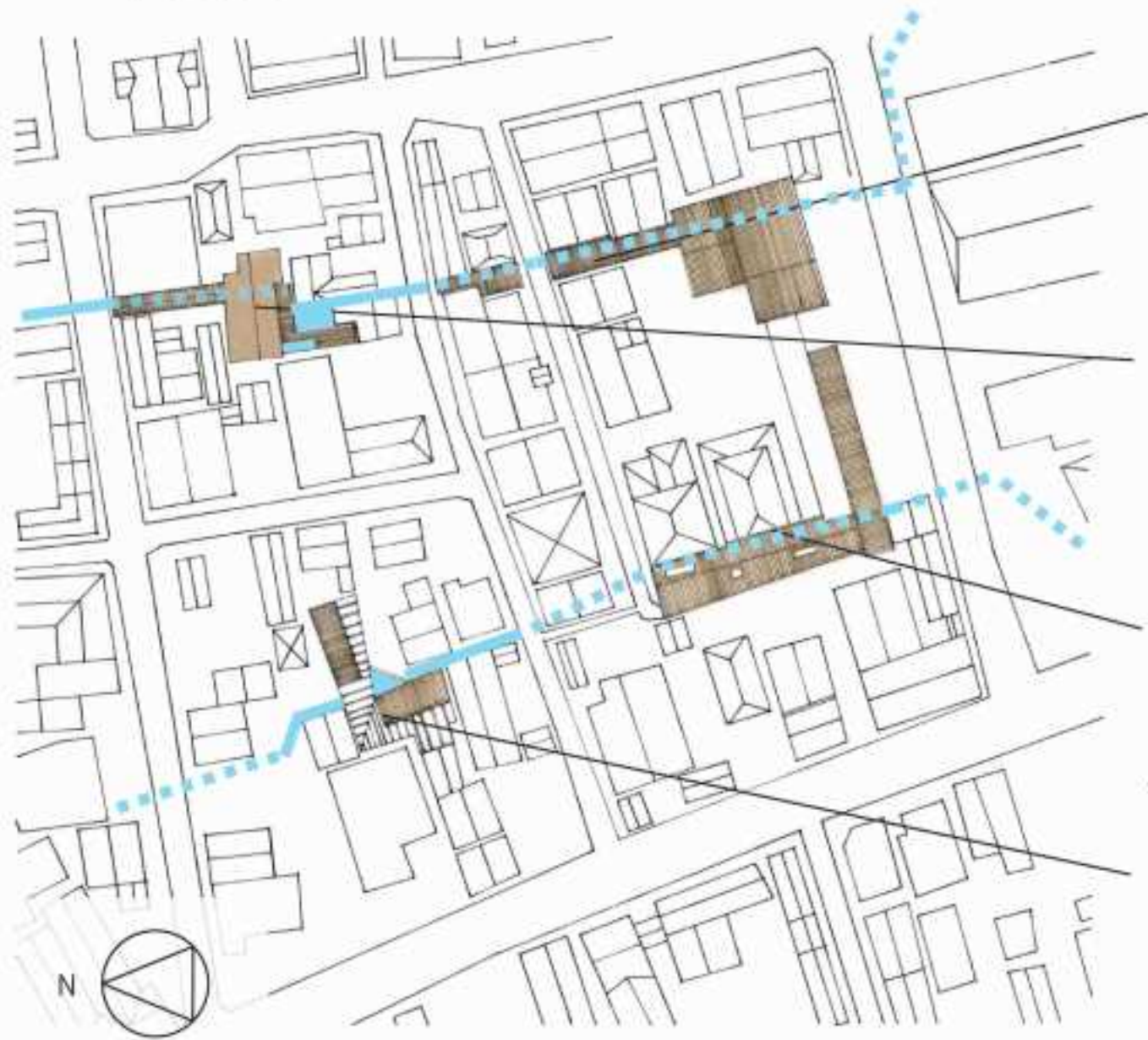
- 1 水景計画 ーコミュニティ空間の形成
- 2 改修計画 ー住空間の提案
- 3 修景計画 ー地域市民とのまちづくり

0 reserch

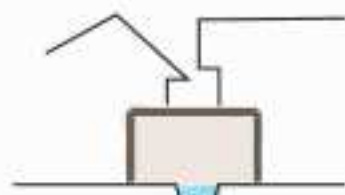
水路のパターン



1 水景計画



再生プラン



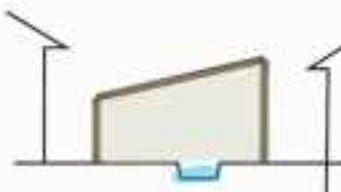
隣人との共有部となる



水路を生かした水車



住民と地域の交わりの場



裏の空間を埋める場

1 水景計画

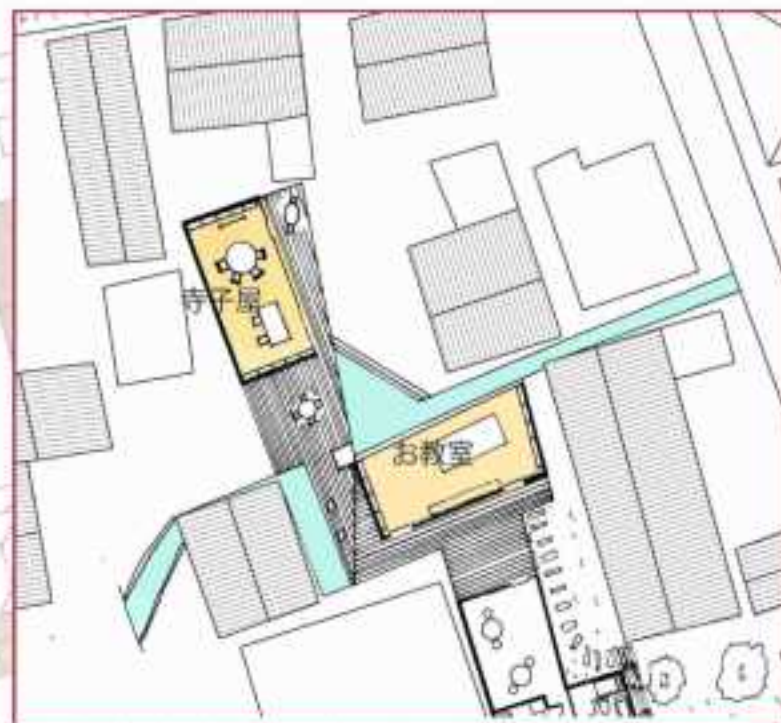
水車の復元

水路が住宅の下を通ることから
入れ子構造で下掛け水車を復元
し、動力で精米を行う。
水車の横を歩けたり、入れ子の
天窗から水車を覗くことができ
たりと博物的機能も持たせる

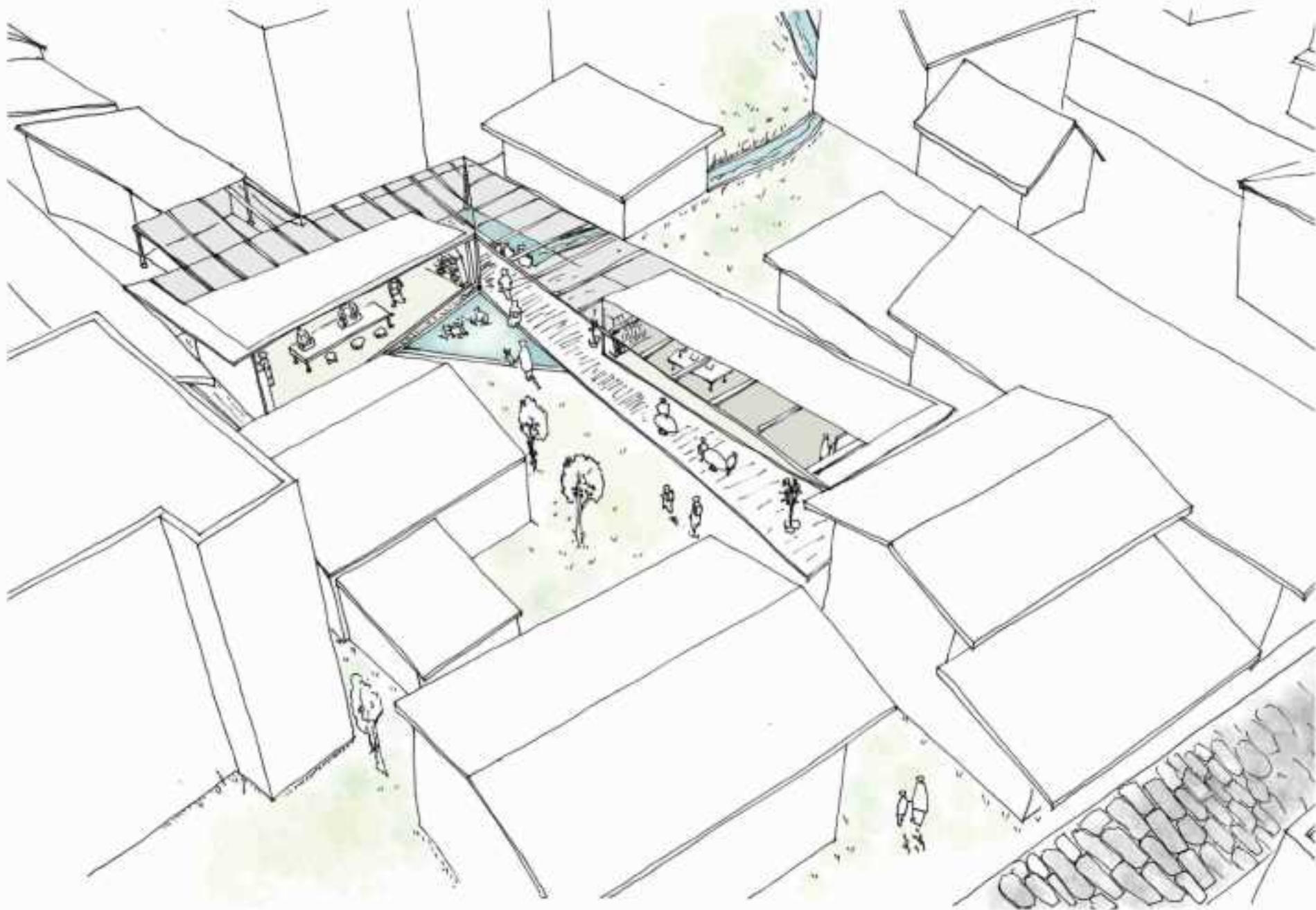


断面図

1 水景計画



住宅の裏空間に子供達の学びの場
として親水空間と学習塾、地域の
お教室を設計します



子供達のにぎわいあふれる場を作る

program

- 1 水景計画 ーコミュニティ空間の形成
- 2 改修計画 ー住空間の提案
- 3 修景計画 ー地域市民とのまちづくり

1

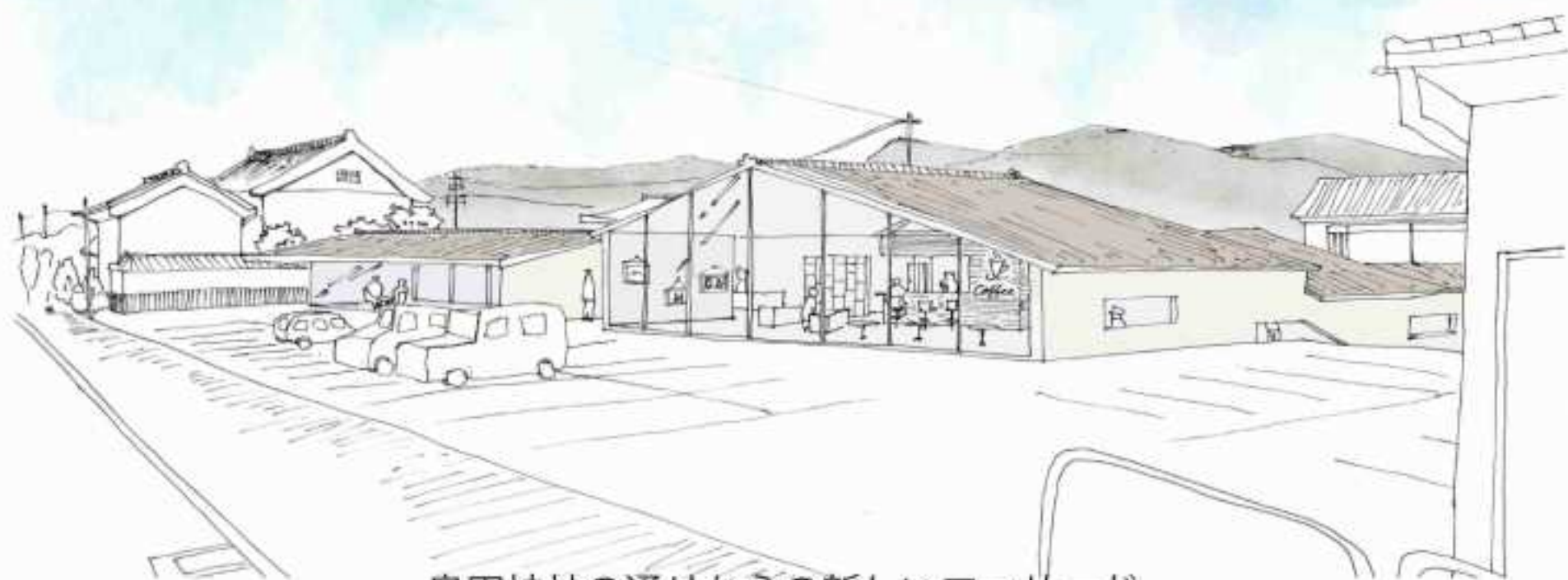


2 改修計画



コンテナの改修





奥田神社の通りからの新しいファサード



連続立面図

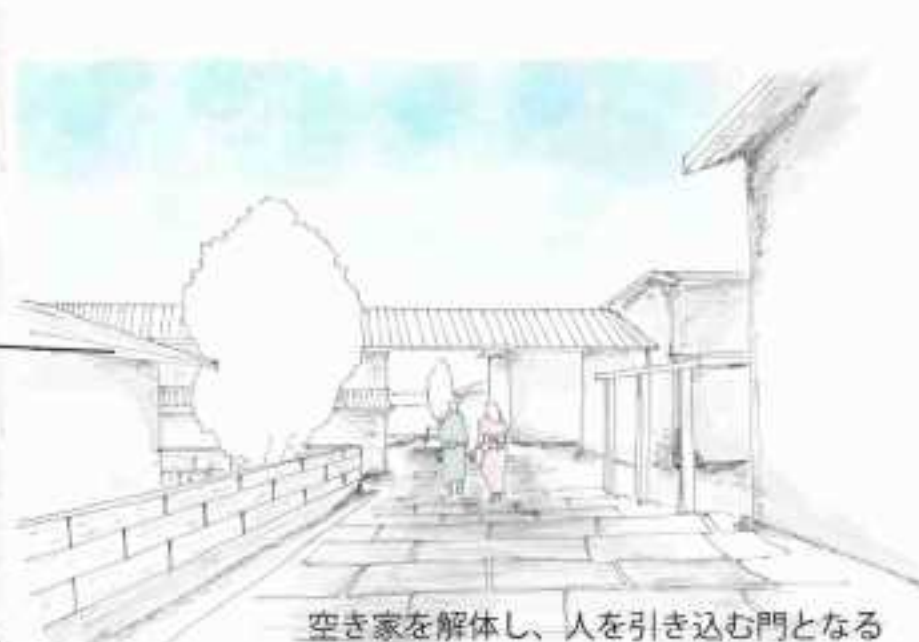
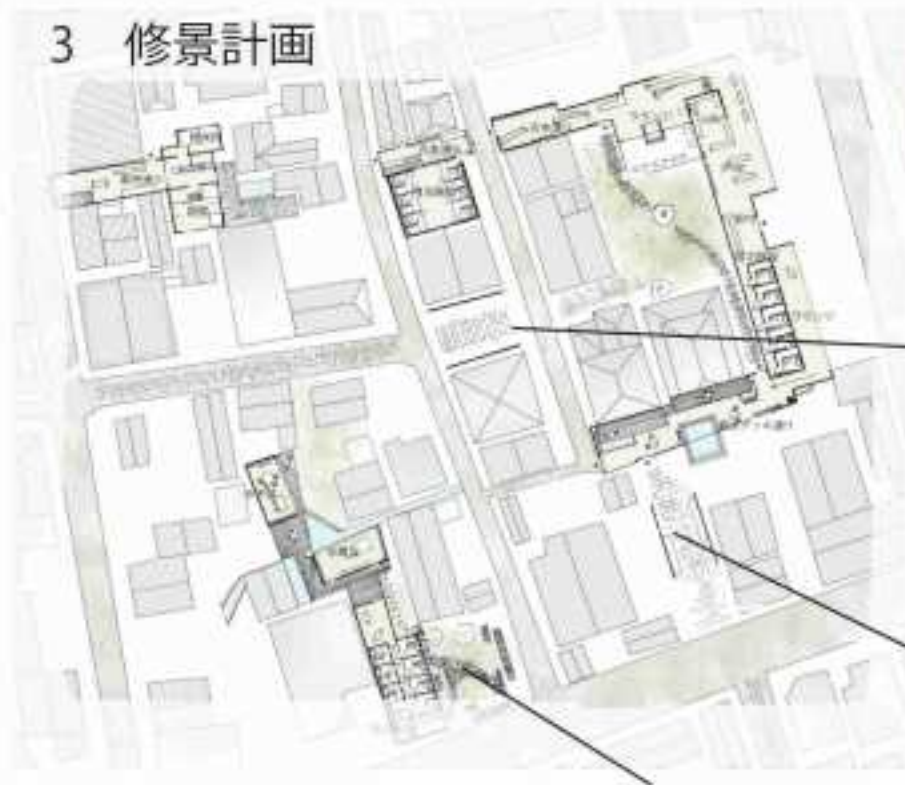


連続平面図

program

- 1 水景計画 ーコミュニティ空間の形成
- 2 改修計画 ー住空間の提案
- 3 修景計画 ー地域市民とのまちづくり

3 修景計画



空き家を解体し、人を引き込む門となる



空き地でバザーなどが行える公園を設計する

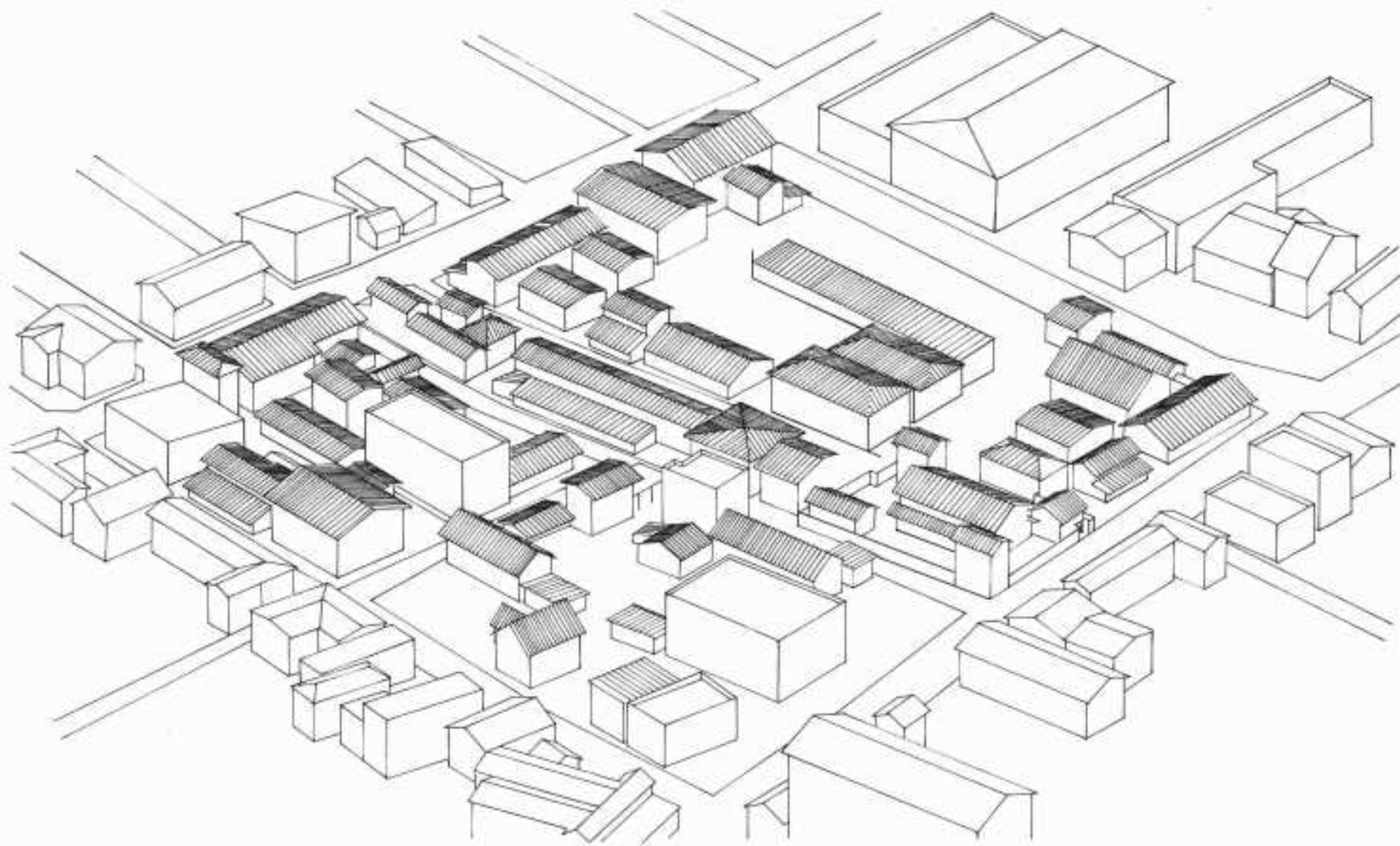


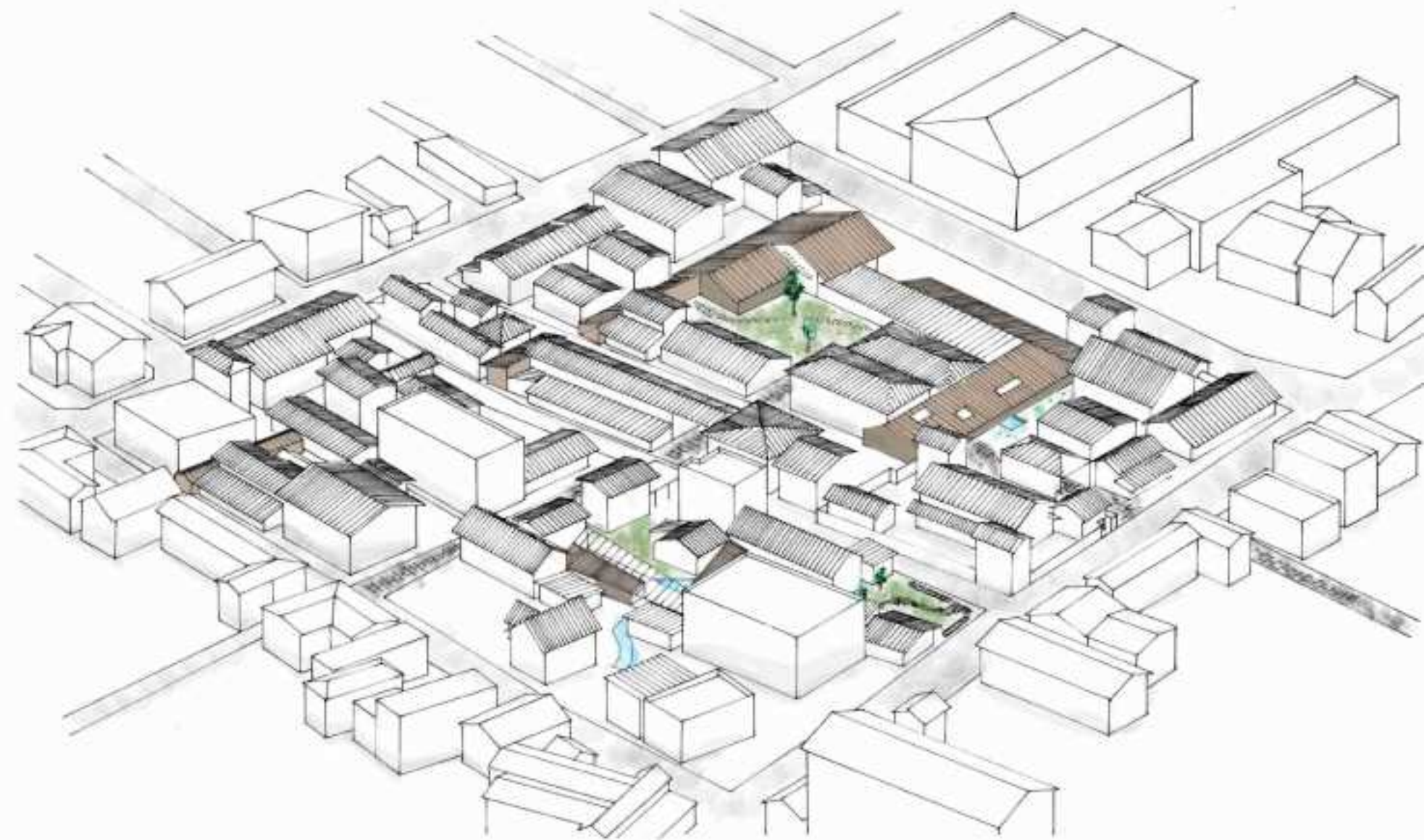
しらぶじの洋館を解体し
石畳を敷くことで大門通
りからの延長空間を造る



親水空間とウッドデッキの憩いの場

0





ご静聴ありがとうございました

信州大学工学部建築学科 3 年 有田一貴

ひとが住むまち

信州大学建築学科3年 春日智也



STEP0

・須坂の現状



蔵のまちなみ



足軽長屋



荒地化した空地



道に面した駐車場

STEP0

・須坂の現状

空家の増加

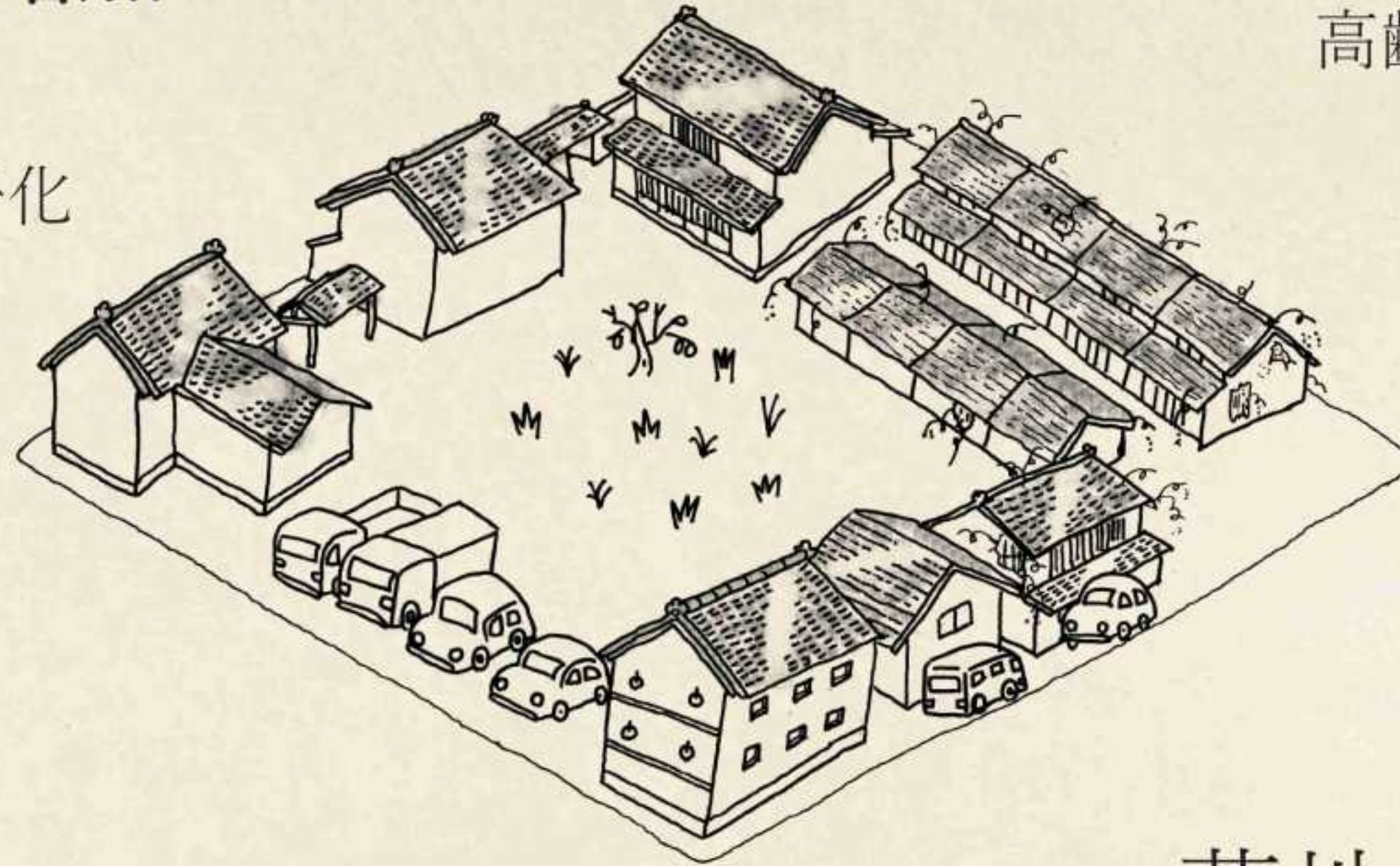
歴史的建物の老朽化、取壊

高齢化

少子化

空洞化

若い世代の人口減



賑わいの減少

無秩序に駐車場が増加

荒地化

再生の要点

- ・ひとが住む：ひとが住み続けることで、まちは成長する。
- ・修景：須坂らしさを守りつつ、新たな景観を創る。

STEP0

歴史的まちなみ

老朽化した長屋

道に面した駐車場

荒地

STEP1

長屋を店舗に改修

駐車場を街の内部に

STEP2

ボンエルフ (蛇行路)

子育て世代向けの住宅

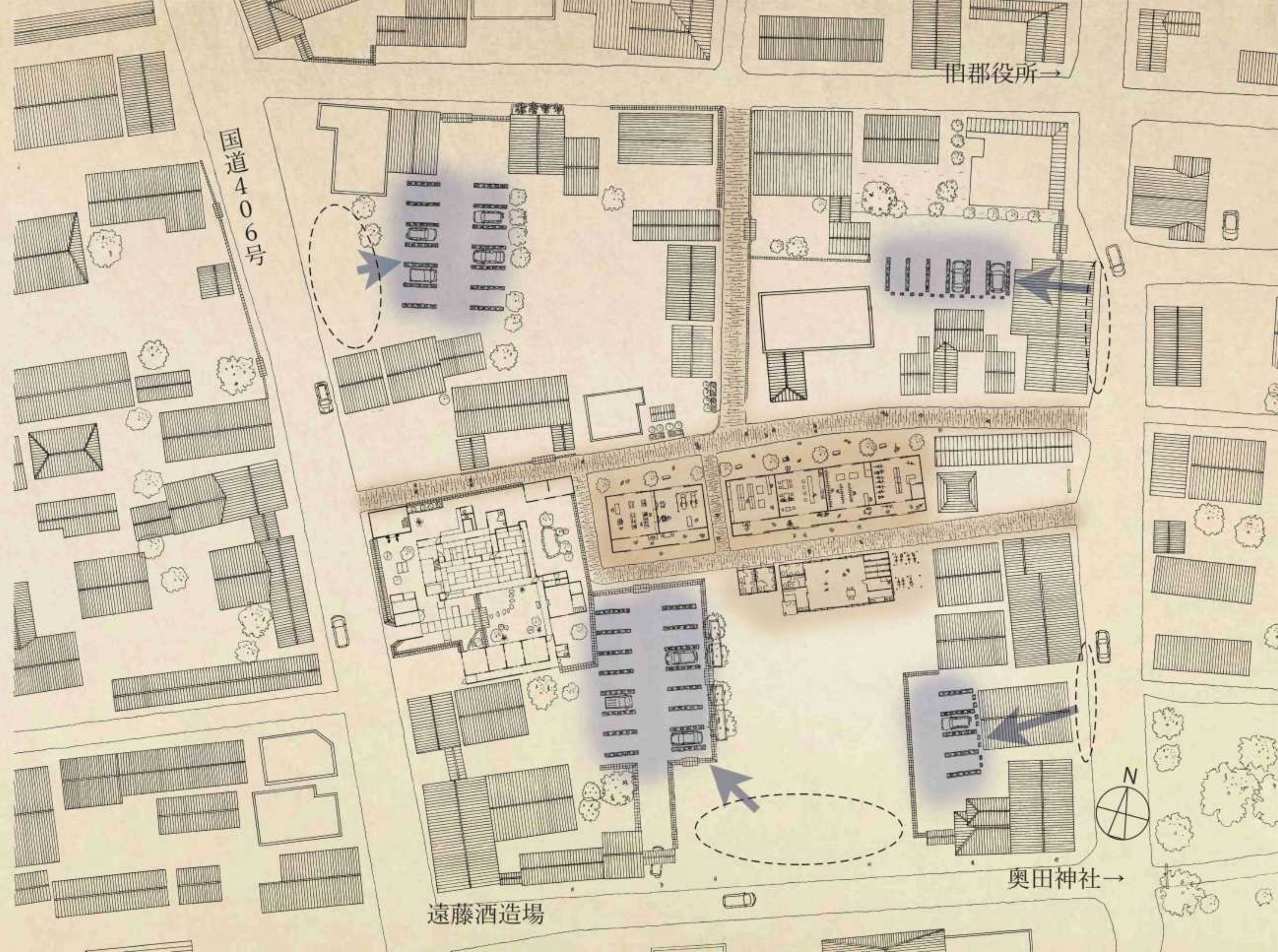
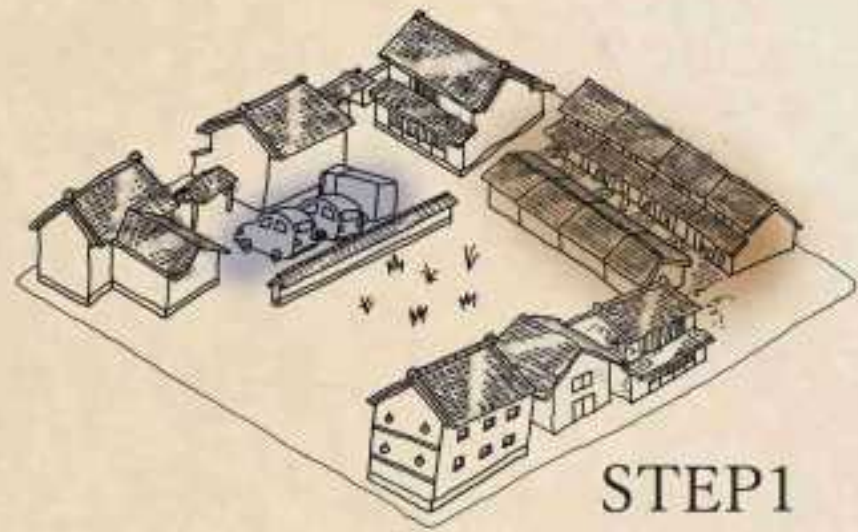
STEP3

市民の広場

住居に改修

STEP1

- ・駐車場の整理
- ・長屋の改修

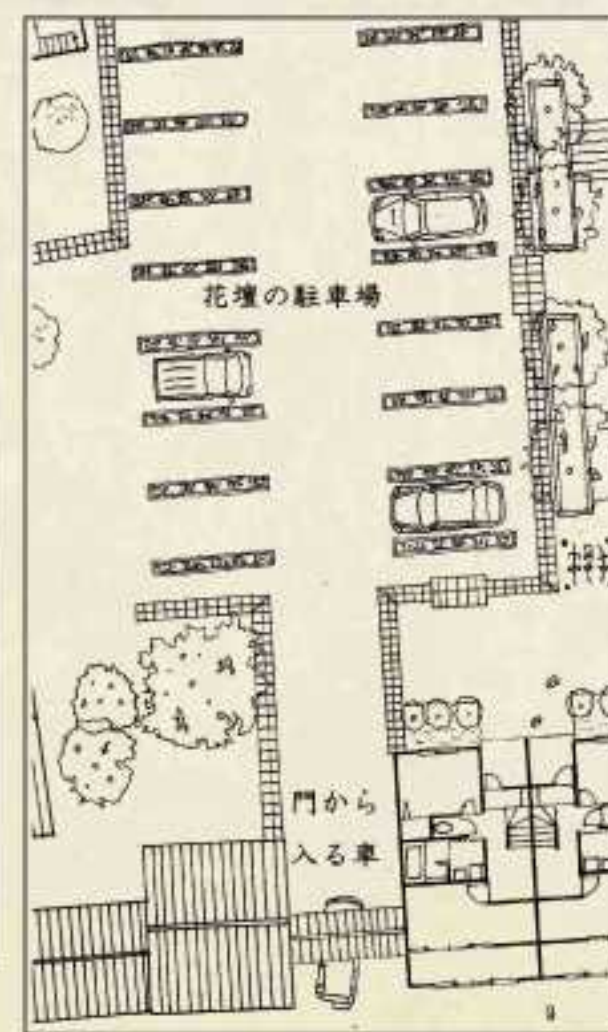


STEP1

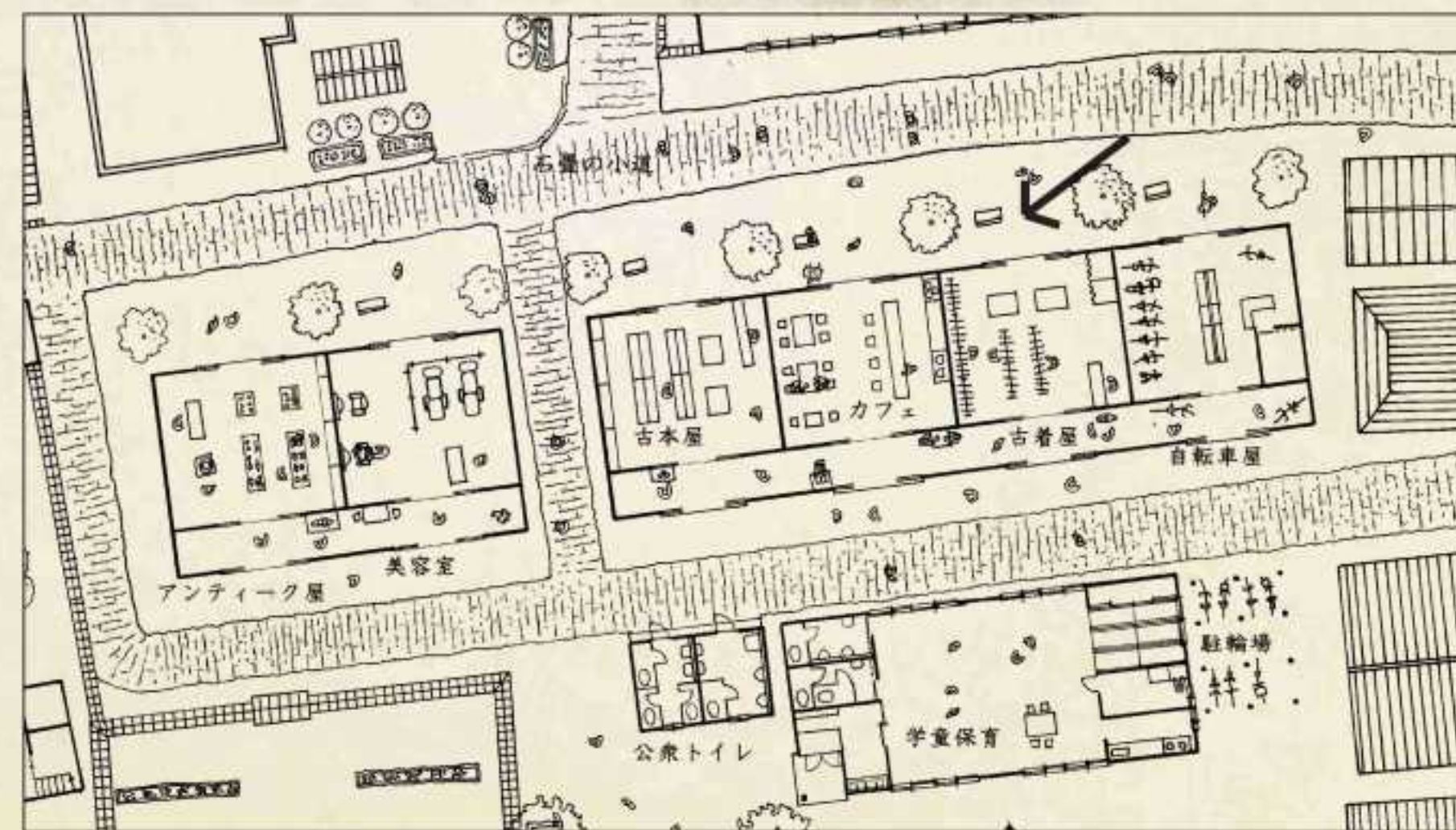
- ・駐車場の整理
- ・長屋の改修



現状の足軽長屋



花壇の駐車場



長屋の再生：店舗と学童保育



STEP2

- ・子育て世代向け住宅
- ・ボンエルフ（蛇行路）

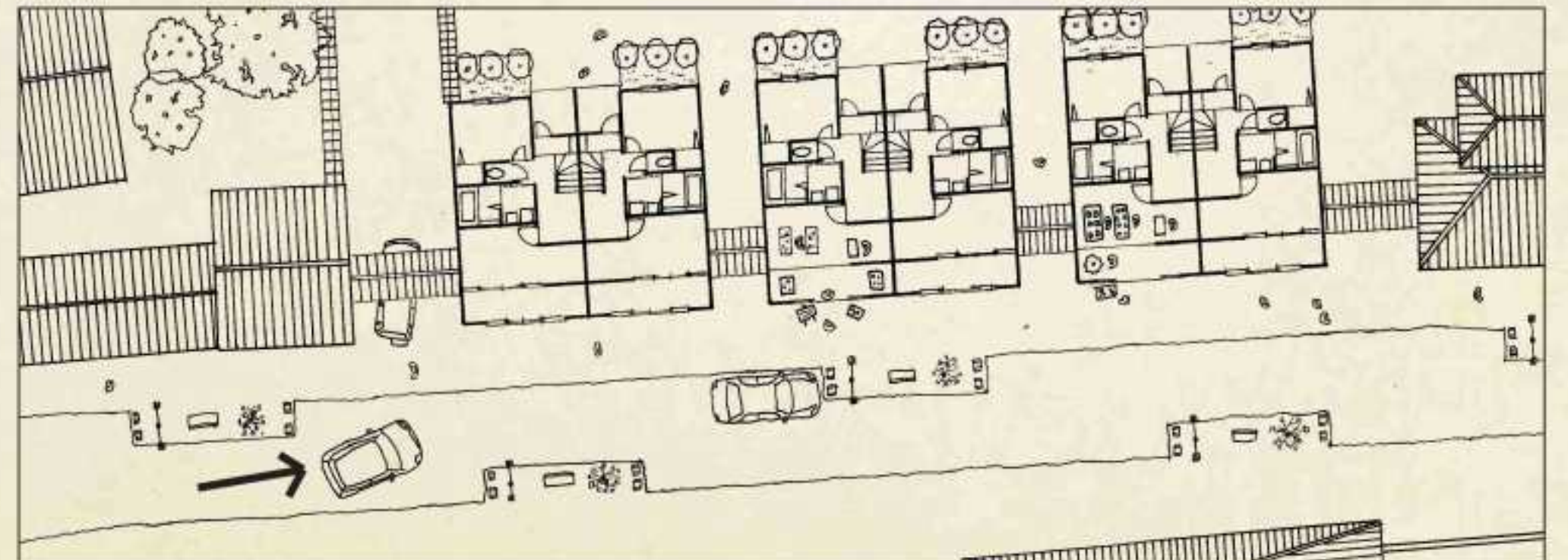


STEP2

- ・子育て世代向け住宅
- ・ボンエルフ（蛇行路）



現状の奥田神社への参道



住宅とボンエルフ

STEP3

- ・住民の広場
- ・長屋を住宅に改修



STEP0



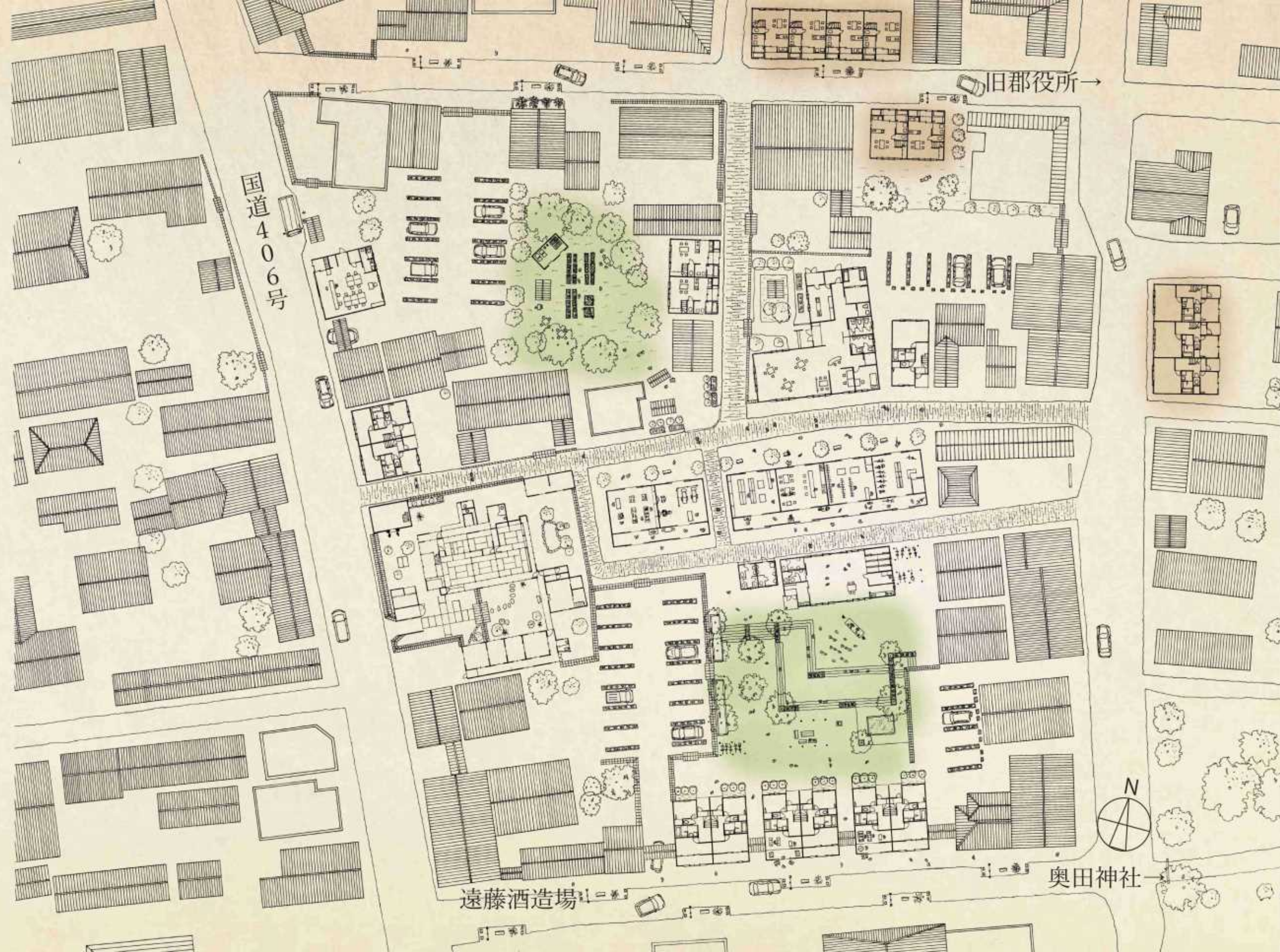
STEP1



STEP2



STEP3



STEP3

- ・住民の広場
- ・長屋を住宅に改修



STEP0



STEP1



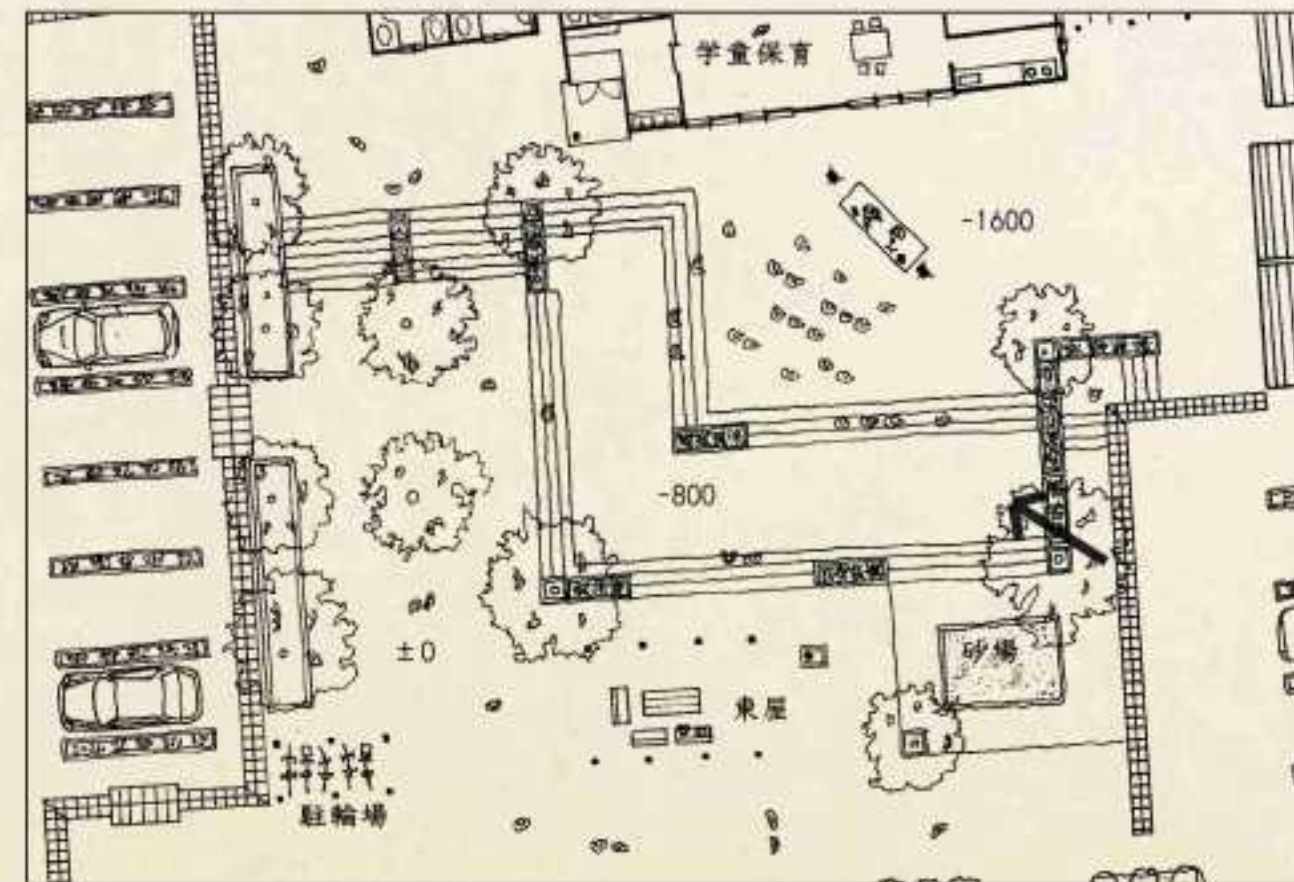
STEP2



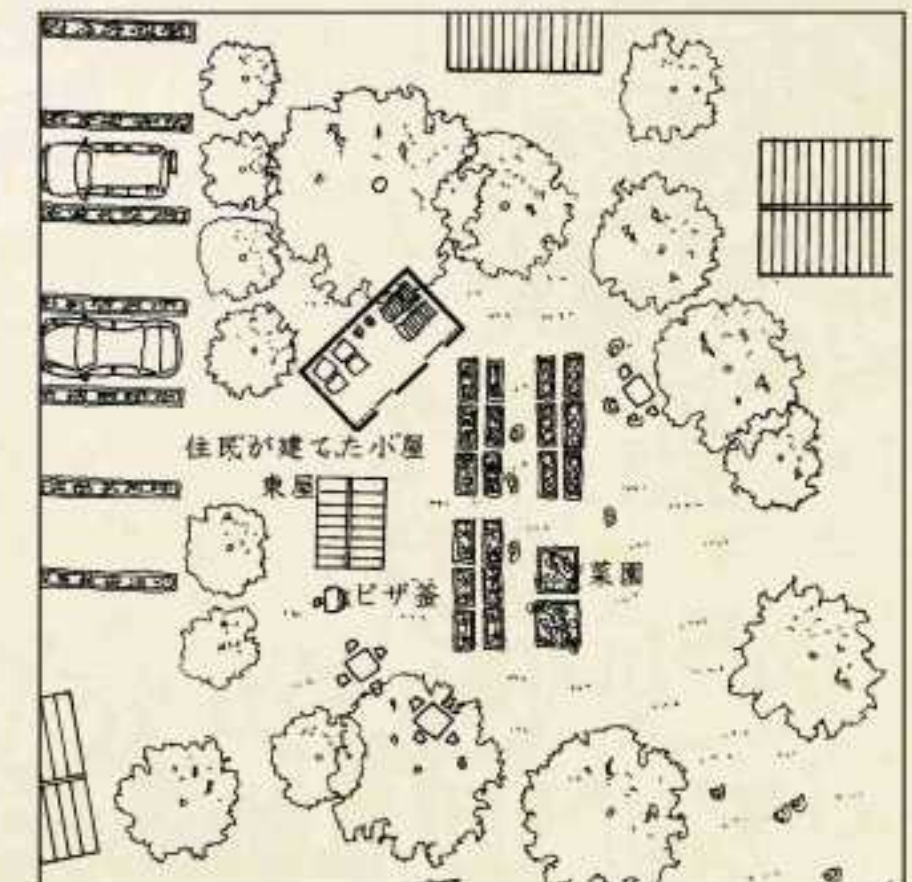
STEP3



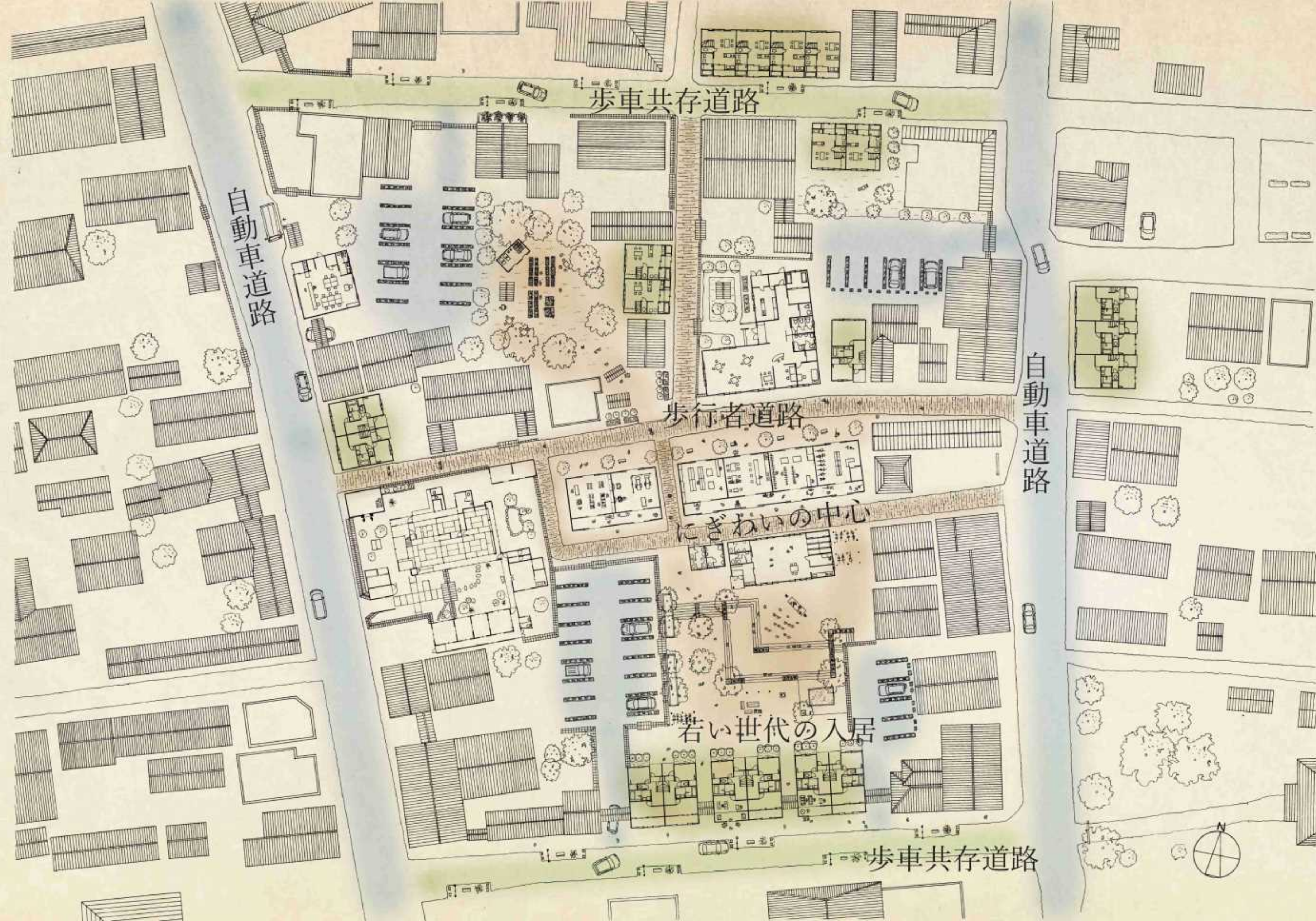
現状の荒地



住民の広場



住民の庭



歩車共存道路

自動車道路

自動車道路

歩行者道路

にぎわいの中心

若い世代の入居

歩車共存道路



永く住まうために

信州大学工学部建築学科 3 年常見奈央



対象街区位置図



 : 対象街区

須坂市郡役所

須坂小学校

奥田神社

中心市街地



Step0: 現状

しらふじや、遠藤酒造場
など歴史的建物が
立ち並んでいる



上町通り

暗くなると街区への入り口は
真っ暗で、人通りが少なくなる。



足軽長屋

使われていない駐車場、空き地
が多くもったいない空間ができて
しまっている。



ニーズ

- ・ 商店が少なく不便
- ・ 観光の目玉を作るのは中心地から離れると難しい
- ・ 子育て世代に来てほしい
- ・ 古民家に興味を持った若者はあるが、管理が行き届いていない伝統的な建物も多い。



Concept

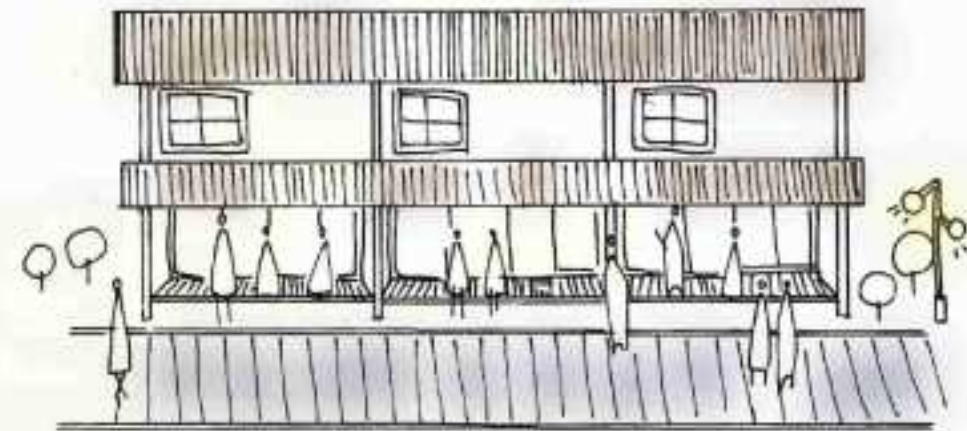
対象を須坂に永く住みたいと思う家族や何かを始めたい若者に設定する。そうして多くの世代が混ざり合いコミュニティを形成していく須坂の街を考える。

Program

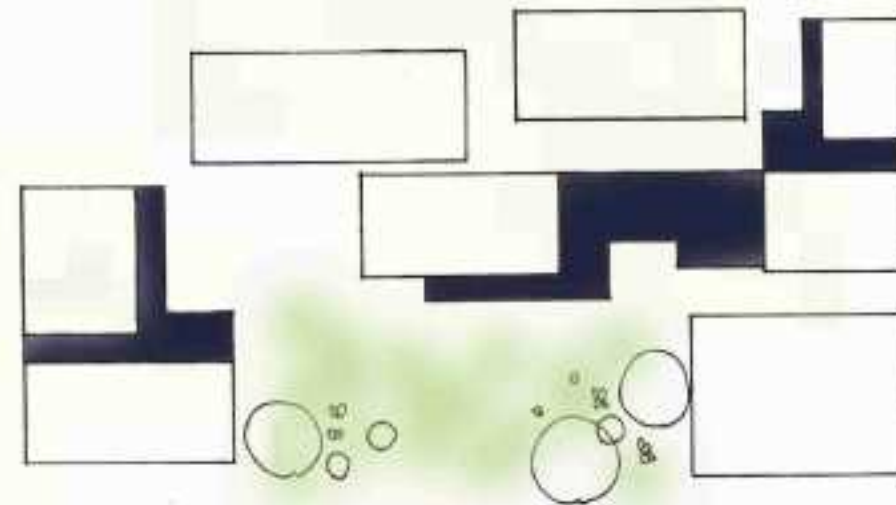
step1: 歩道、街区の整備



step2: 対比する長屋



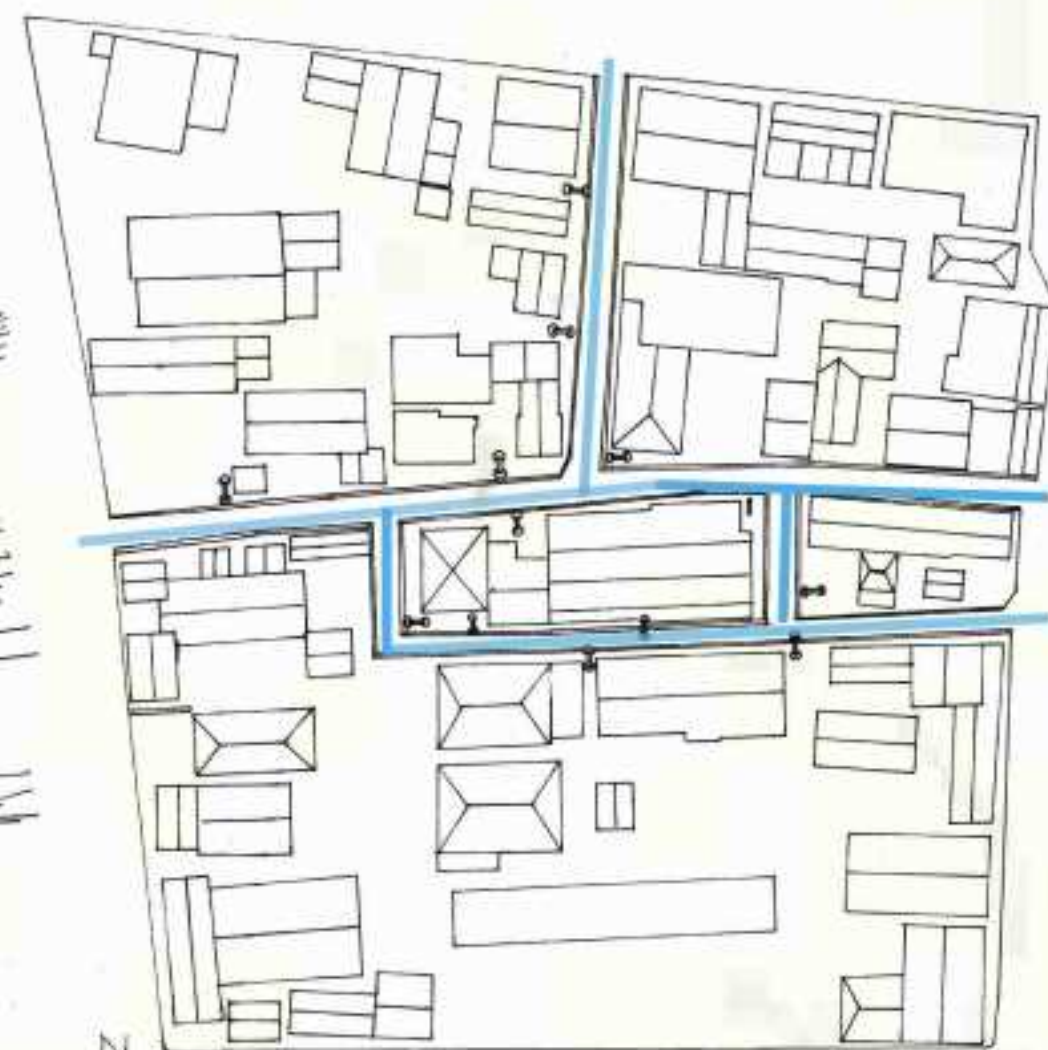
step3: 広場と店舗



Step1: 歩道、街頭の整備



石畳調の通りパース



歩道配置図

街区内を走る特徴的な道路。



歩行者専用の歩道と街灯の設置



街区のシンボルとなり他の街区との
差異が生まれる

Step 2: 対比する長屋



足軽長屋



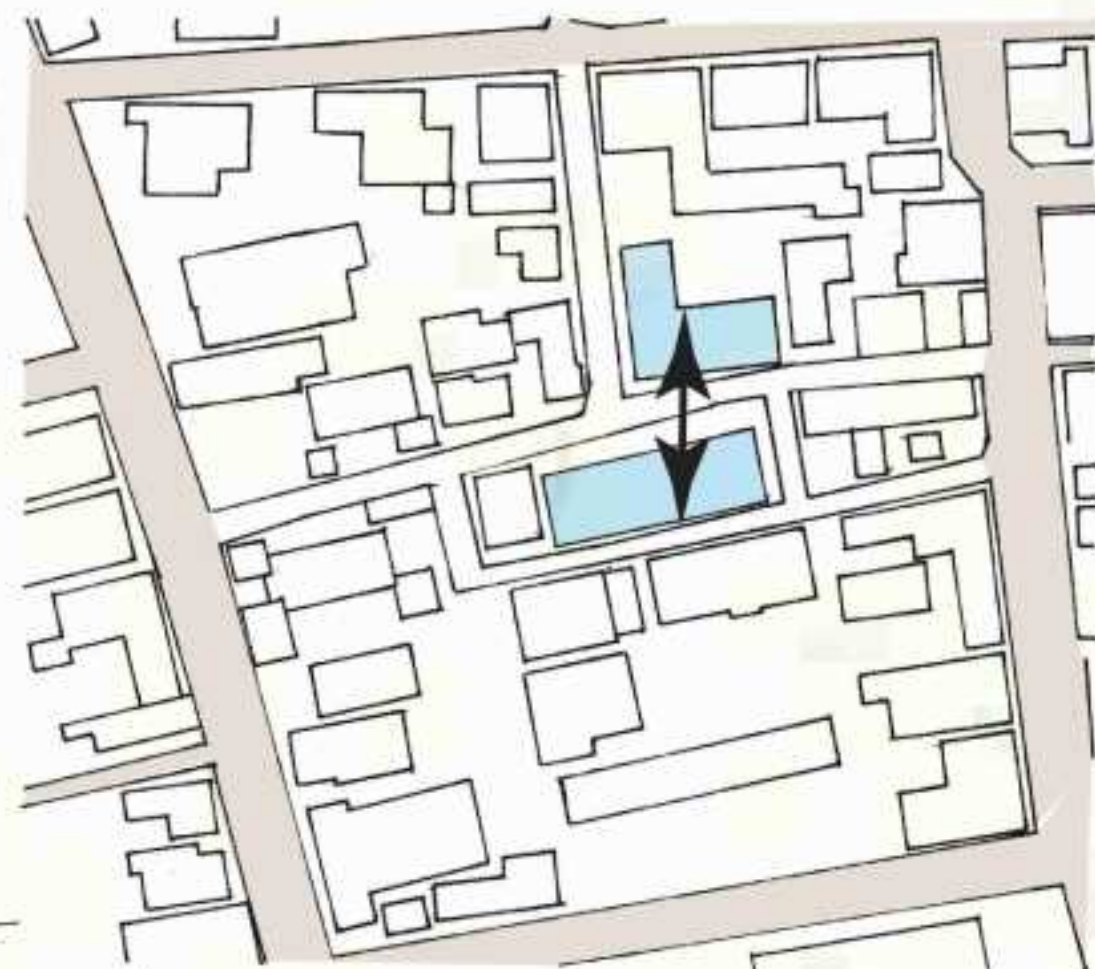
- ・ 江戸時代、廃藩置県により江戸から引き返してきた藩士のために急いで建てられた長屋。
- ・ 二階が低いのは、お殿様を見上げないようにする為
- ・ 現状ではうまく利用できずに埋もれている。

貸しスペース

若者向け長屋

家族向け長屋

: step2



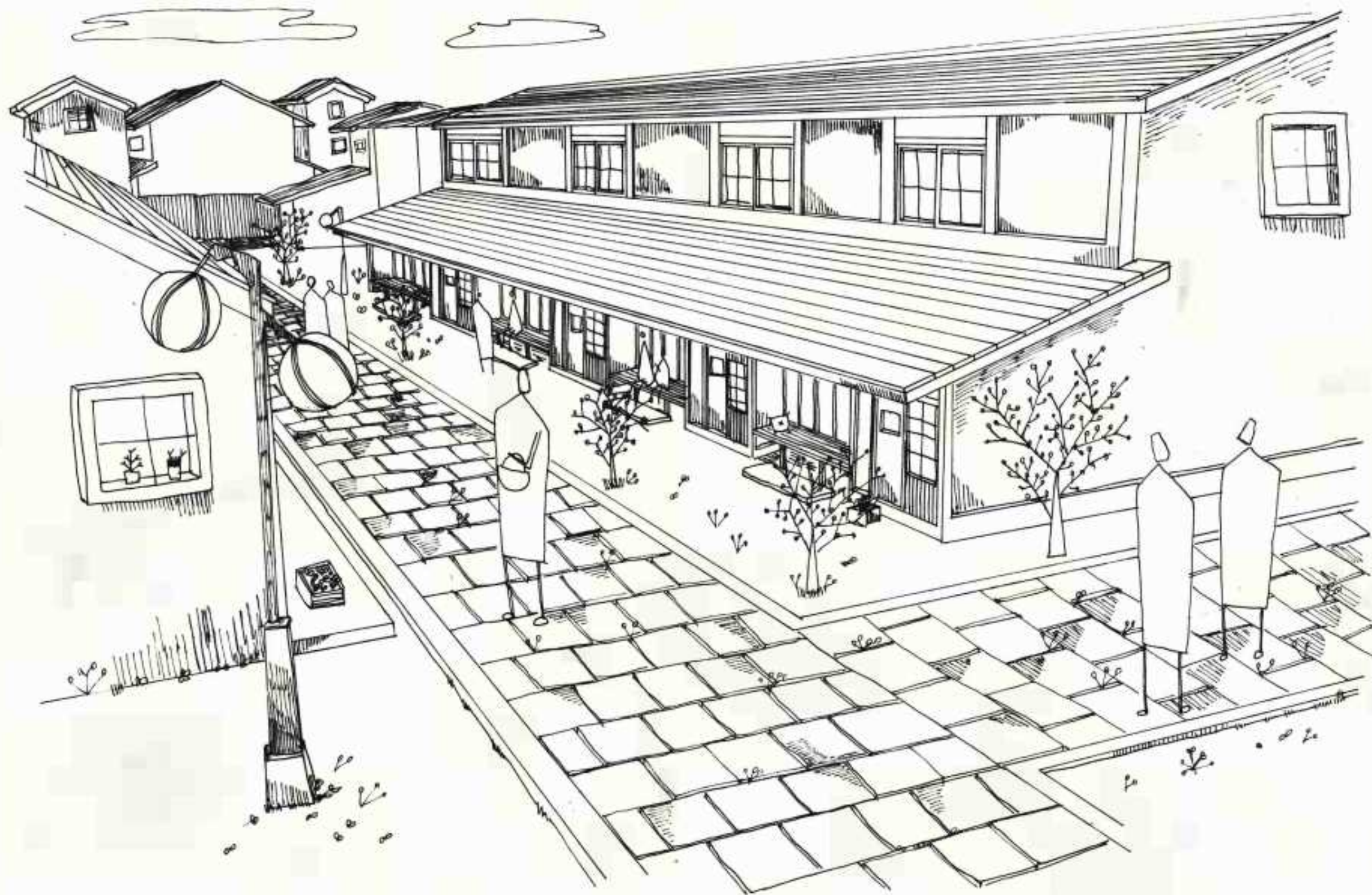
歴史を持つ足軽長屋

+

新規の長屋

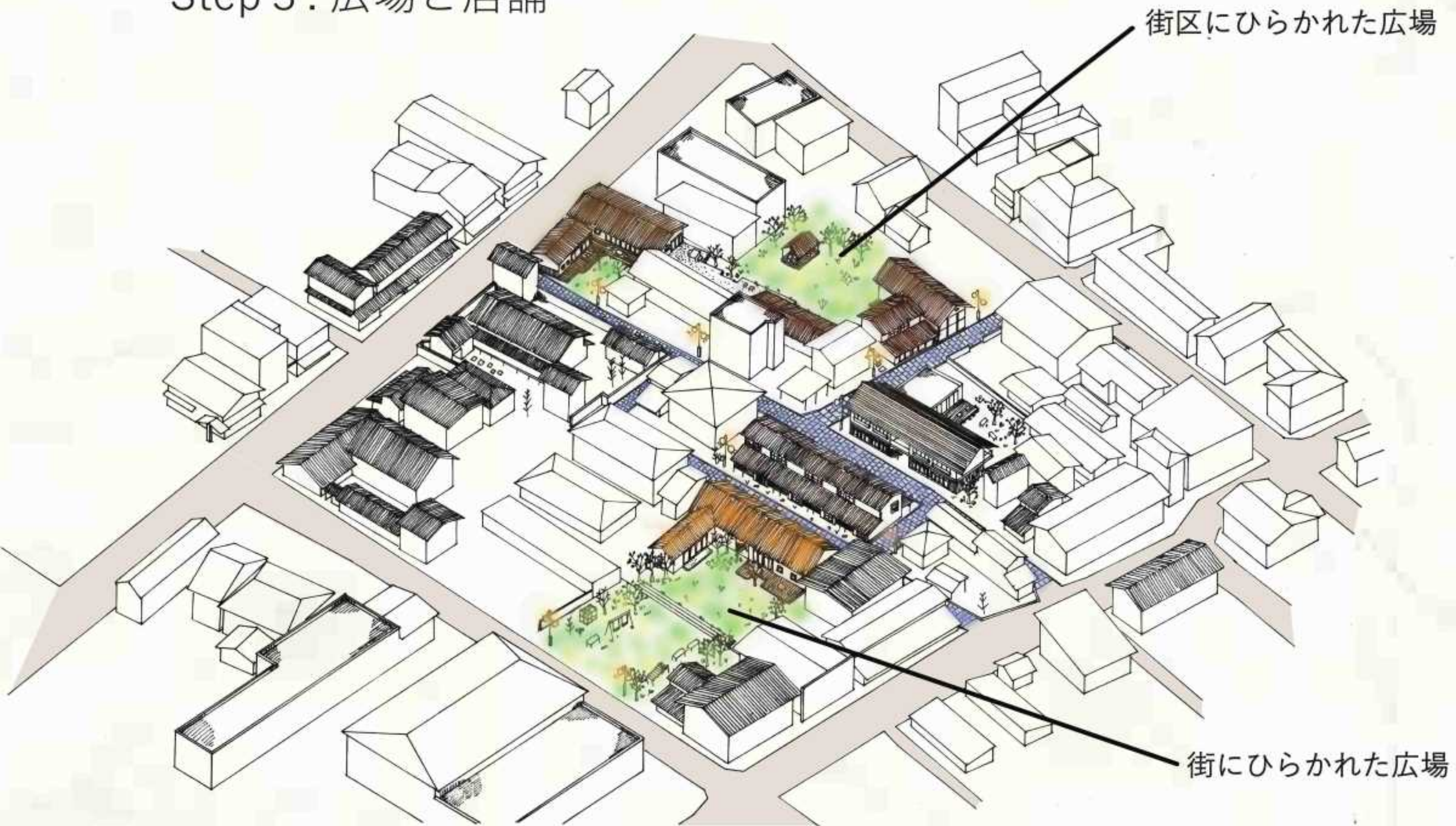
↓

長屋の対比

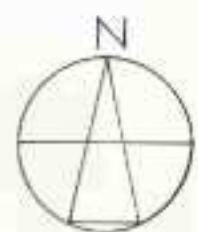


step2 足輕長屋個別的再生

Step 3: 広場と店舗



街区にひらかれた広場



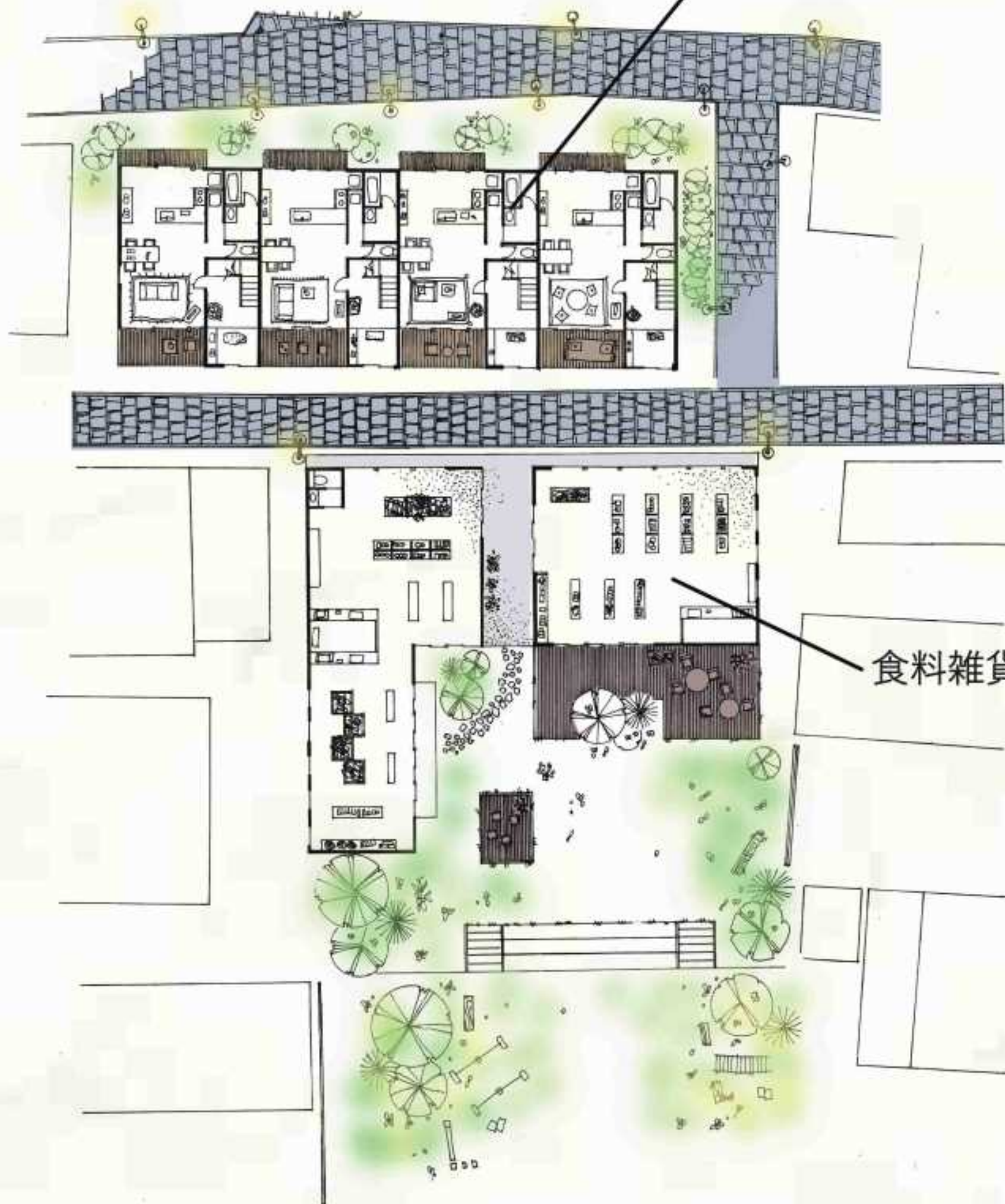
 :step2

 :step3

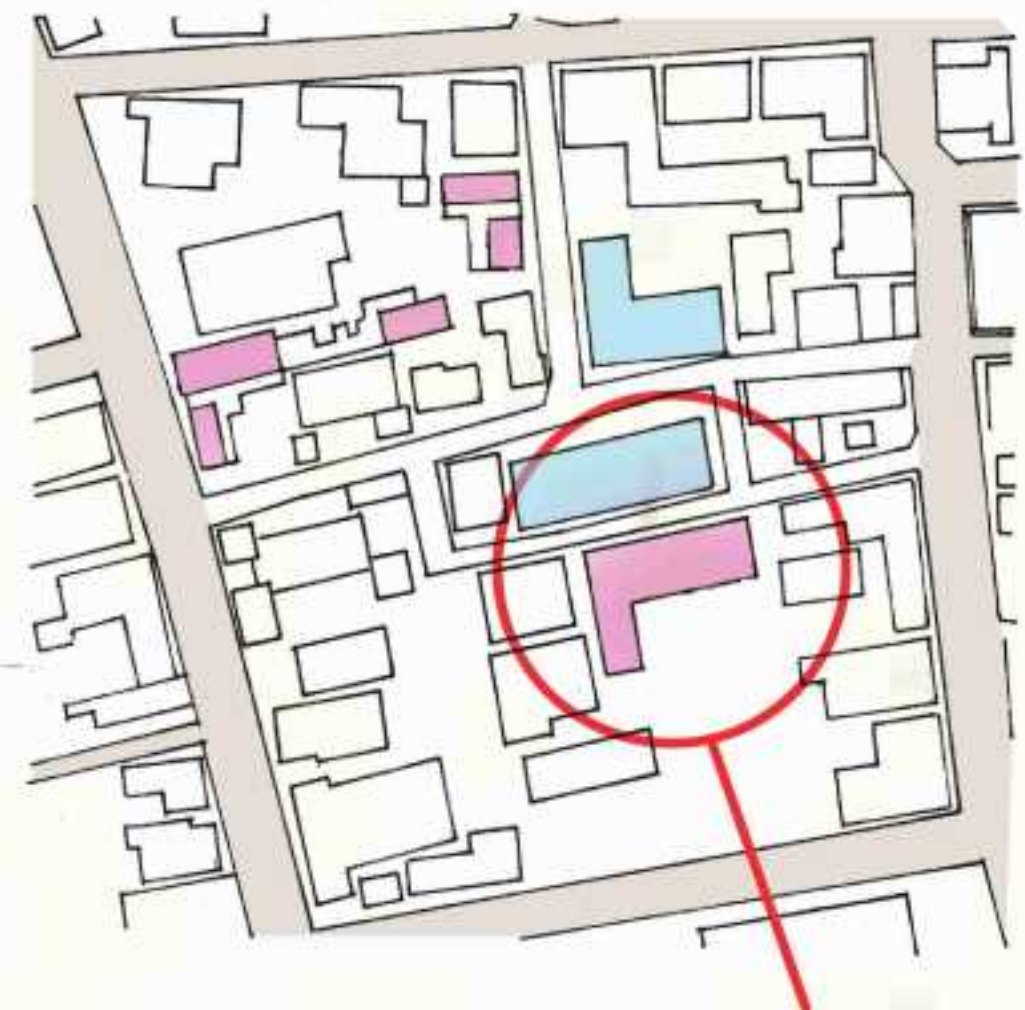


店舗の中を突っ切ったり、建物との間を縫うようにして見つけ出す広場は秘密基地のような要素も併せ持つ

家族向け集合住宅



食料雑貨店



:step2

街に開けた広場

:step3

小学生が広場の近くを通り、たまり場や遊び場を形成してゆく。広場は街区へのアプローチでもある。

完成形





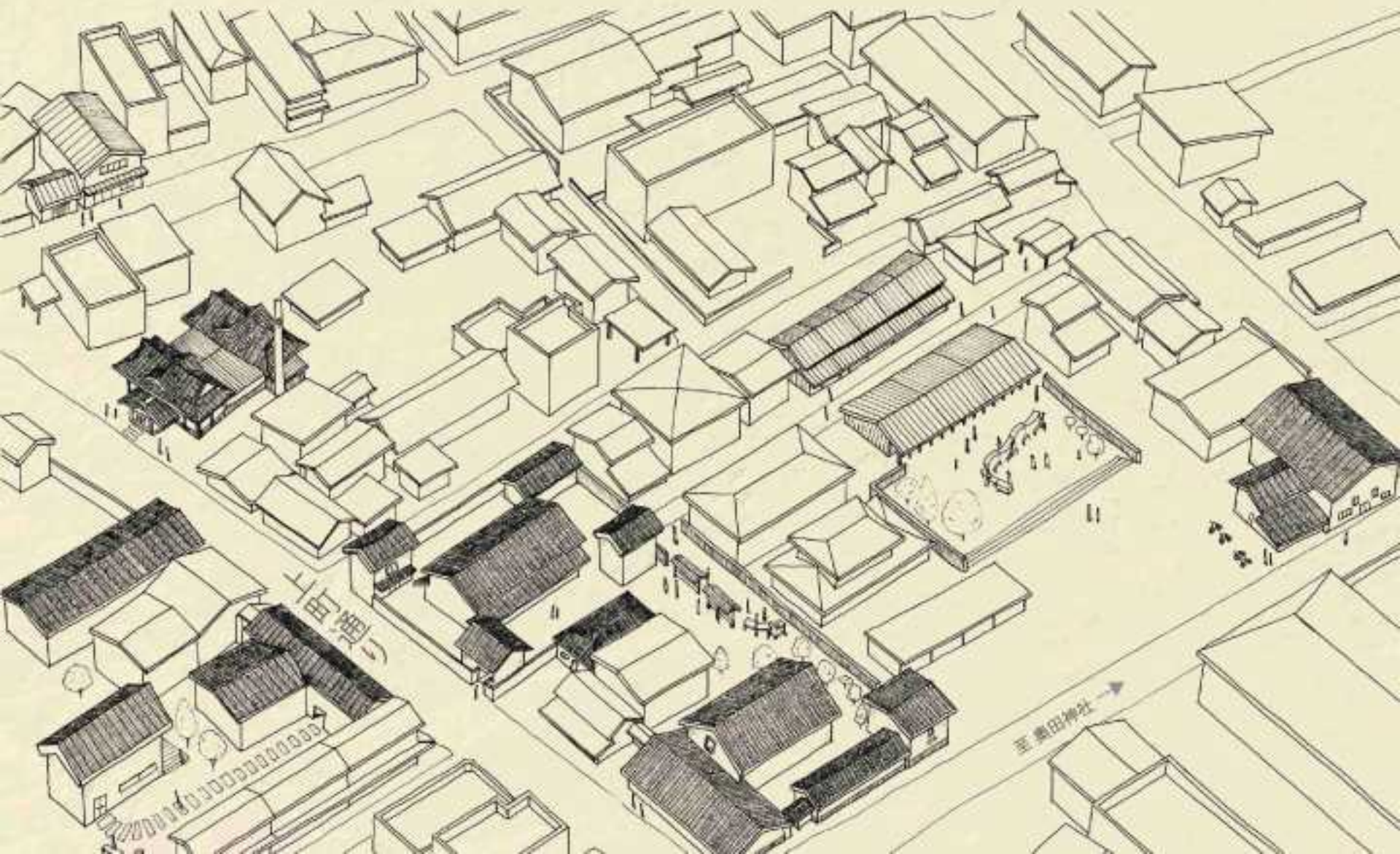
ご清聴ありがとうございました

まちやどプロジェクト

～ まち全体をひとつのヤドに～

徳州大学工学部建築学科3年

斉藤 知真



コンセプト

蔵や町屋など所々に古き良き町並みが残る須坂。

ここはもともと、製糸業で栄えた町。

町には繭を保管する蔵などが建ち並び、商いと生活が隣り合っていた。



蔵などが立ち並ぶ町並み



ふれあい館まゆぐら

コンセプト

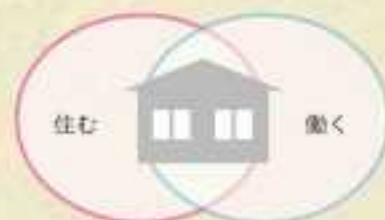
それが現在はシャッターが下りた店や空き家が目立つ。

仕事と生活が離れた場所で行われ、
かつてのような暮らしの豊かさが失われているように感じた。



シャッターが下りてしまった店

□むかし



□いま



暮らし方の変化

Step0 対象街区の現状

まちづくりとはひとづくり。

そのためにも、まずは町の人暮らしを豊かにしたい。

→ まちのニーズ = **暮らしの豊かさ**

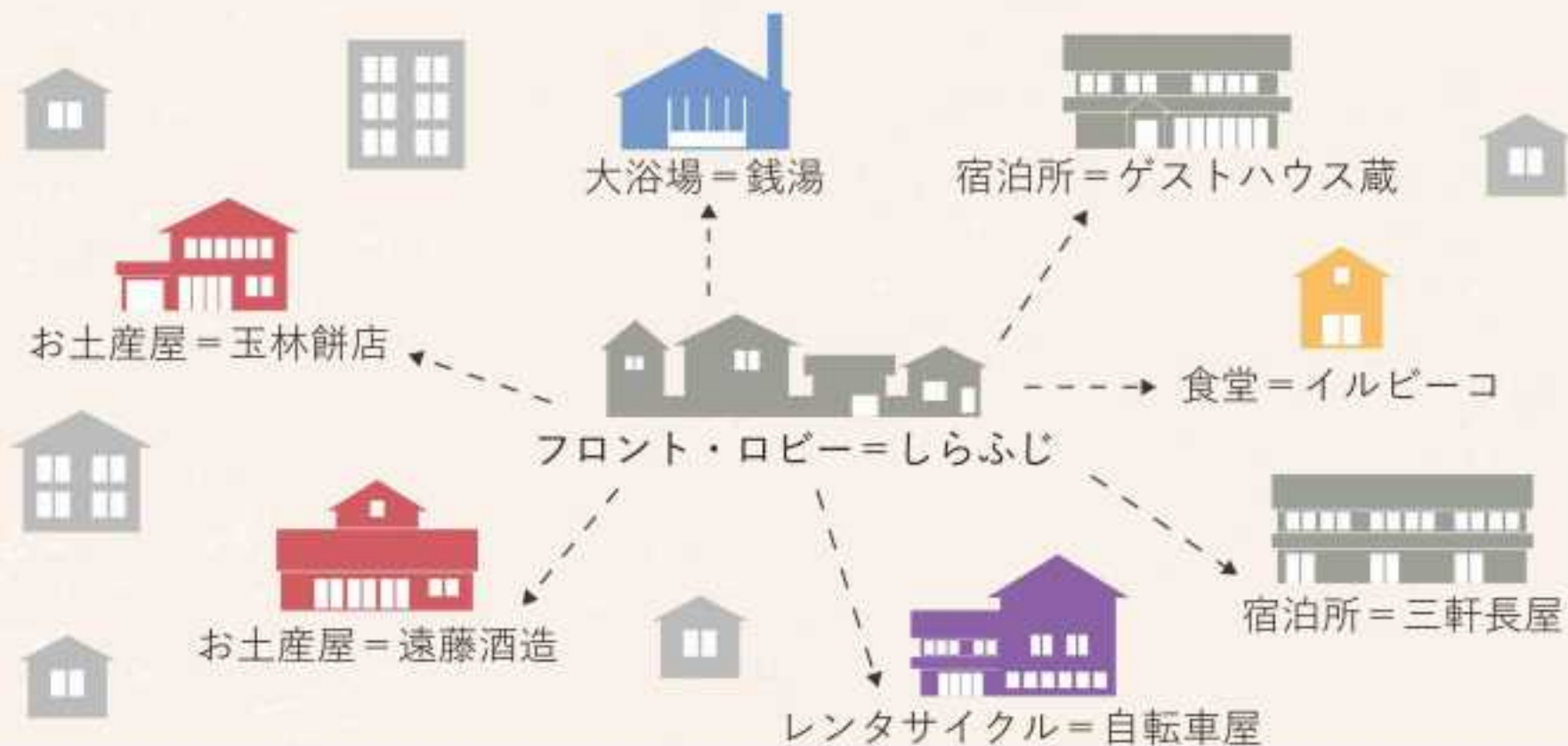


豊かな暮らし = **商いと生活が隣り合う暮らし**

まちやどプロジェクト

まちに宿泊所や大浴場などのヤド機能を散りばめることで、
まちの魅力を本当の意味で味わうための宿泊体験を提供する。

まち＝ヤド



まちやどプロジェクトの流れ

Step 0 対象街区の現状

まちのニーズを探る

Step 1 仮設的装置を用いた展開

既存要素と仮設的装置を掛け合わせたイベント

Step 2 仮設的空間から常設的空間

イベントの内容に因んだヤド機能をつくる

Step 3 新たなヤド機能の追加

元々町にはないヤド機能を新たにつくる

Step0 対象街区の現状

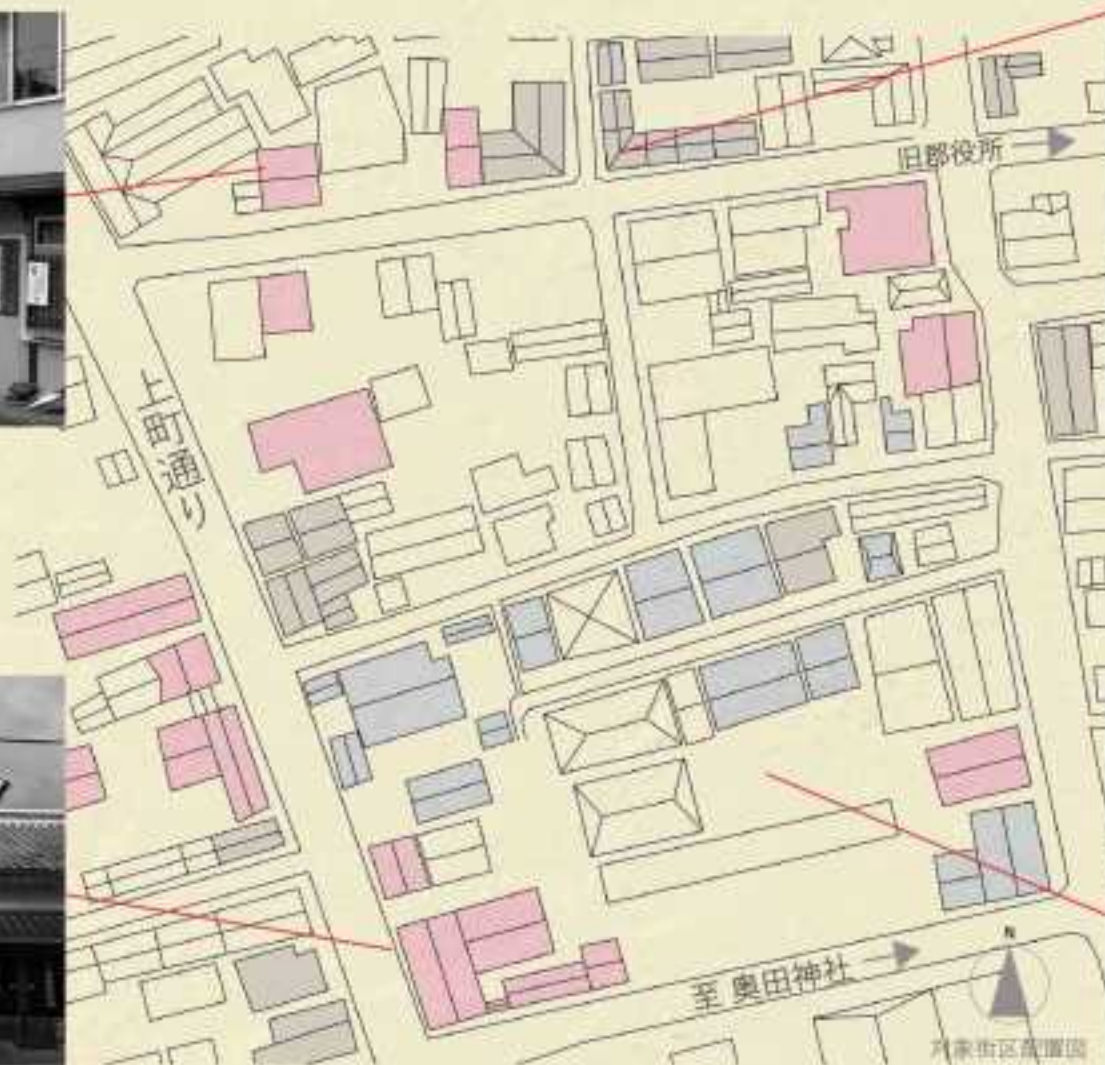
Step0 対象街区の現状



玉林餅店



遠藤酒造場



空き家



空き地

■ 店舗

■ 古い建物

■ 空き家

Step1 仮設的装置を用いた展開

Step1 仮設的装置を用いた展開



イベント



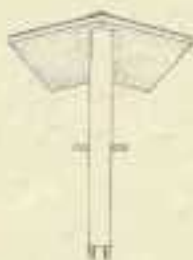
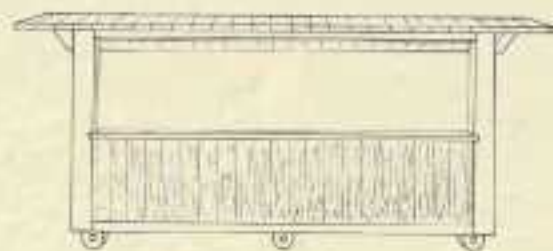
Step1 仮設的装置を用いた展開



既存施設
→ 遠藤酒造場

×

×



仮設的装置
→ 移動式カウンター

Step1 仮設的装置を用いた展開



日本酒と料理を提供する日本酒ガーデン

Step1 仮設的装置を用いた展開

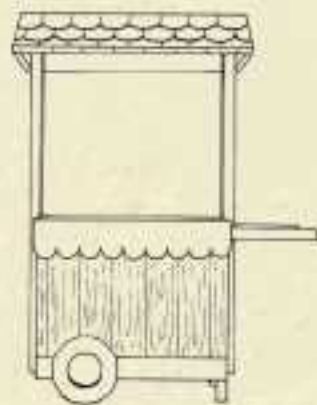


既存施設
→ 玉林餅店



×

×



仮設的装置
→ 移動式屋台

Step1 仮設的装置を用いた展開



道ばたで和菓子やお茶を提供する野外茶屋

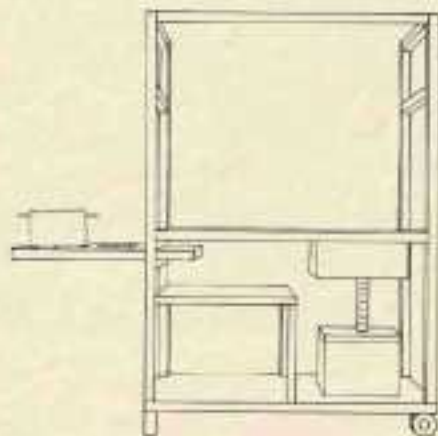
Step1 仮設的装置を用いた展開



個人の趣味
→料理好きな人

×

×



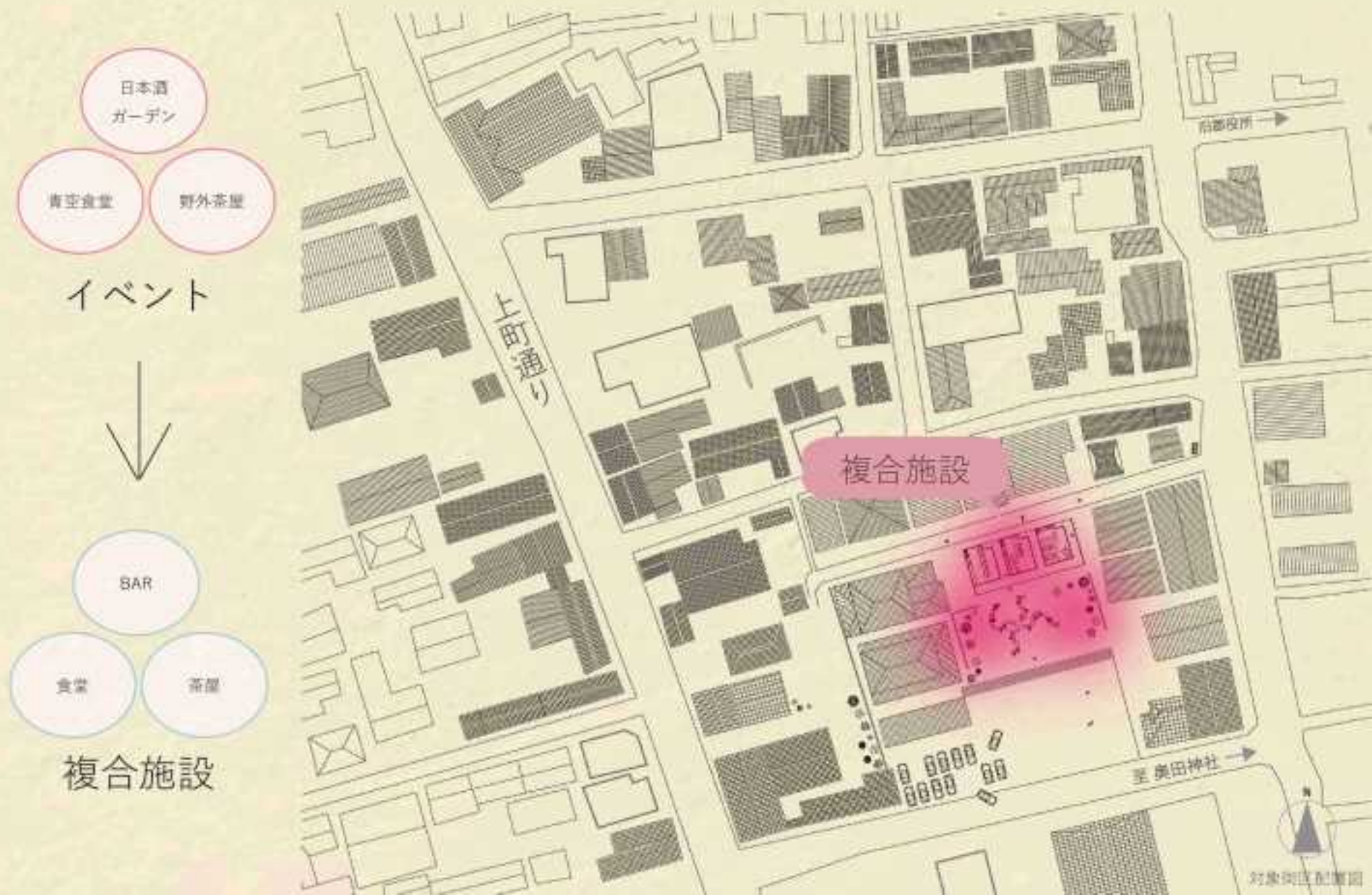
仮設的装置
→移動式キッチン

Step1 仮設的装置を用いた展開



Step2 仮設的空間から常設的空間への展開

Step2 仮設的空間から常設的空間



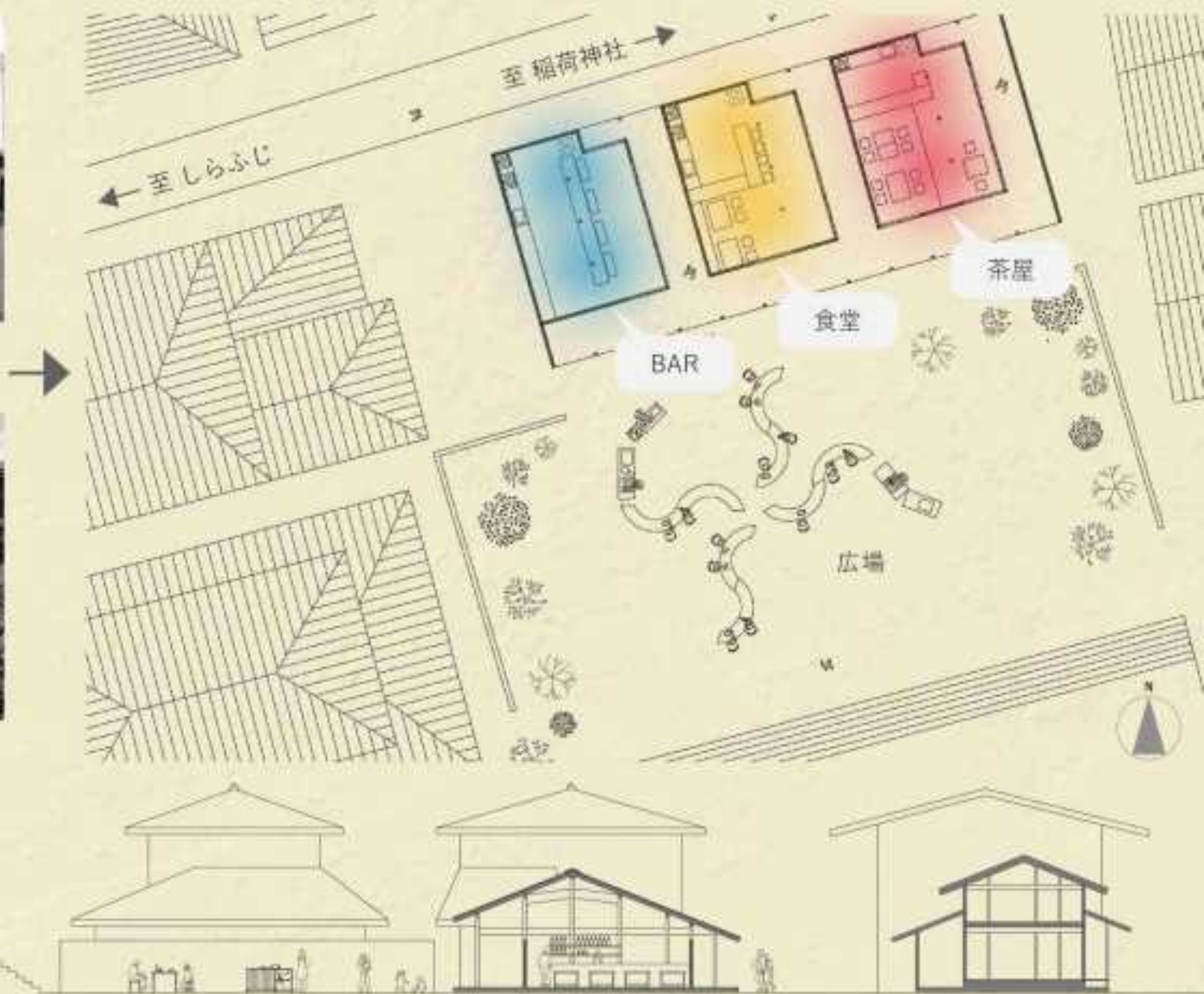
Step2 仮設的空間から常設的空間



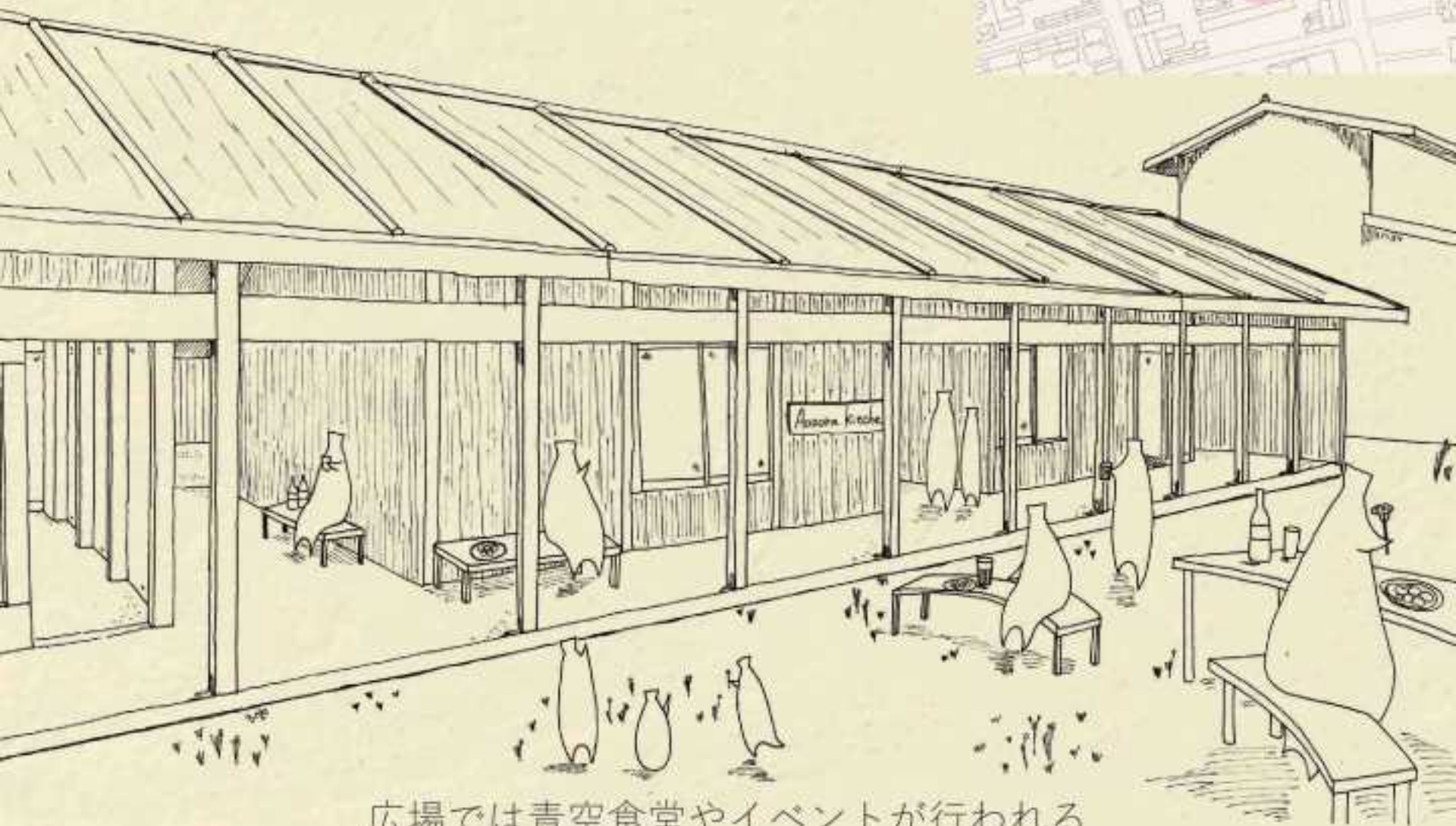
三軒長屋



空き地



Step2 仮設的空間から常設的空間



広場では青空食堂やイベントが行われる

Step3 新たなヤド機能の追加

Step3 新たなヤド機能の追加

新たなヤド機能

宿泊所
||
三軒長屋

大浴場
||
銭湯

レンタサイクル
||
自転車屋

銭湯

宿泊所

自転車屋

旧郡役所

奥田神社

Step3 新たなヤド機能の追加



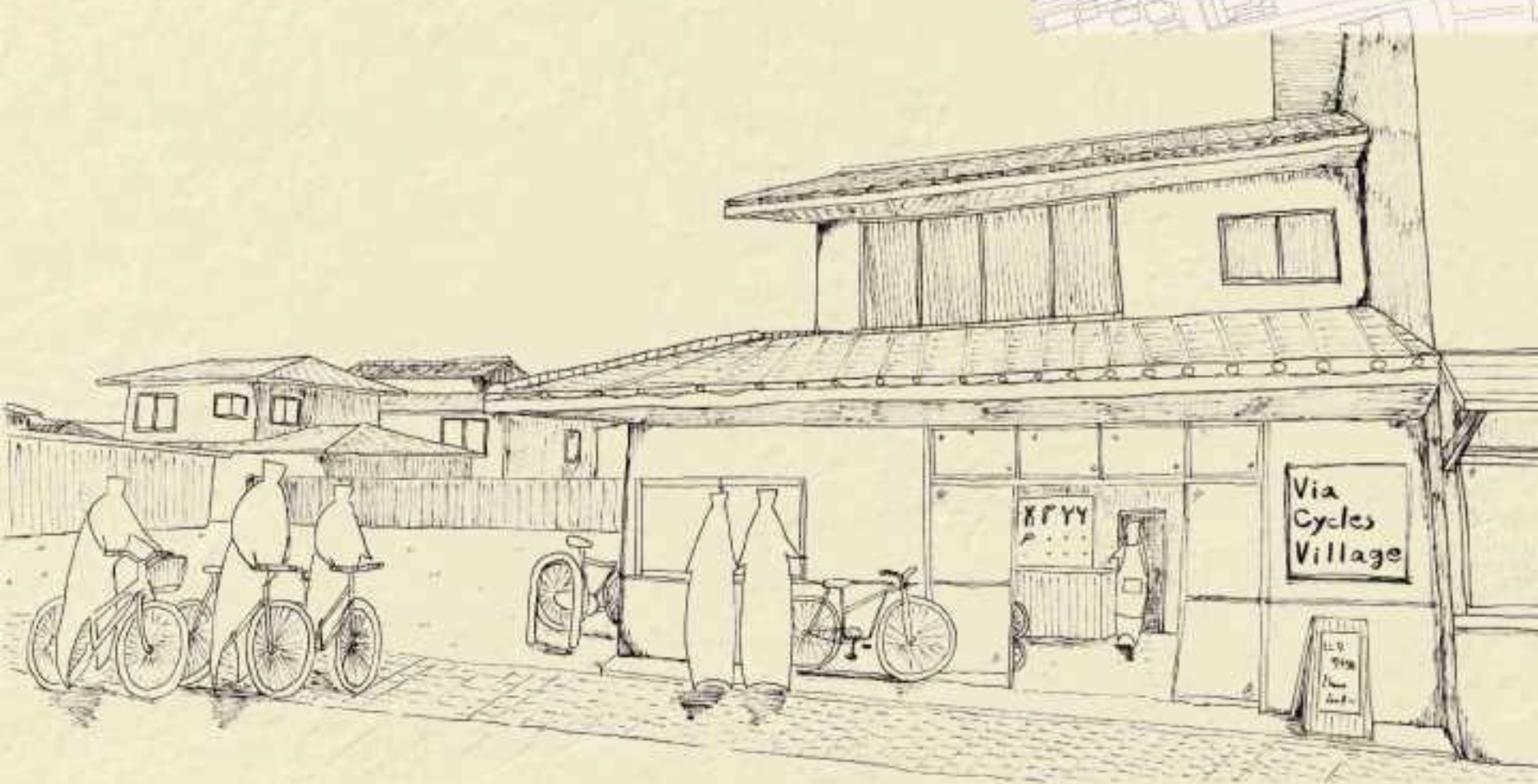
かつての三軒長屋は家単位で泊まれる宿泊所になる

Step3 新たなヤド機能の追加



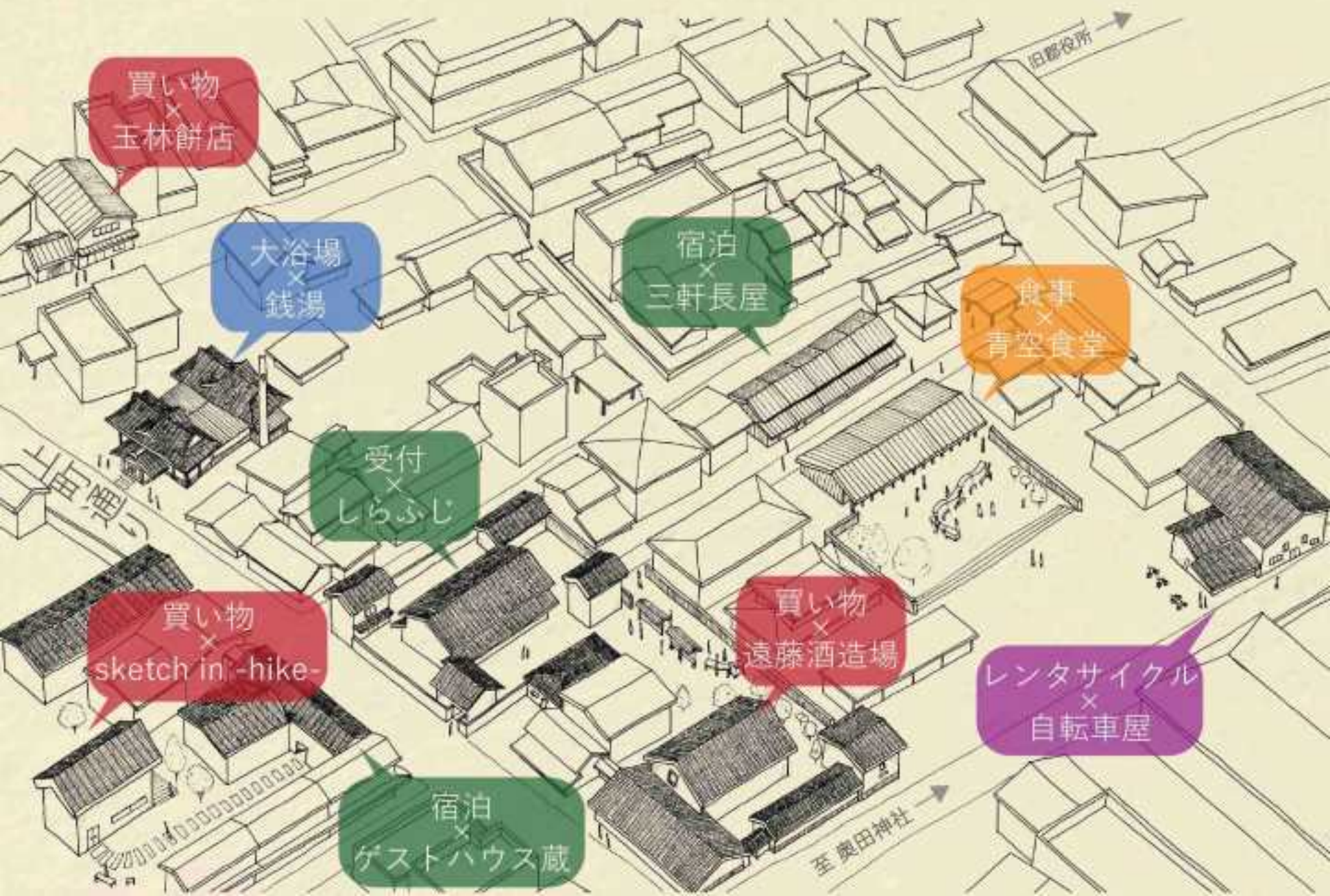
銭湯はまちやどの大浴場となり宿泊客や住人が訪れる

Step3 新たなヤド機能の追加



自転車屋のレンタサイクルで宿泊客は須坂を探索する

まち全体がヤドになっていく...



旧郡役所

買い物
×
玉林餅店

大浴場
×
銭湯

宿泊
×
三軒長屋

食事
×
青空食堂

受付
×
しらふじ

買い物
×
sketch in -hike-

買い物
×
遠藤酒造場

レンタサイクル
×
自転車屋

宿泊
×
ゲストハウス蔵

至 奥田神社

上町通り

ご静聴ありがとうございました。

民家の再生

信州大学工学部建築学科
建築設計製図Ⅳ 課題

課題内容

須坂の町家を再生せよ

- ・ 2世帯以上の家族が住まうことのできる集合住宅（1家族：3人以上）
- ・ まちのニーズに対応した機能を含めること（店舗や公共施設など）
- ・ なるべく既存を活かし、大規模な増築はしないこと。
ただし、古いものにこだわりすぎない。

対象建物：ふれあい館しらふじ



対象建物：ふれあい館しらふじ



聞き取り風景



実測内容



●実測内容

- ・配置図、隣地関係
- ・主屋・洋館

平面図

立面図(全面)

矩計図(直行2面)

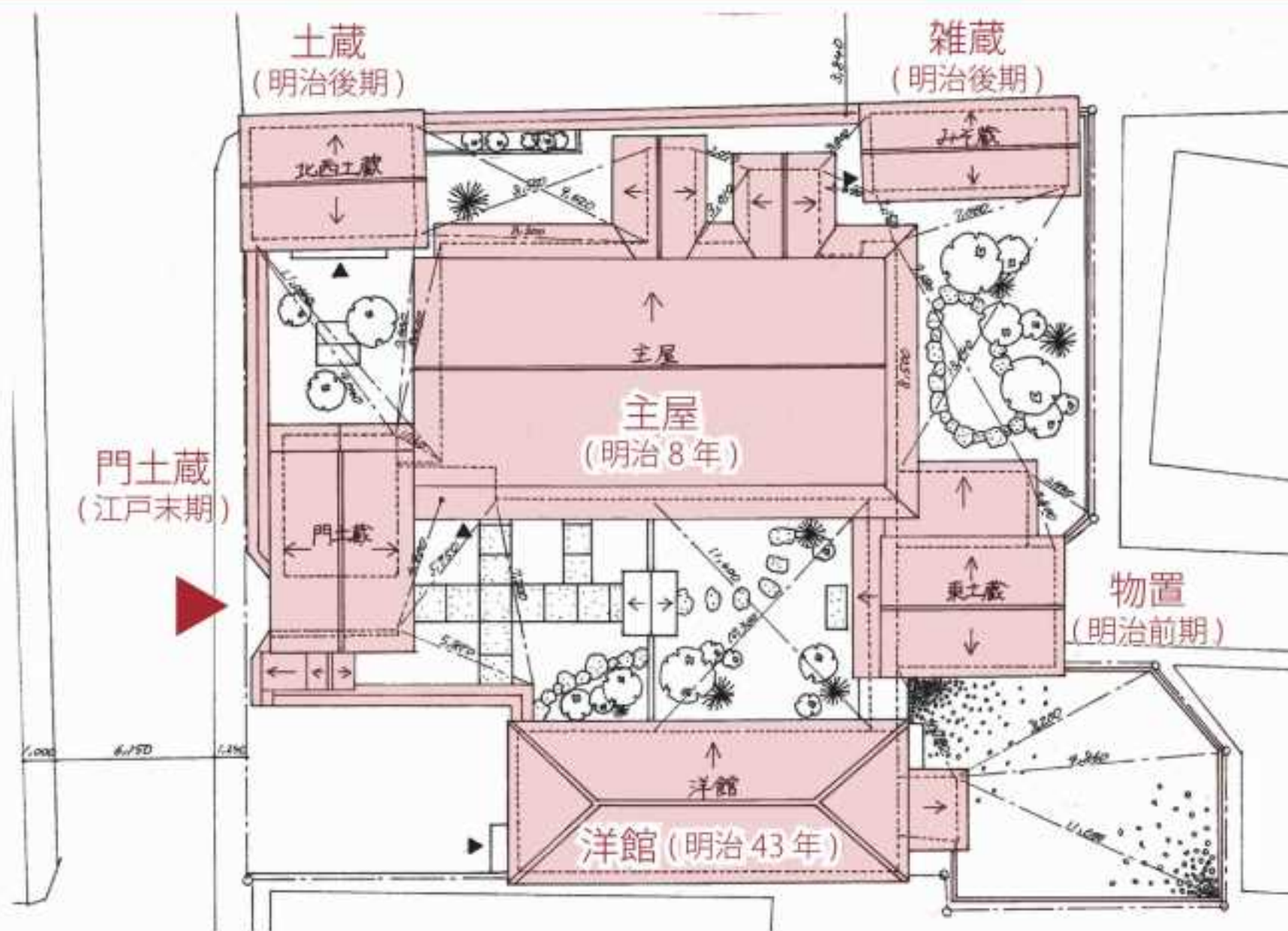
小屋伏せ図(主屋のみ)

- ・土蔵4棟

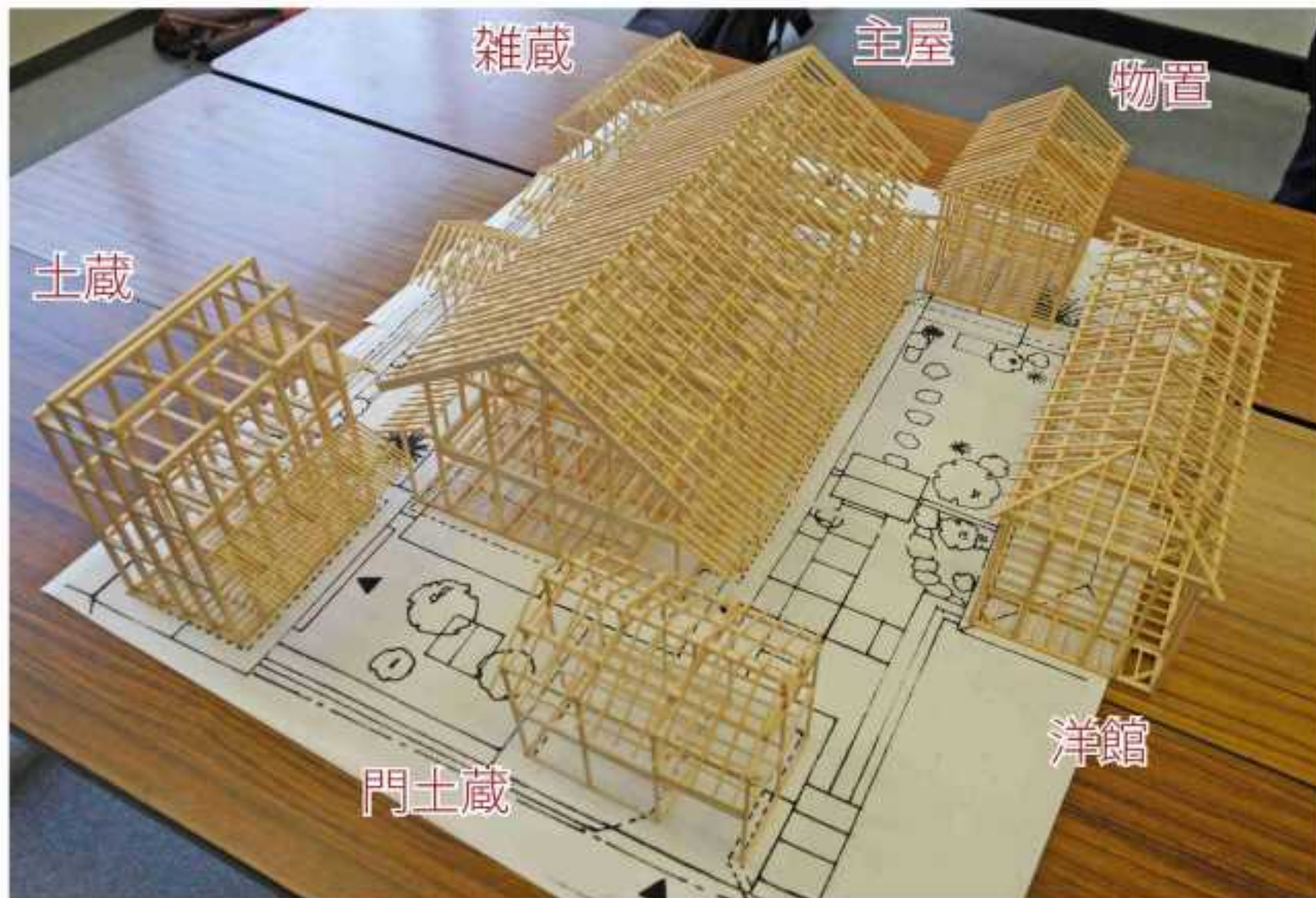
平面図

断面図

実測図面：配置図



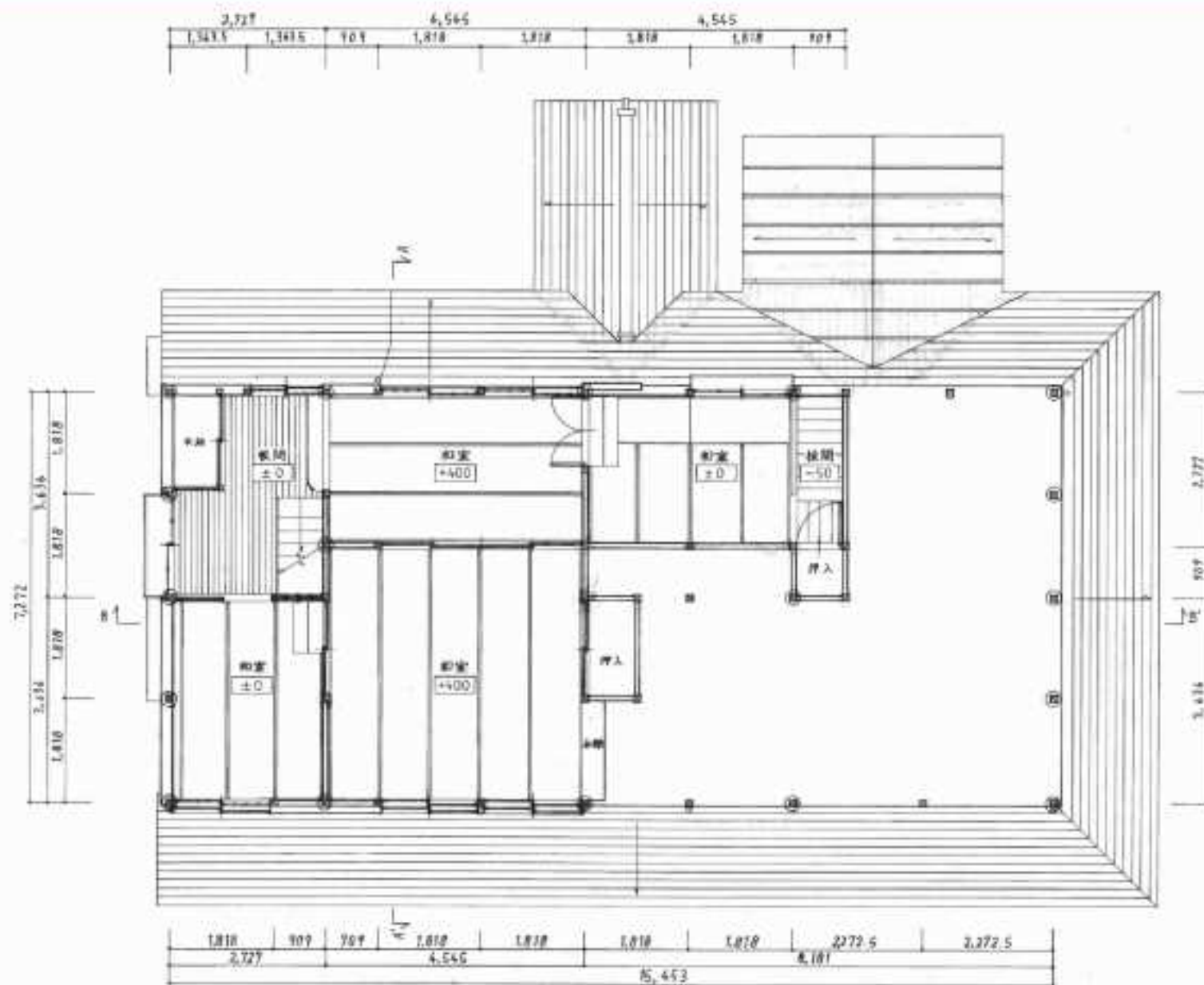
架構模型



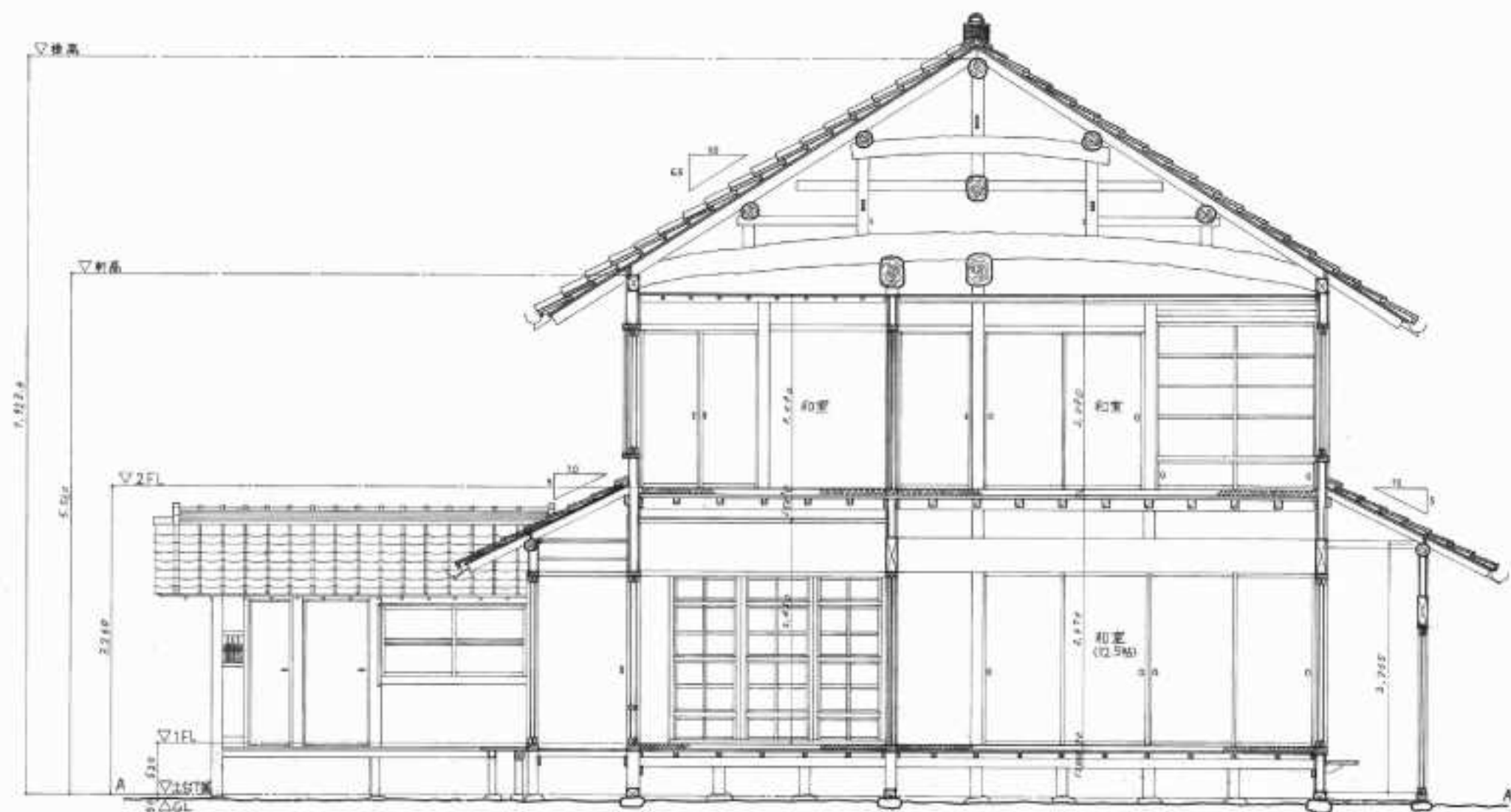
実測図面：主屋 平面図（一階）



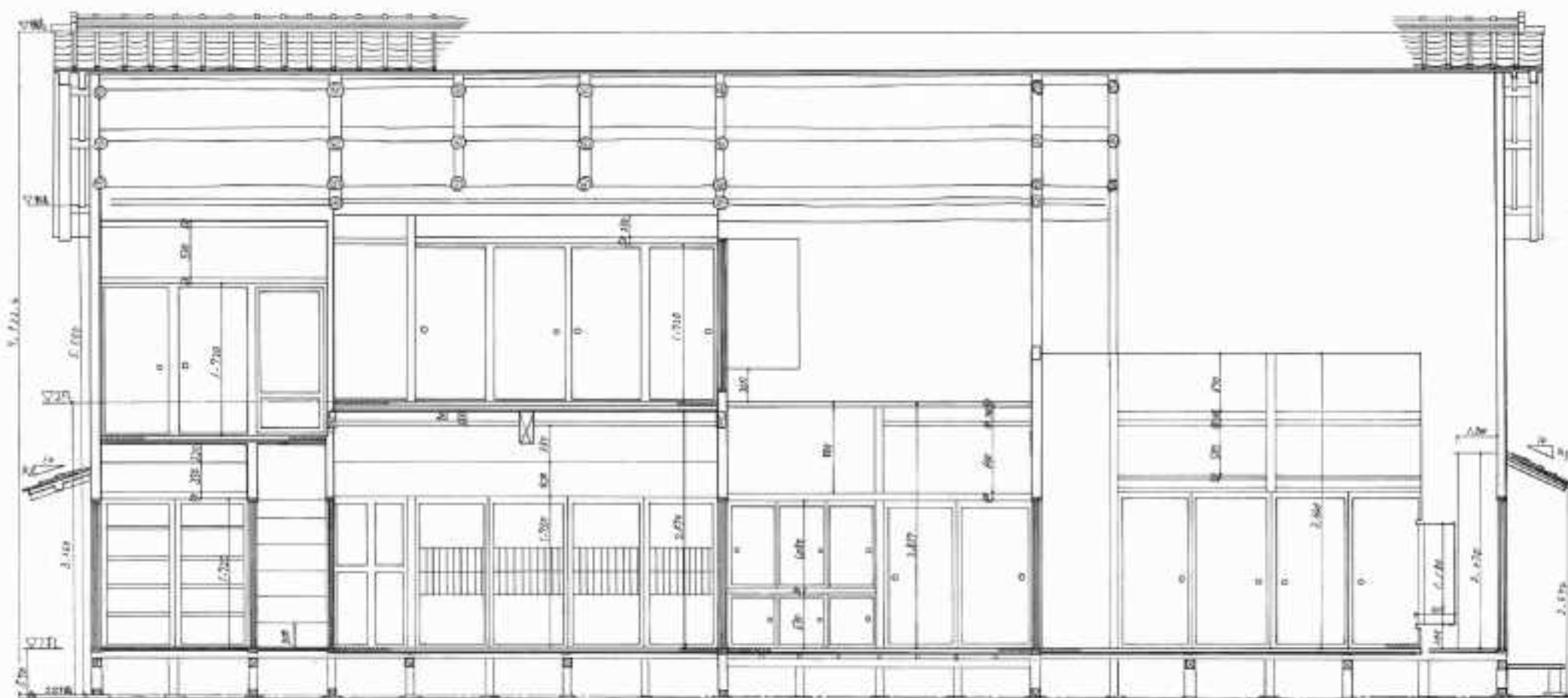
実測図面：主屋 二階平面図



実測図面：主屋矩計図（梁間）



実測図面：主屋 矩計図（矩計図）



実測図面：主屋 立面図



北立面図



西立面図

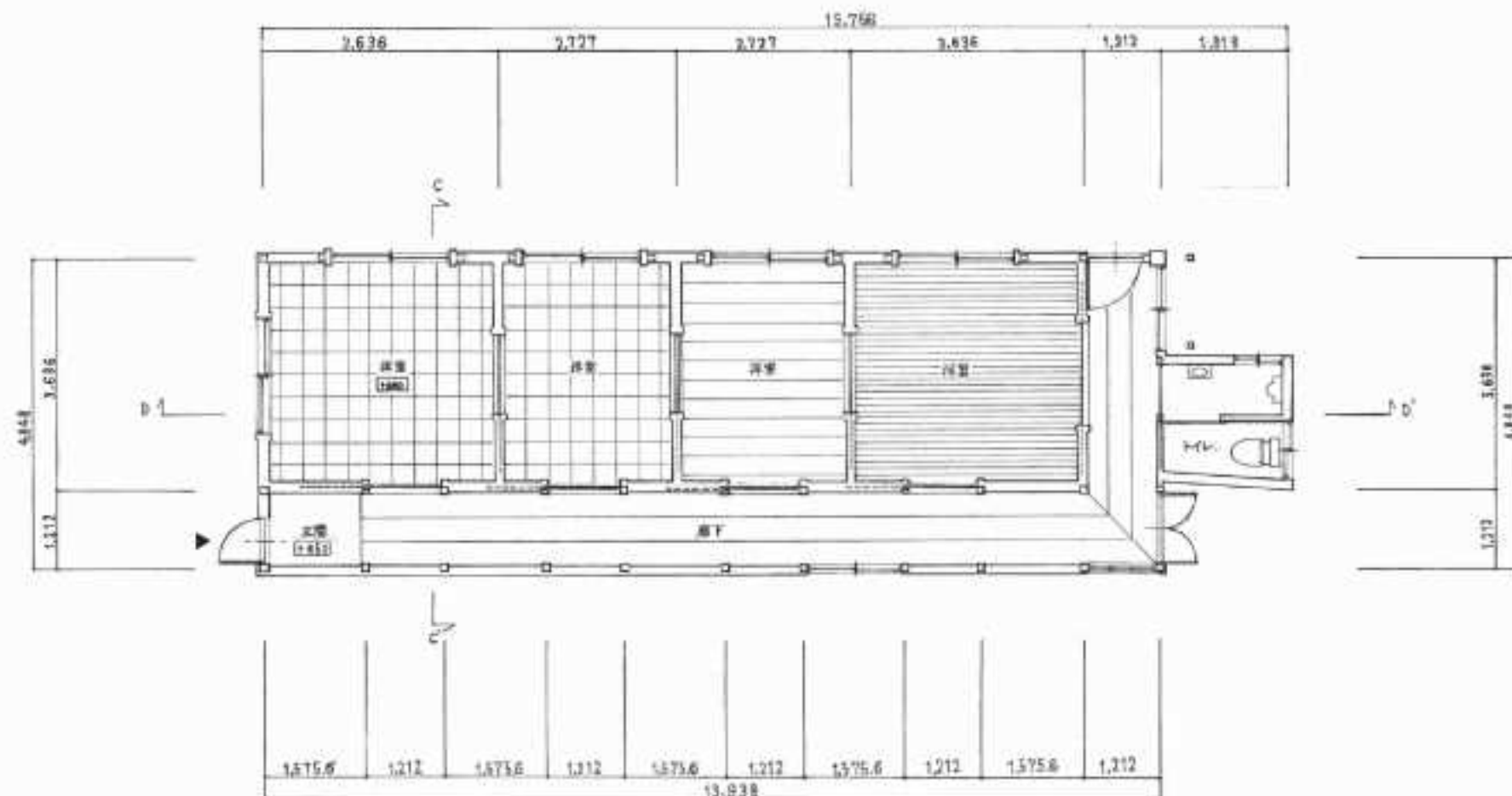


南立面図

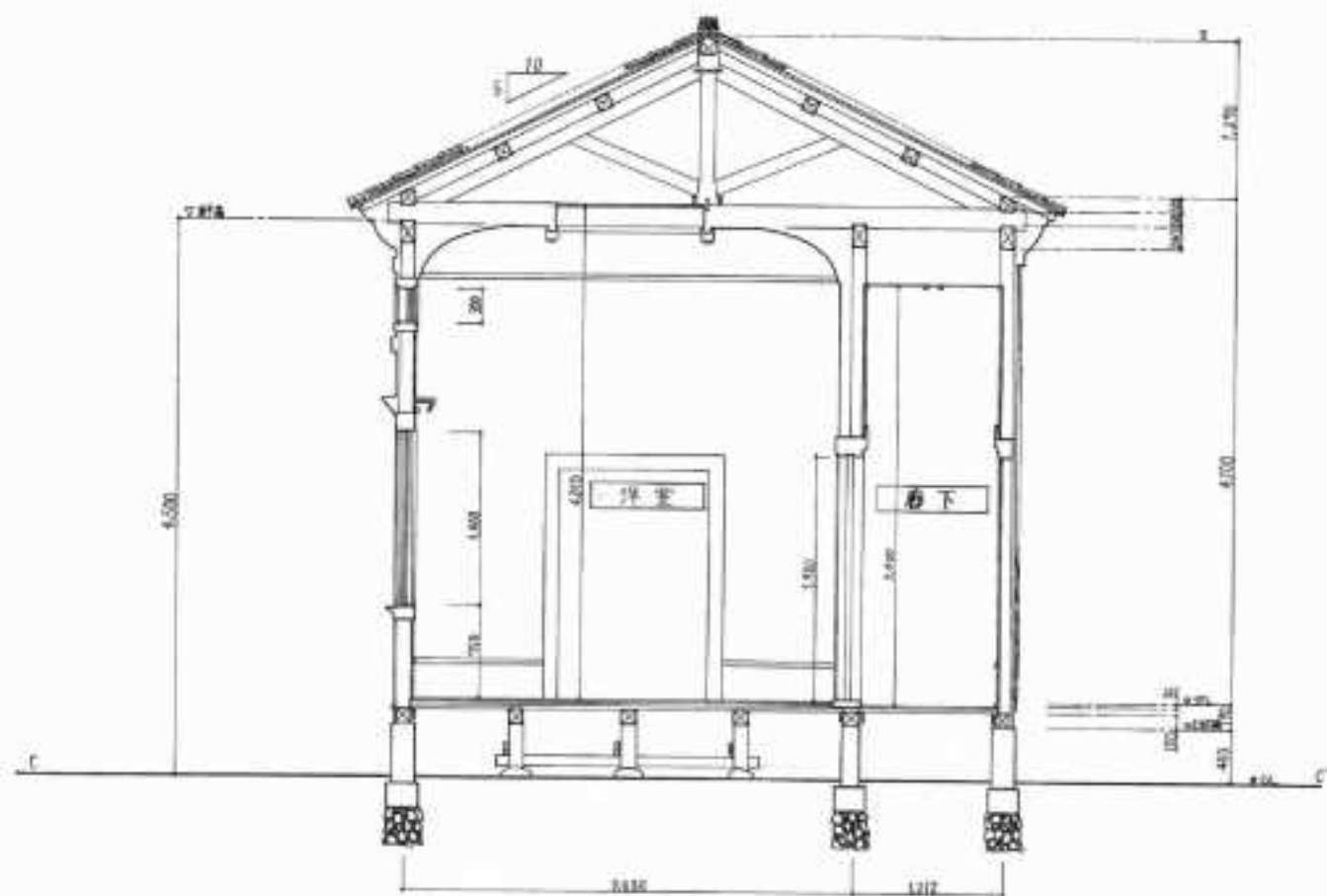


東立面図

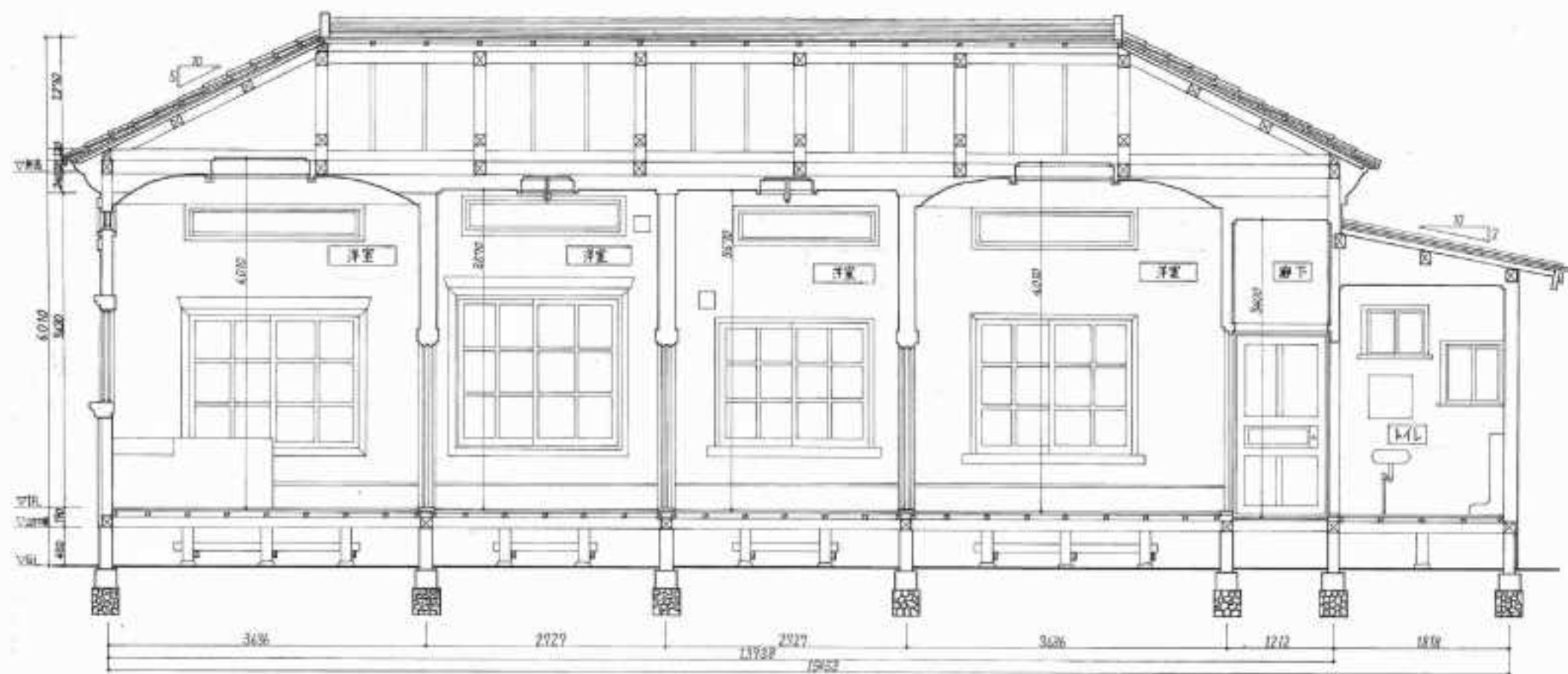
実測図面：洋館 平面図



実測図面：洋館 短手矩計図



実測図面：洋館 長手矩計図



実測図面：洋館 立面図



北立面図

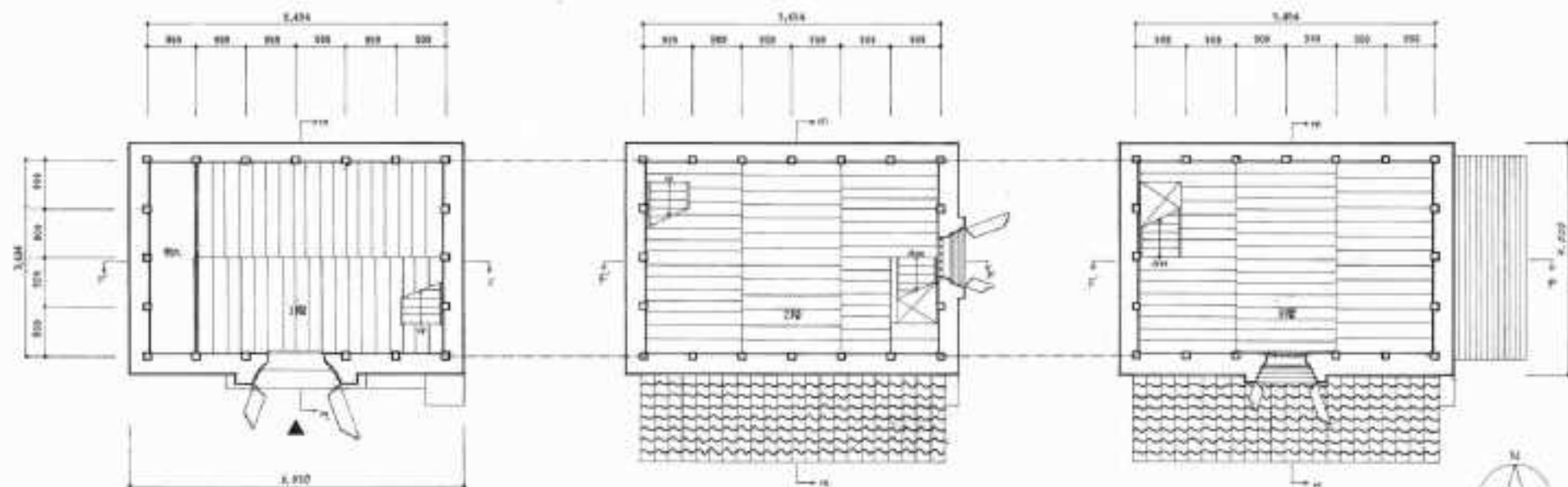
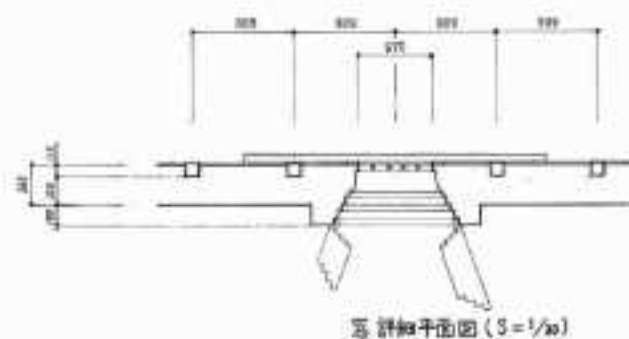
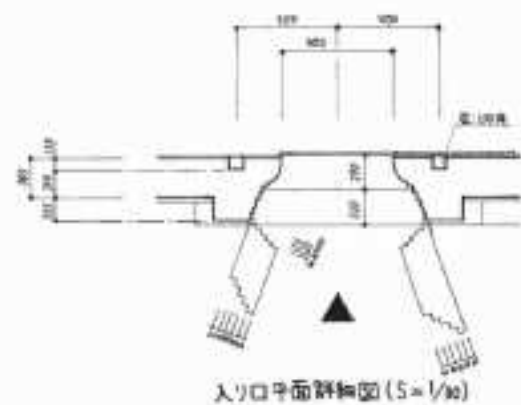


東立面図

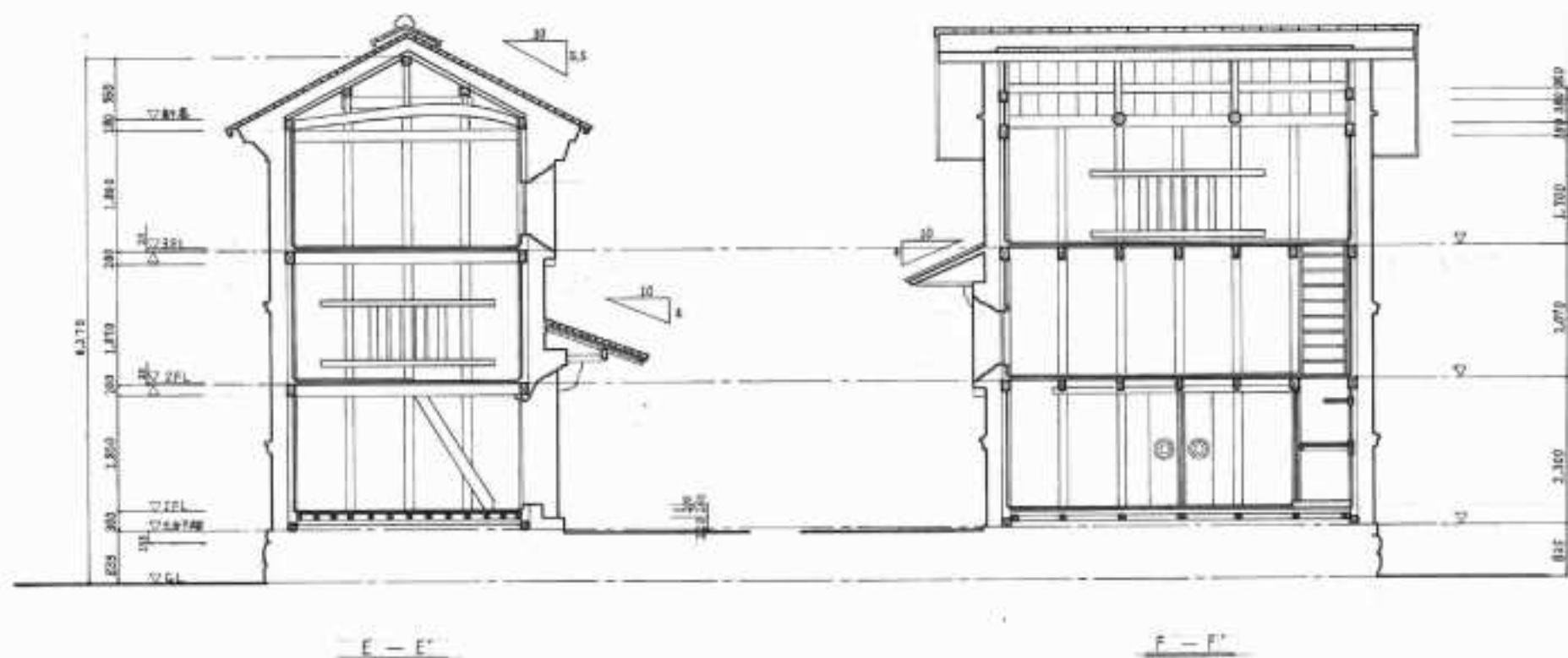


西立面図

実測図面：北西土蔵 平面図



実測図面：北西土蔵 断面図





「すざか暮らし」を始める家族へ

～地域愛・家族愛をはぐくむまちへの提案～

スローライフに憧れて地方に移り住む人 増

- ・夫婦のセカンドライフとして

しかし

- ・子連れのファミリーには難しい



須坂なら
子育てがしやすい環境



- ・美しく 自然豊か
- ・地の食材を新鮮なうちに頂ける
- ・まちの人の温かさ



周辺環境



須坂に移住したいファミリー

家族で移り住む第一歩にしたい！

今、須坂に住んでいる子育て世代

小さい子連れで気兼ねなく
おしゃべりできるお店が少ない！



建築的操作 + 須坂の住みやすさ
人の温かさ



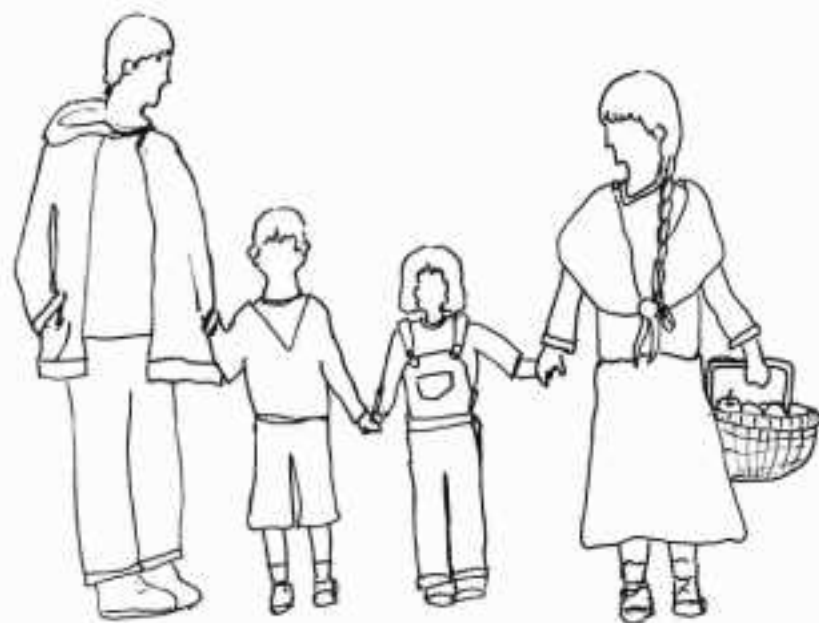
地域貢献しつつ地域に溶け込む生活

須坂をもっと子育てしやすいまちに

すざか愛・家族愛 あふれる 「すざか暮らし」の提案

設定

地産地消のレストランを開く世帯：A



父 子 子 母



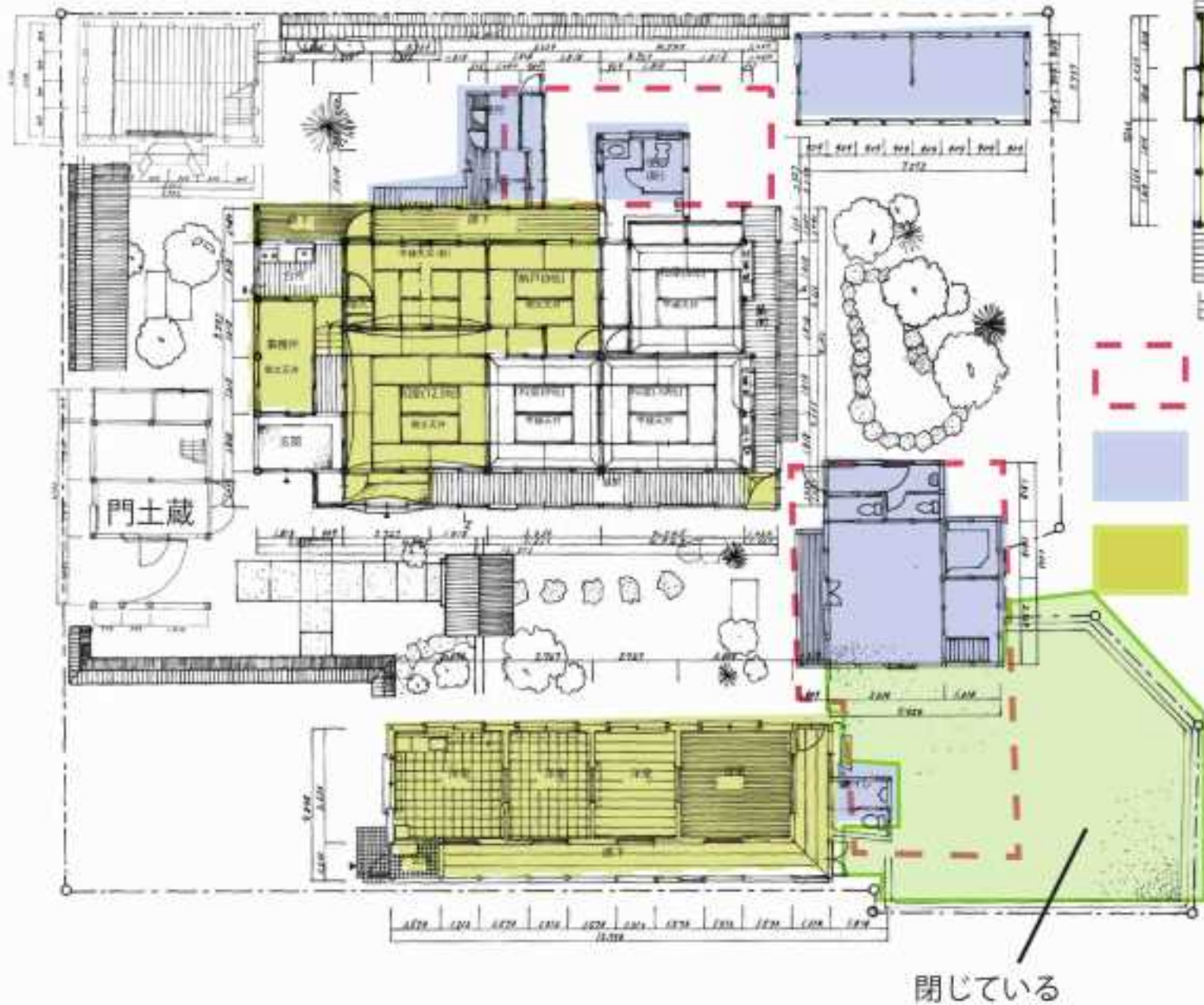
地酒を提供するバーを開く世帯：B



母 子 父



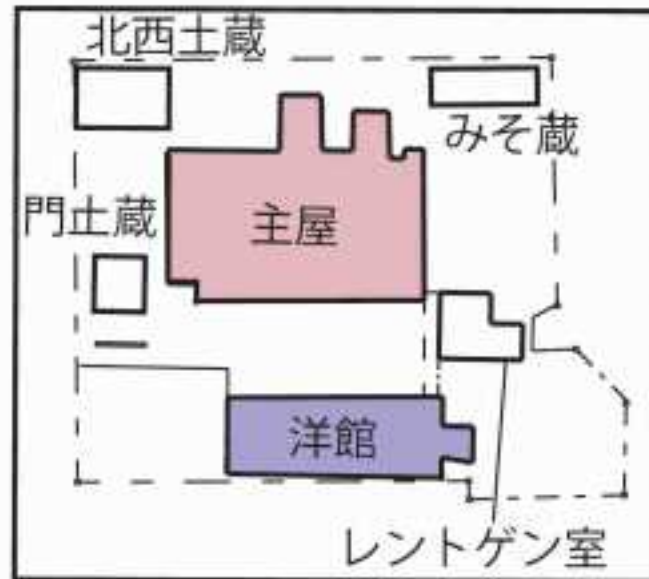
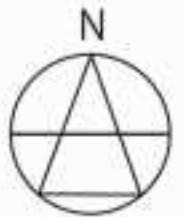
既存からの変化



:增·新築

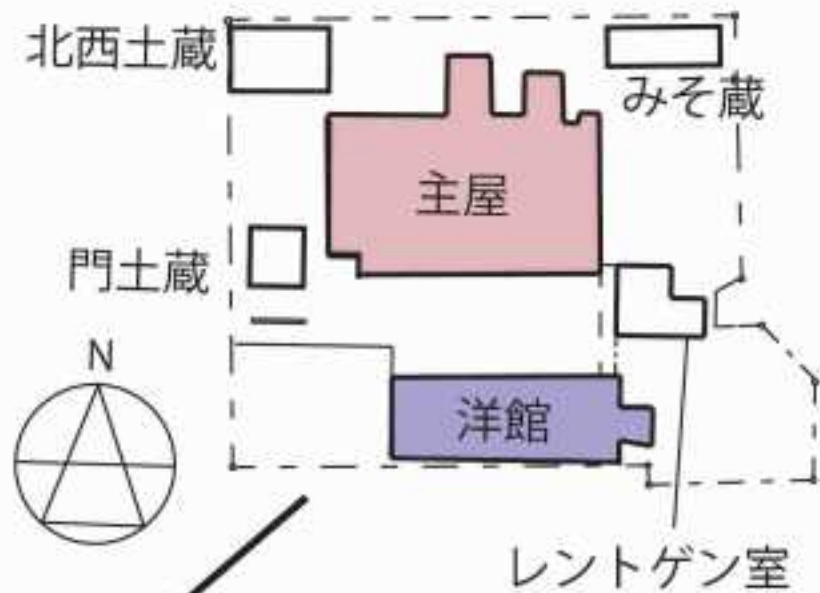
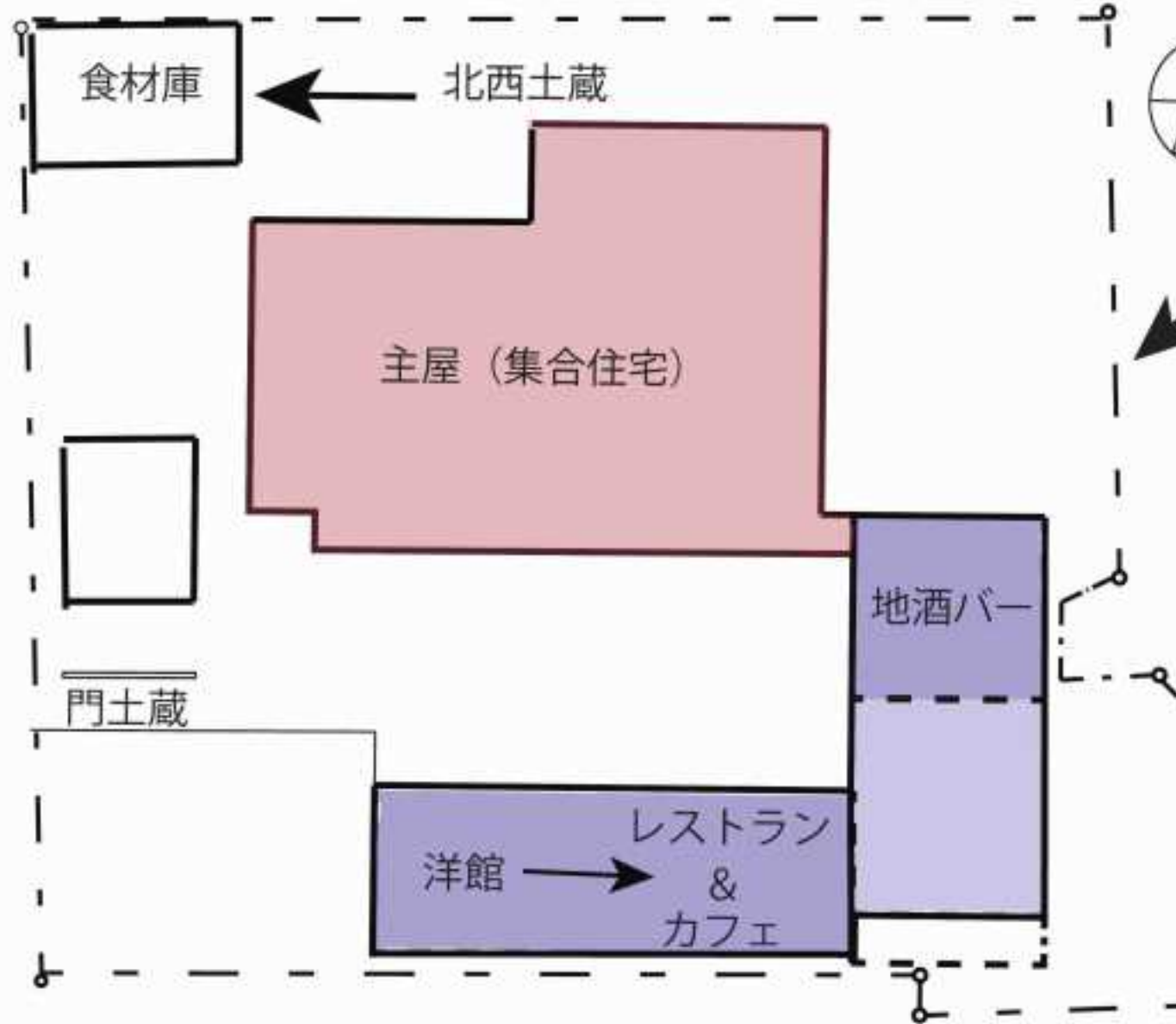
：減築

：手を加える



閉じている

改修後 用途変更



須坂でとれた食材
須坂で作られたお酒

ふれあい館しらふじ

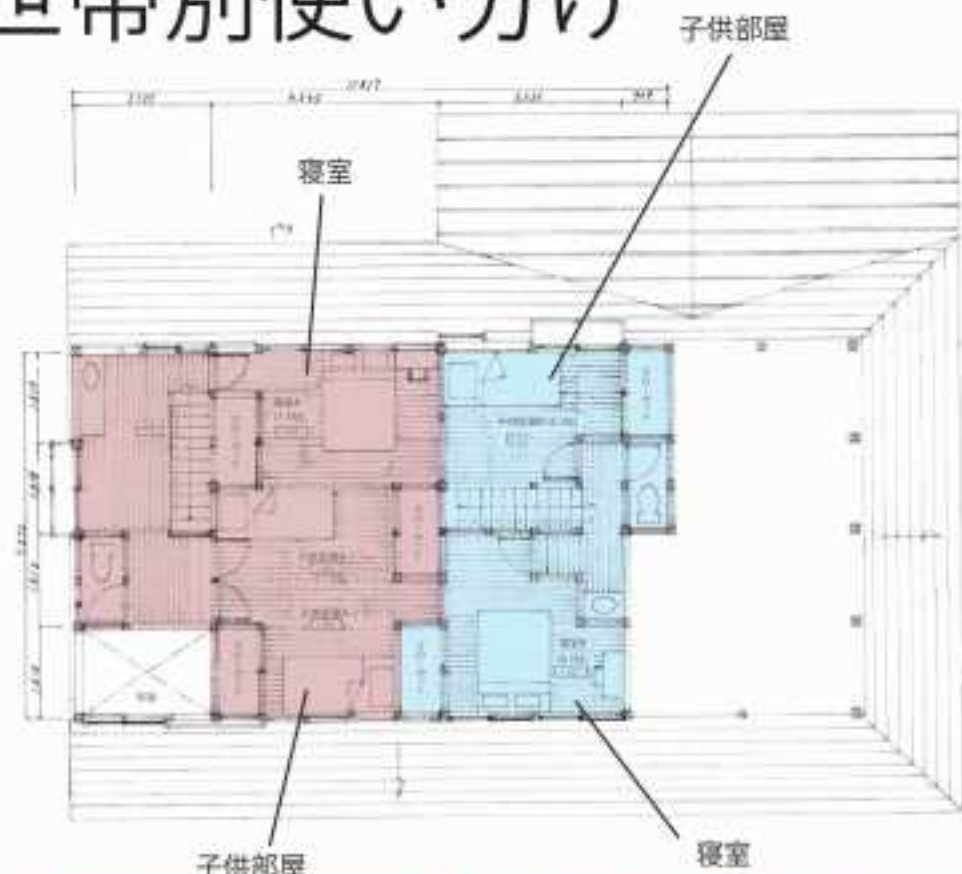
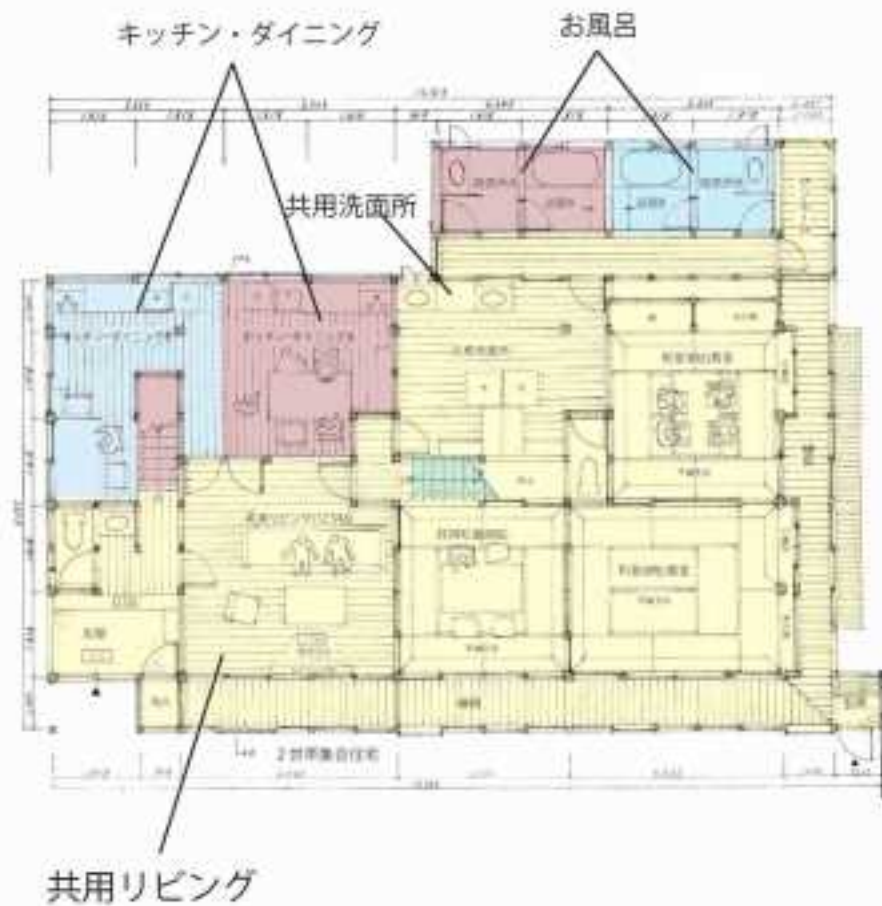
食材庫

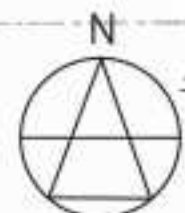
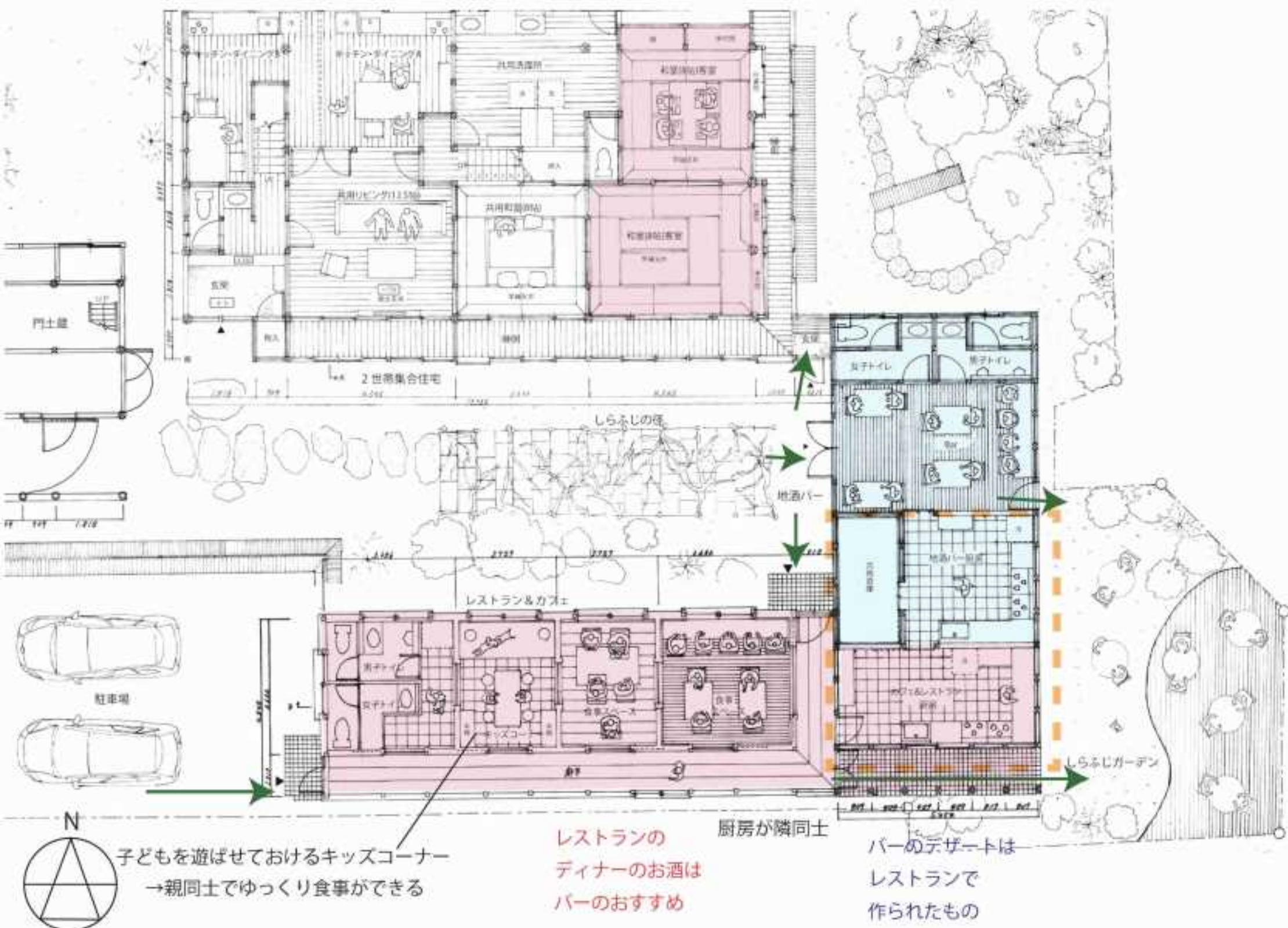
レストラン & カフェ

地酒バー



改修後主屋 世帯別使い分け



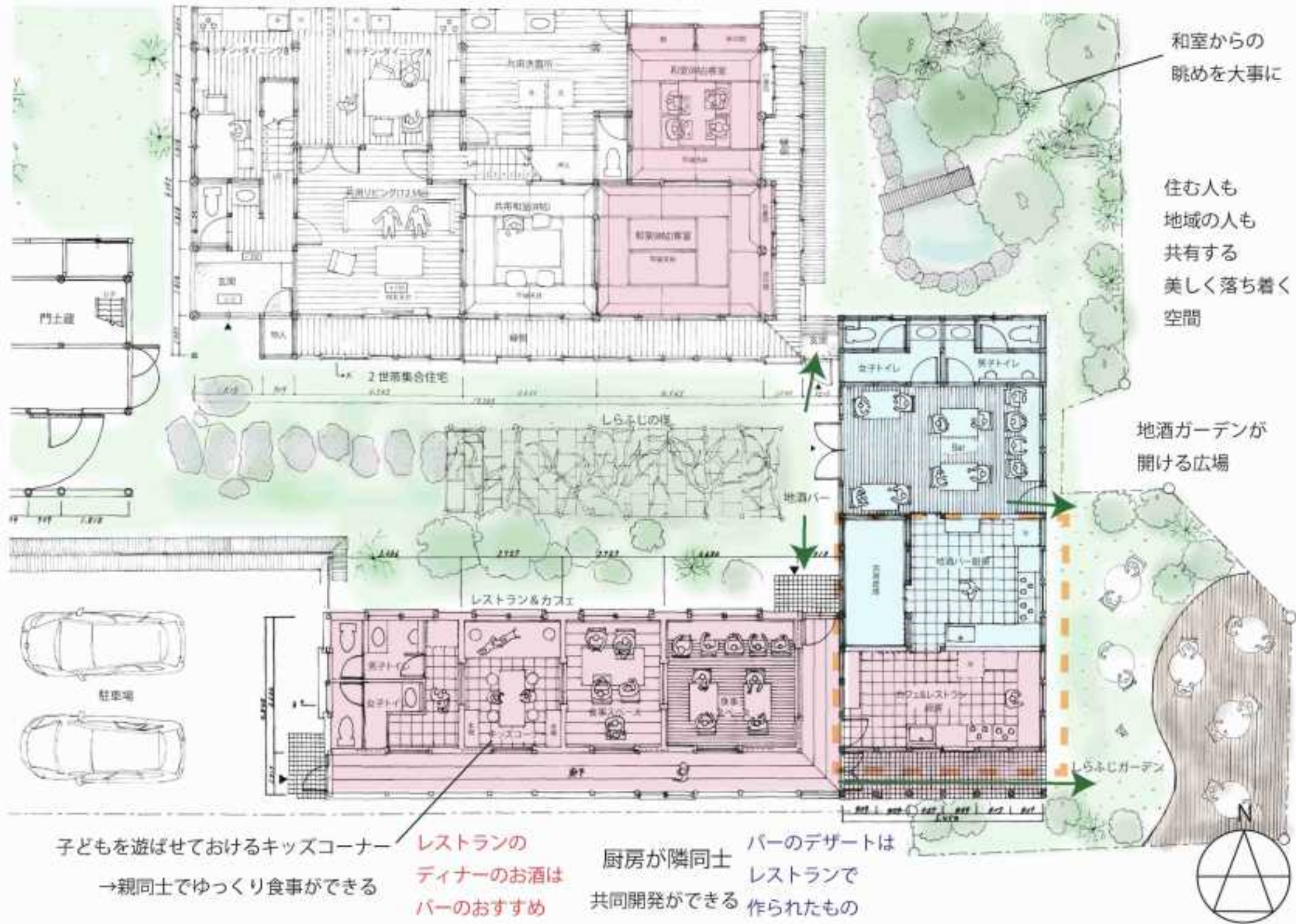


子どもを遊ばせておけるキッズコーナー
→親同士でゆっくり食事ができる

レストランの
ディナーのお酒は
バーのおすすめ

厨房が隣同士

バーのデザートは
レストランで
作られたもの



和室からの眺めを大事に

住む人も
地域の人も
共有する
美しく落ち着いた空間

地酒ガーデンが
開ける広場

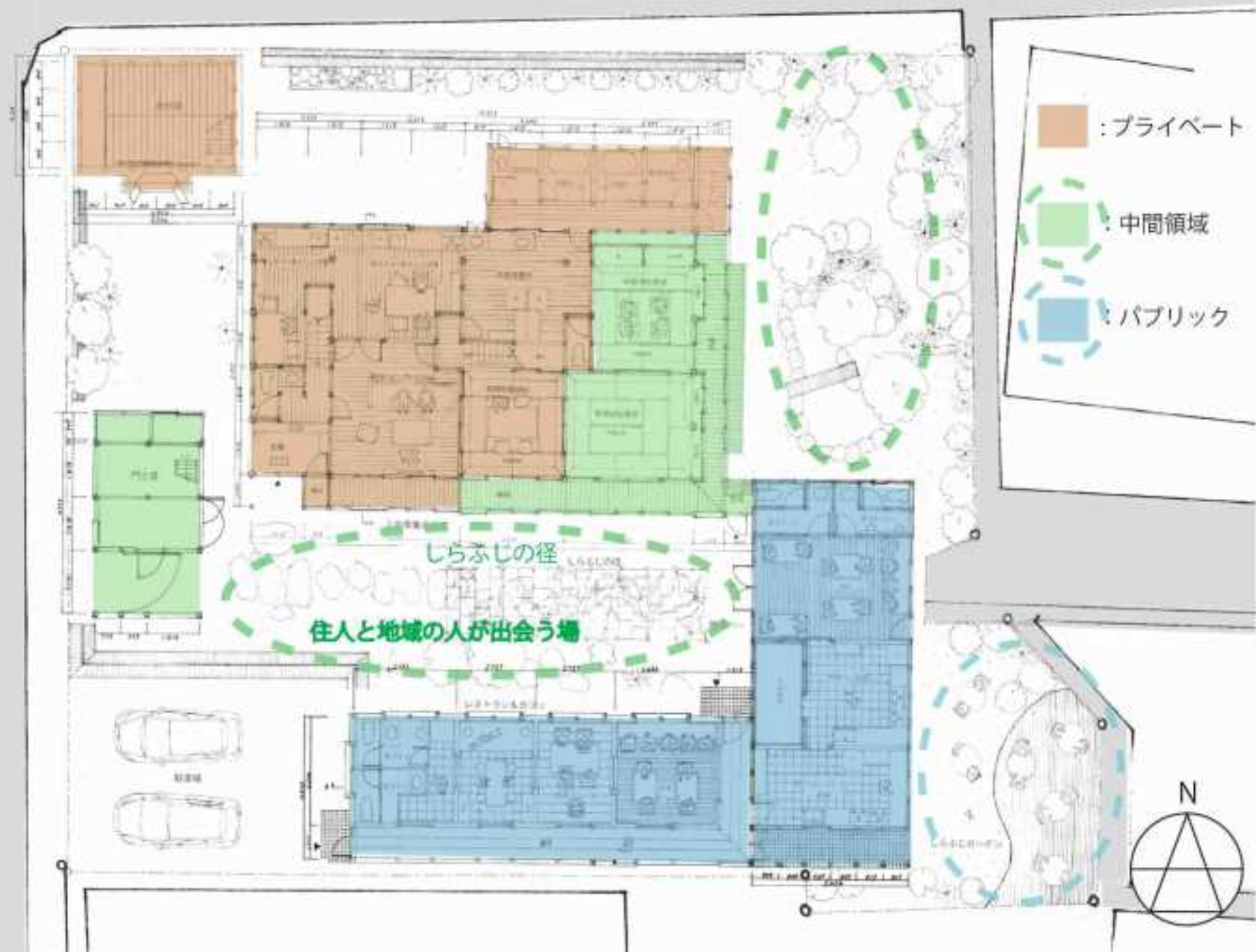
子どもを遊ばせておけるキッズコーナー
→親同士でゆっくり食事ができる
レストランのディナーのお酒は
バーのおすすめ

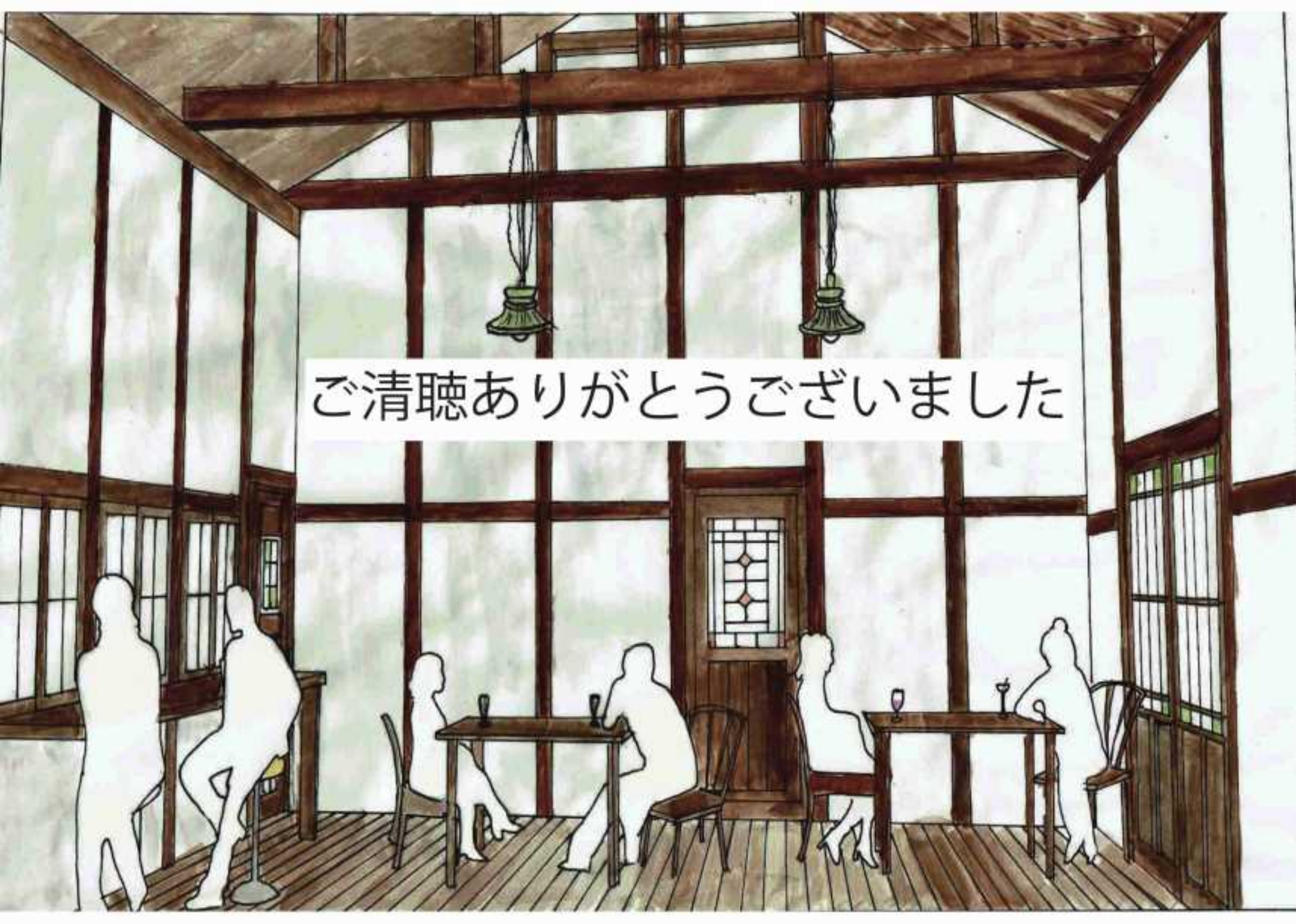
厨房が隣同士
共同開発ができる
バーのデザートは
レストランで
作られたもの

ゲストハウ蔵



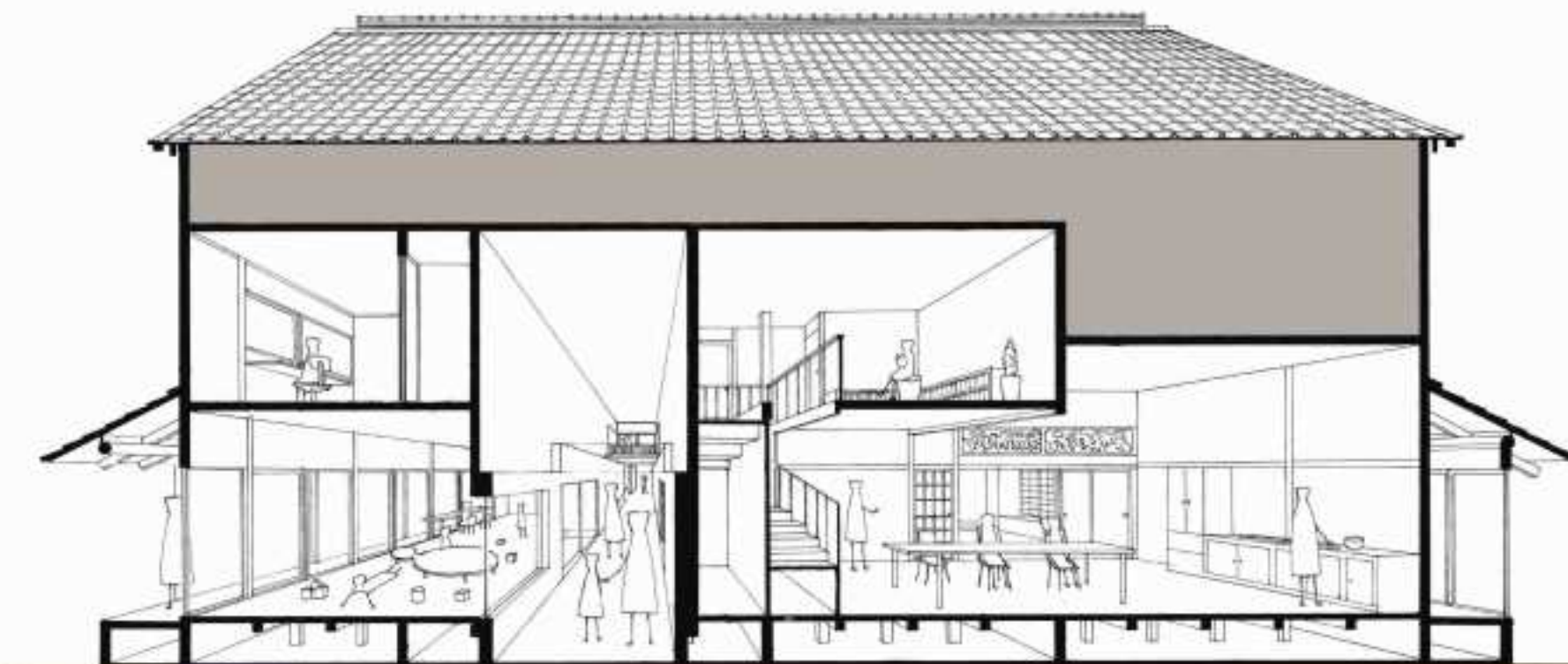
ゲストハウス蔵





ご清聴ありがとうございました

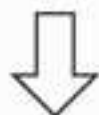
壁の道



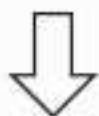
信州大学工学部建築学科 3 年 勝地夢斗

ニーズ&コンセプト

しらふじ周辺には小学校などがあるが、児童館のような場所がない。
だから子供が下校時などで気軽に立ち寄れる場所がほしい。



しらふじに二世帯の集合住宅に料理教室を中心とする「食」をテーマにした機能を付加する。



象徴的な道によって住宅と「食」関連機能をつなぐ

プログラム

集合住宅

家族構成

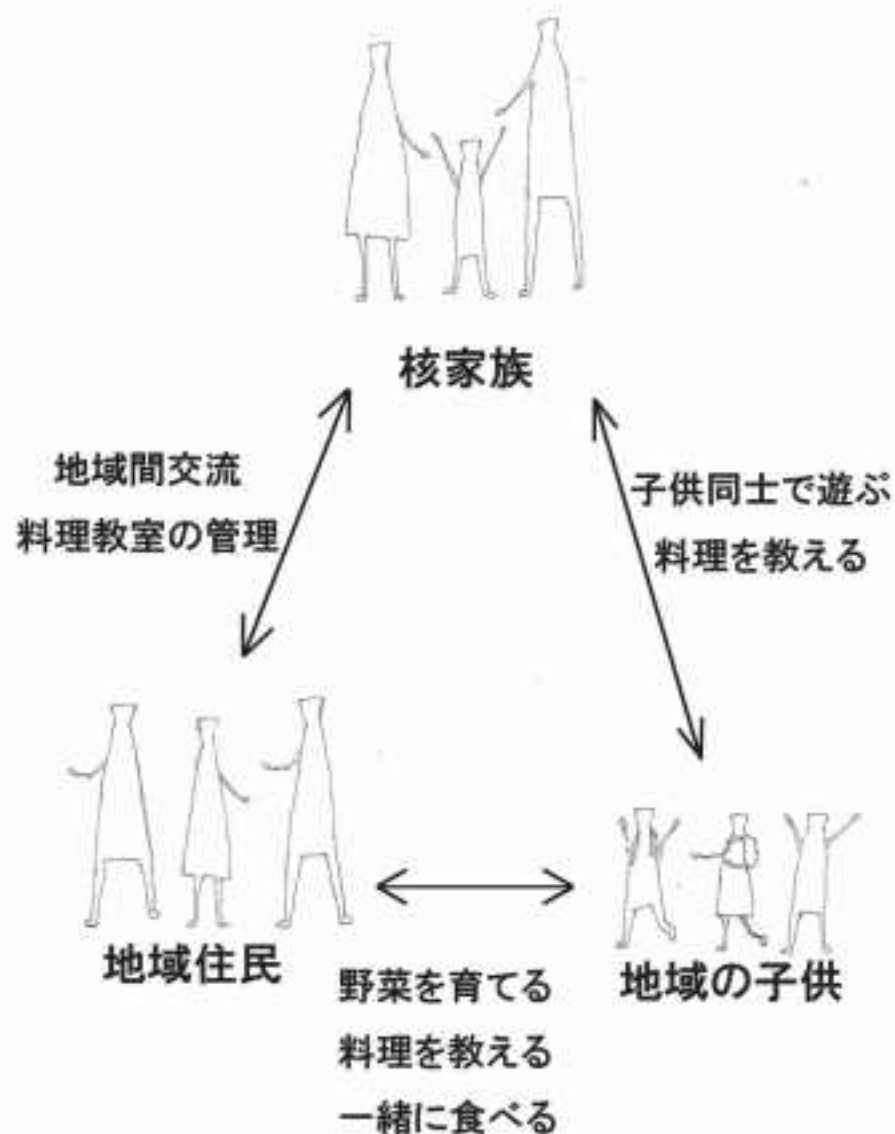
夫婦＋子供 3名 × 2組

付加機能

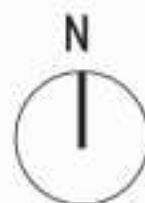
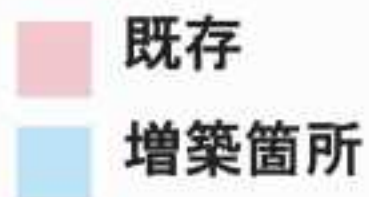
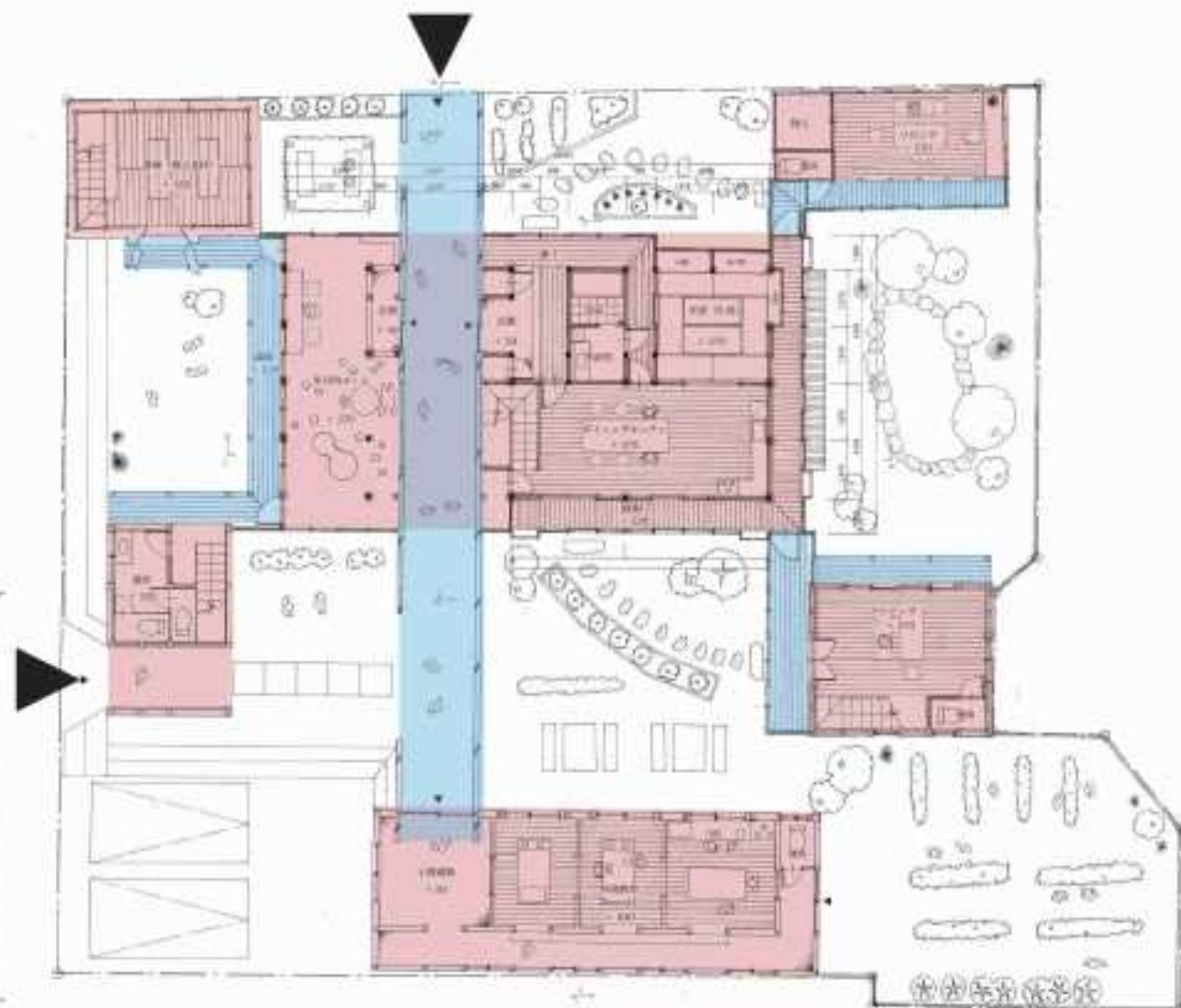
利用者

児童（下校途中・休日に立ち寄る）

地域住人（教えるために来る）



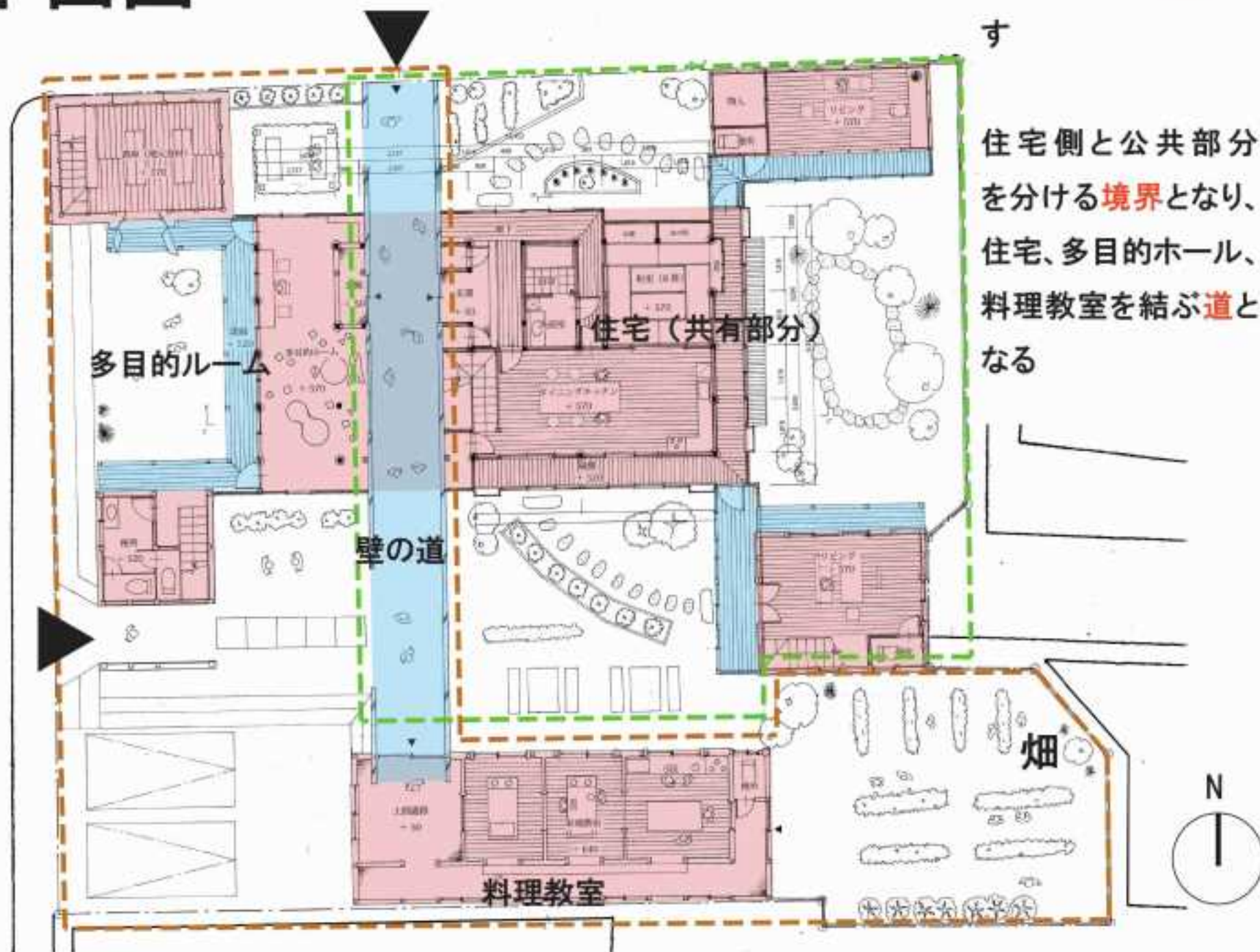
1 階平面図再生案



1 階平面図

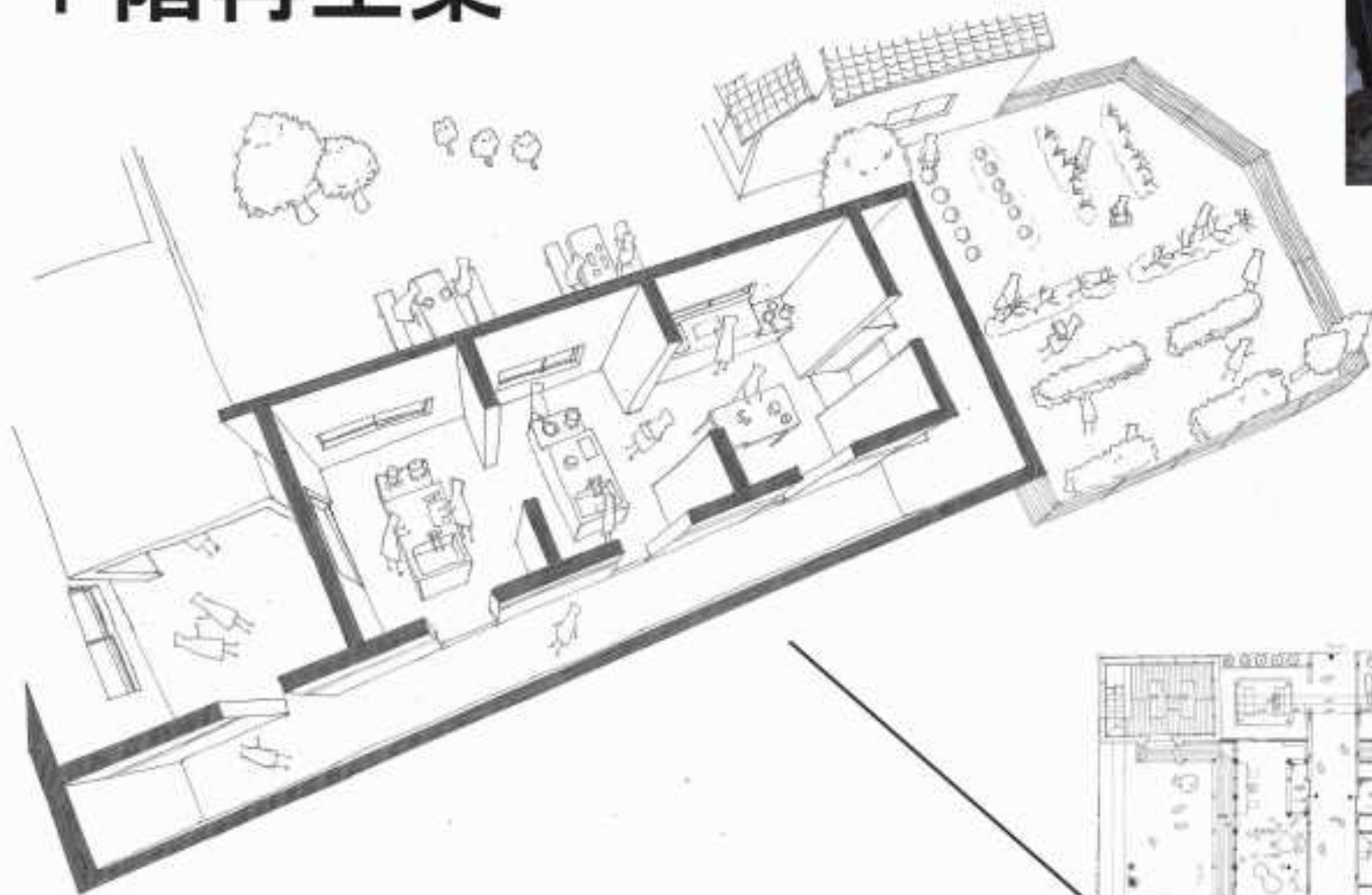
主屋の中にコンクリートでできた壁を通す

大笹街道

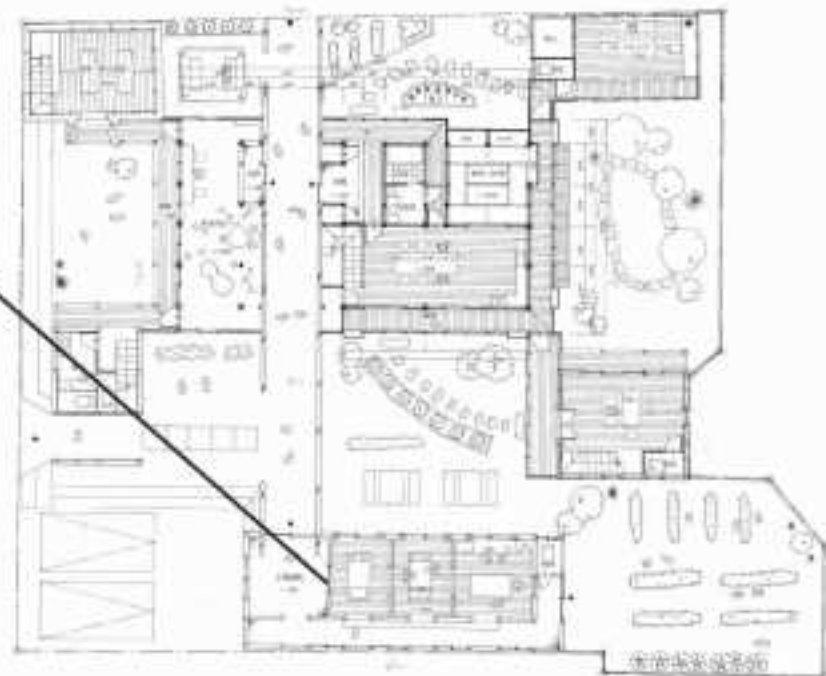


住宅側と公共部分を分ける境界となり、住宅、多目的ホール、料理教室を結ぶ道となる

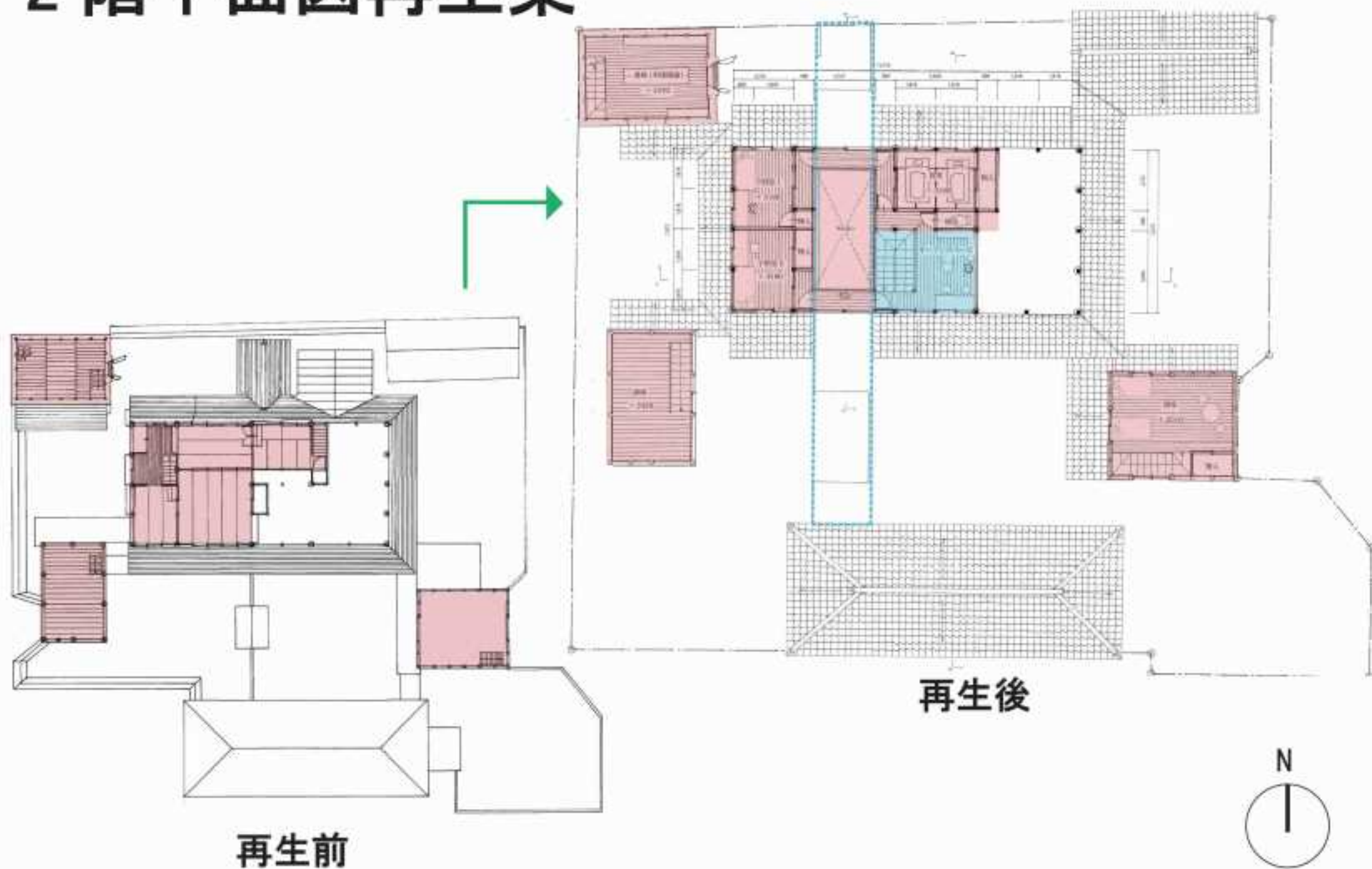
1 階再生案



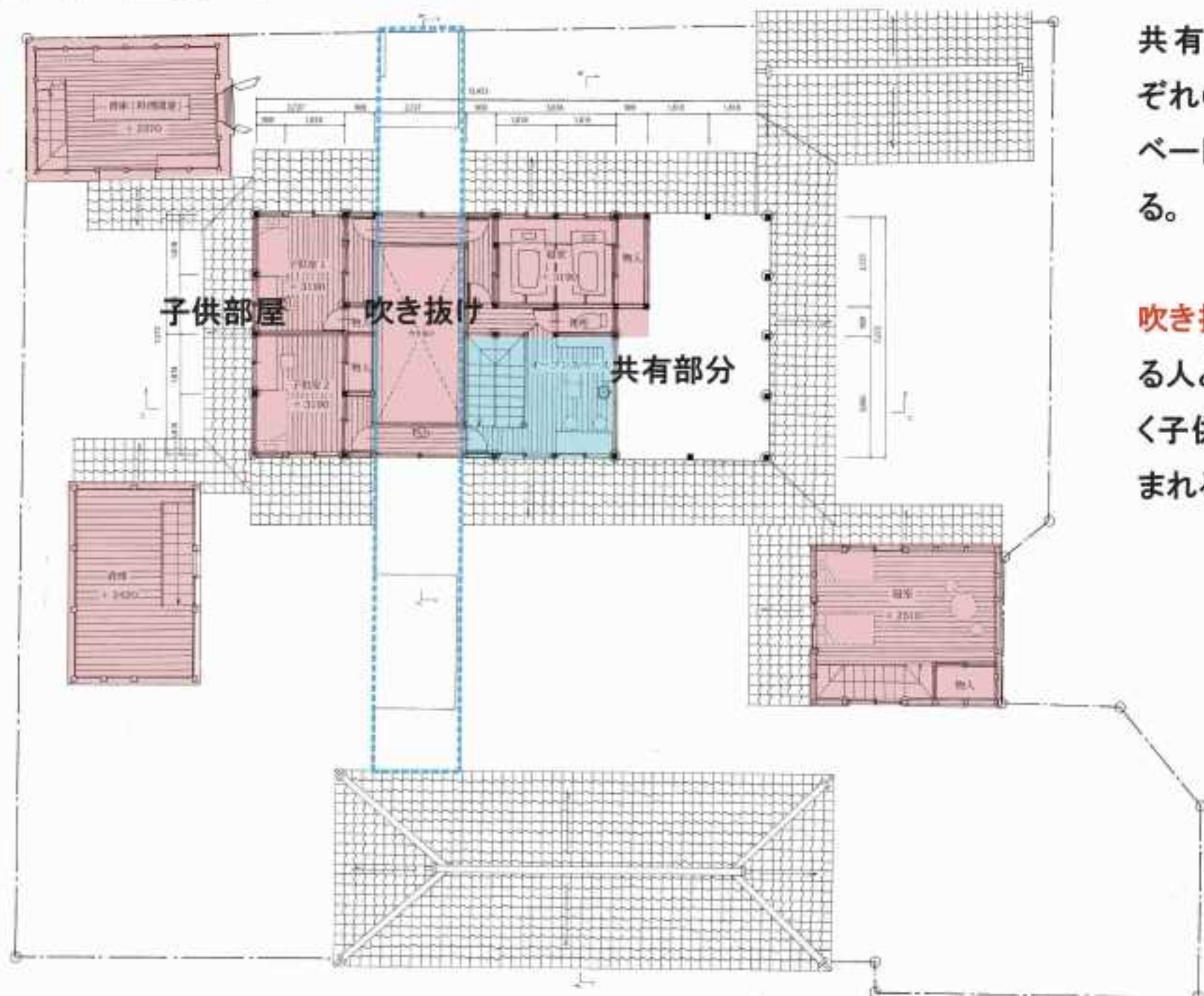
畑を料理教室に配置することでスムーズに料理に移行できる



2 階平面図再生案



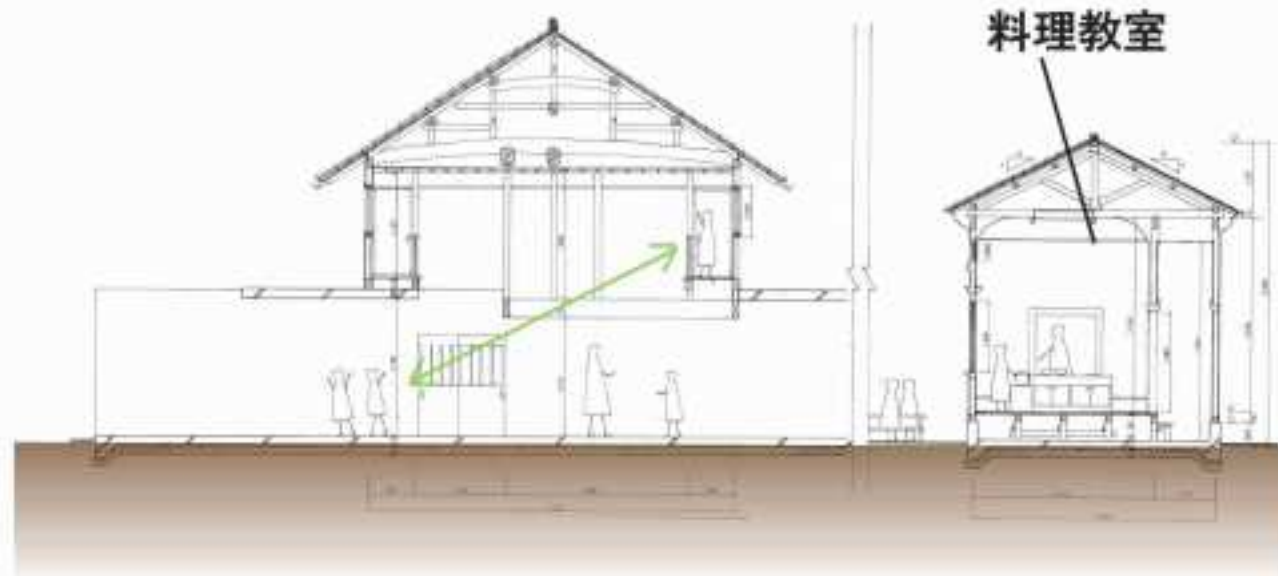
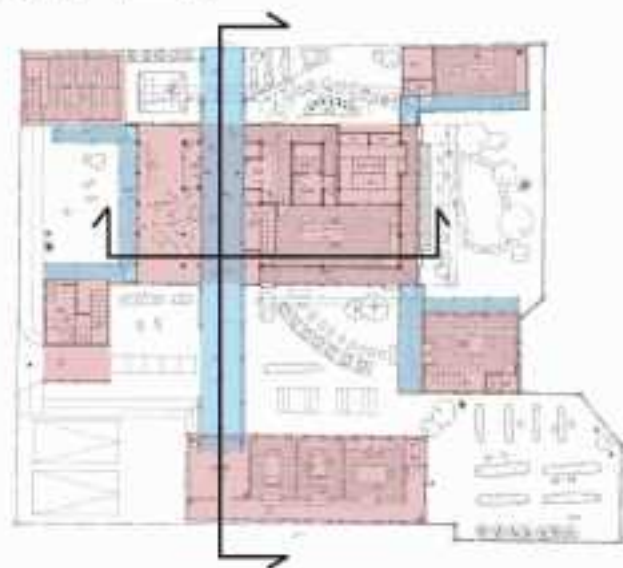
2 階平面図



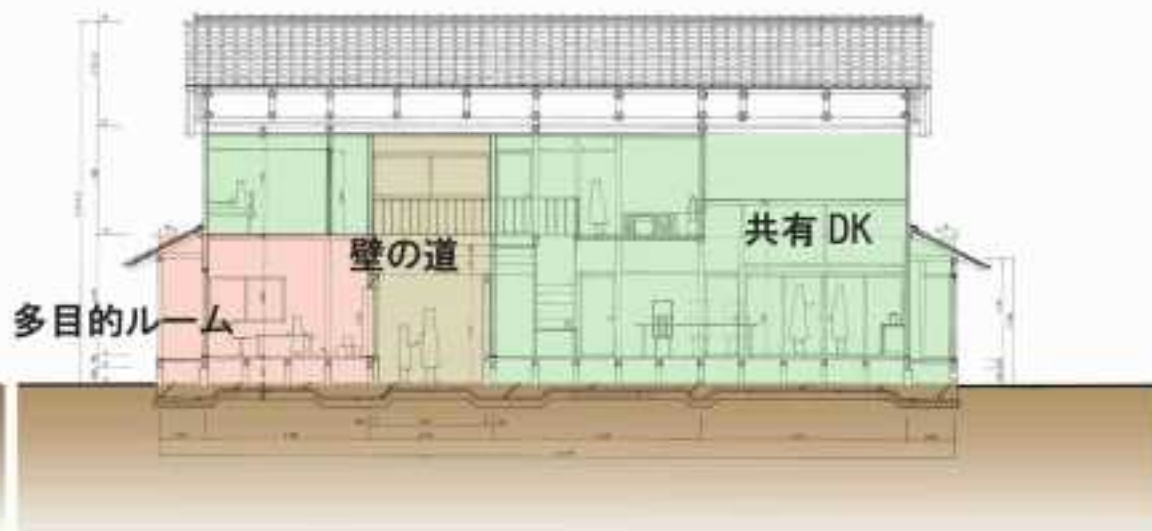
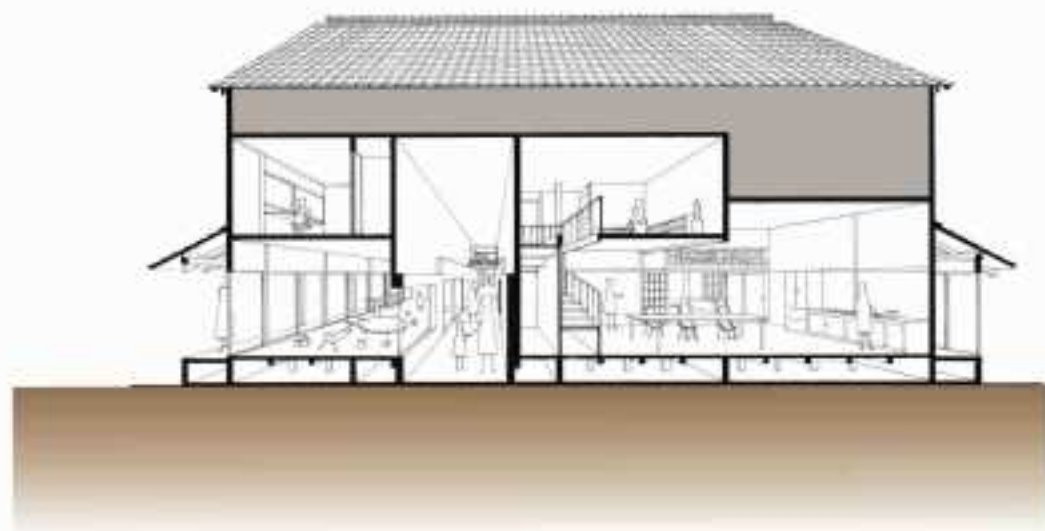
共有部分からそれぞれの家族のプライベート空間に移動する。

吹き抜けでは下を通る人と子供部屋に行く子供との交流が生まれる。

断面計画

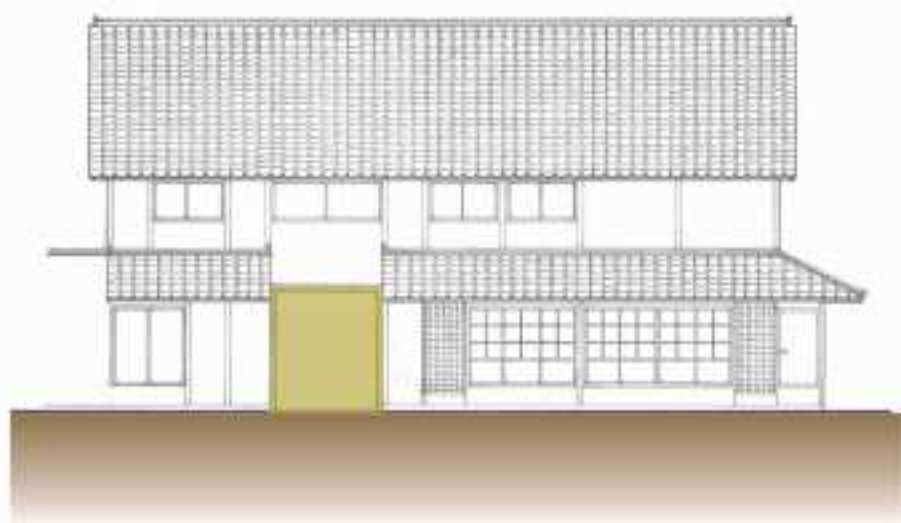


短手方向



長手方向

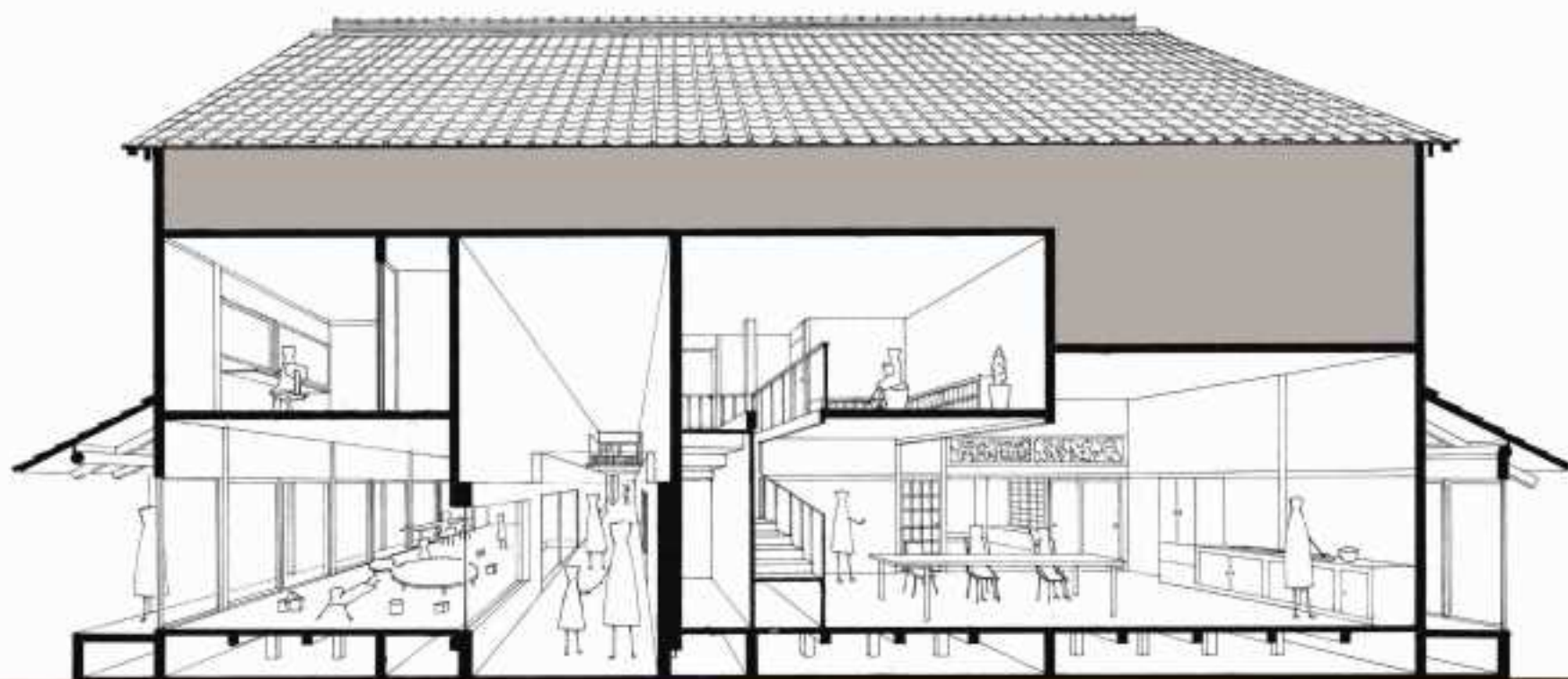
立面图



南立面图



西立面图



ご清聴ありがとうございました。

Family tree

～庭で組み合わせる人々のふれあい～



古民家 × 古本屋

信州大学工学部 建築学科 3 年

14T7802B 齋藤 裕



古民家 × 古本屋

須坂の蔵の使い方に本の貯蔵を提案し

住民や地域の人々が気軽に読書等の活動を行える場所を作る。

古本は蔵によって分類し

読み手の年代を定め、同世代の賑わいを促す。



住まう人



祖父母・老夫婦

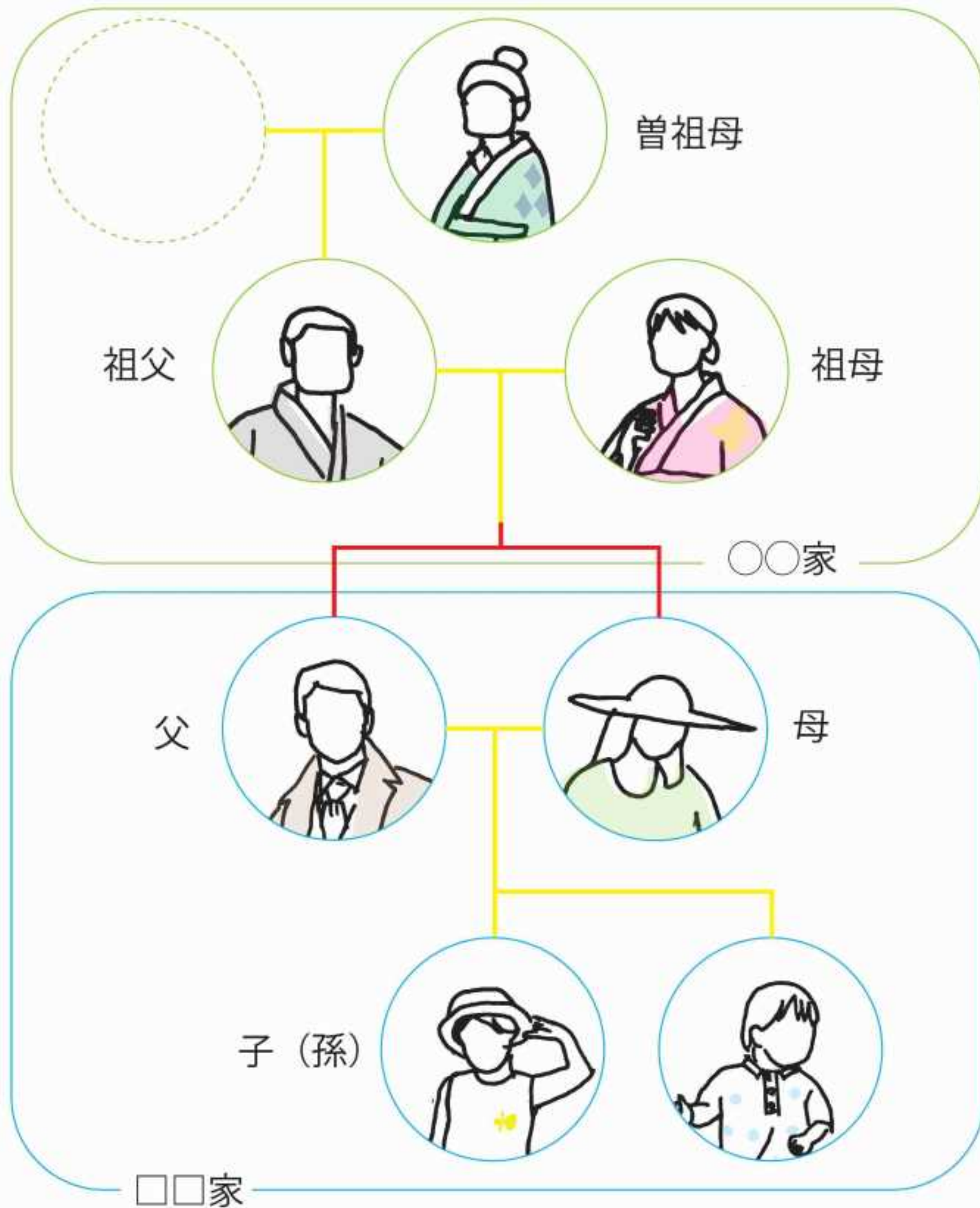
[古本屋]

X



核家族

[新規就農]



古民家の操作



簡略平面図

1. 風流で作られた中仕切りの門に注目



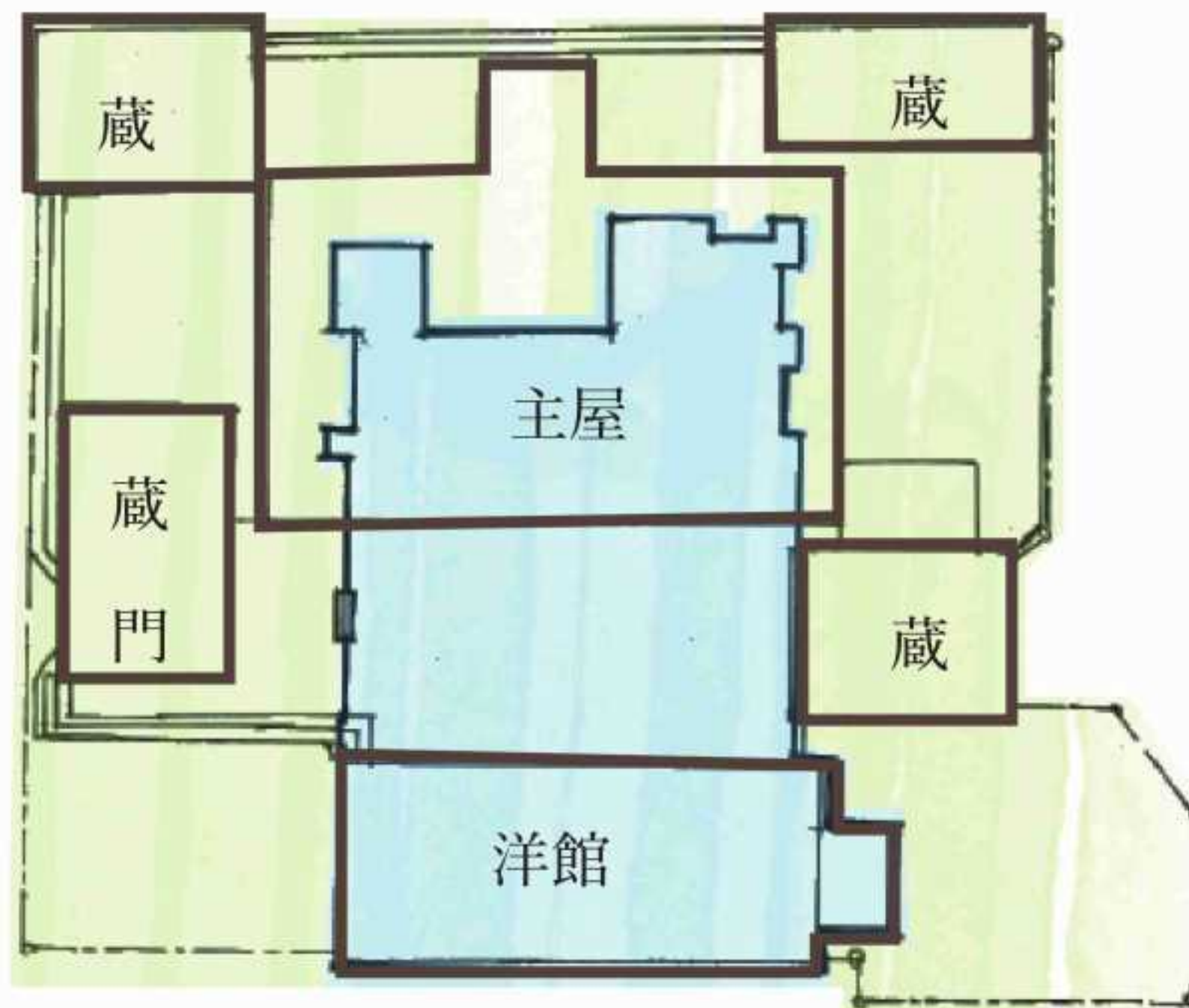
古民家の操作



2. 位置を移動し塀を延長することで
敷地内に2つのエリアをつくる



古民家の操作



3. プライベートとパブリックに分け

住居と古本屋の領域にメリハリをつける



古民家の操作

高齢

濃

部屋に住む人の年齢

淡

年少

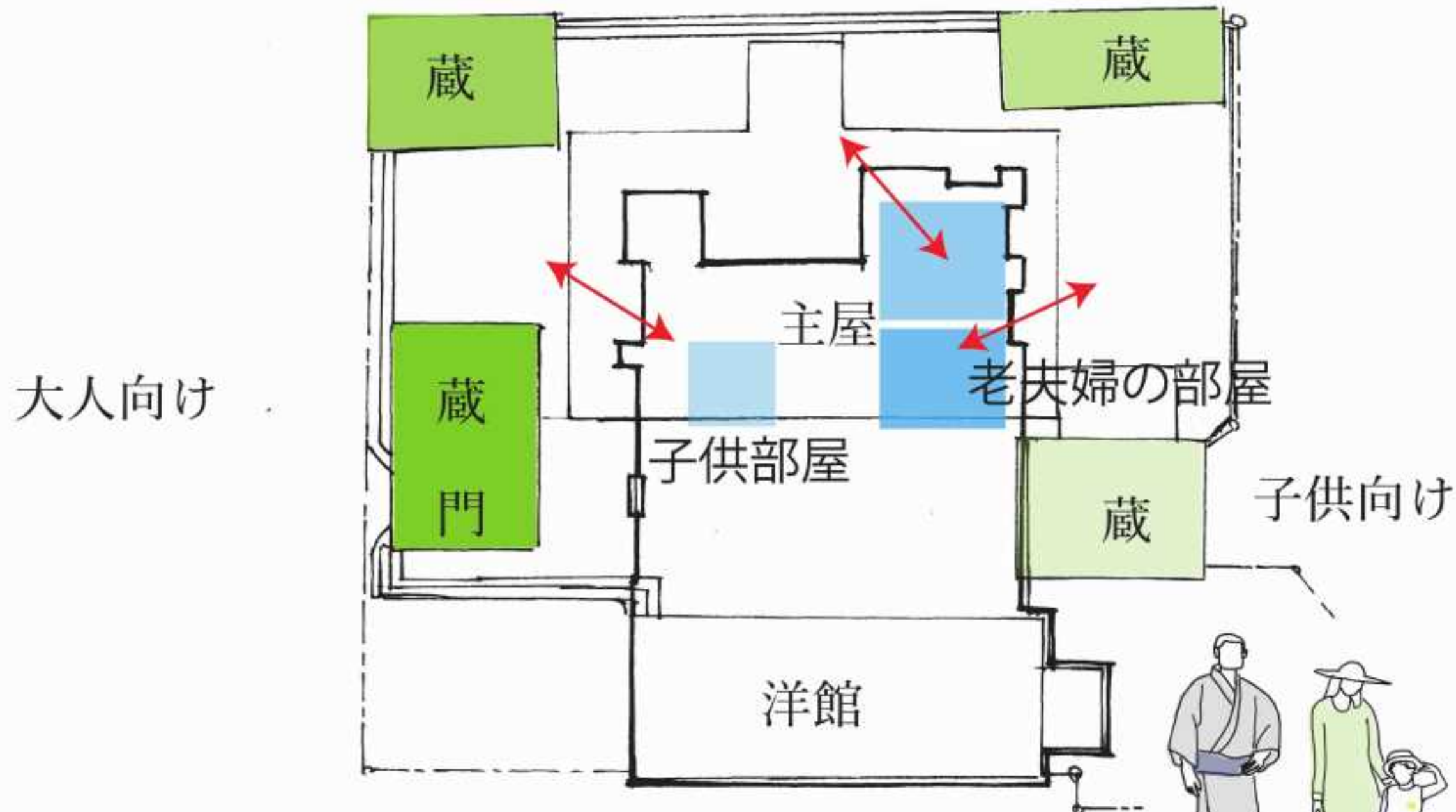
古本の対象



4. 子供向けの本がある蔵の近くに曾祖母、老夫婦の部屋を
大人向けの本がある蔵の近くには子供部屋を配置



古民家の操作

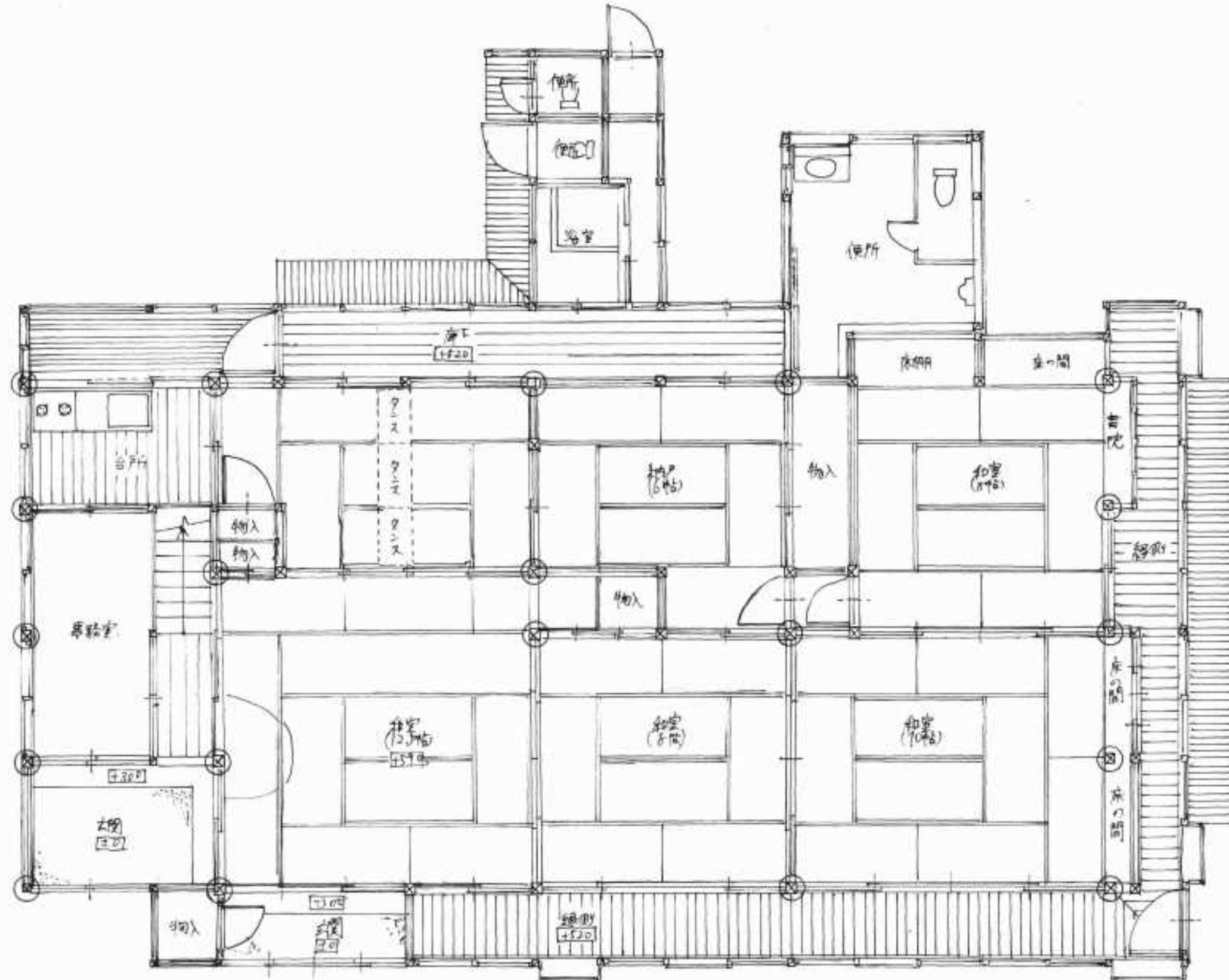


5. 幅広い世代間の交流が促され
利用客と住人との様々な家系図が組み合う



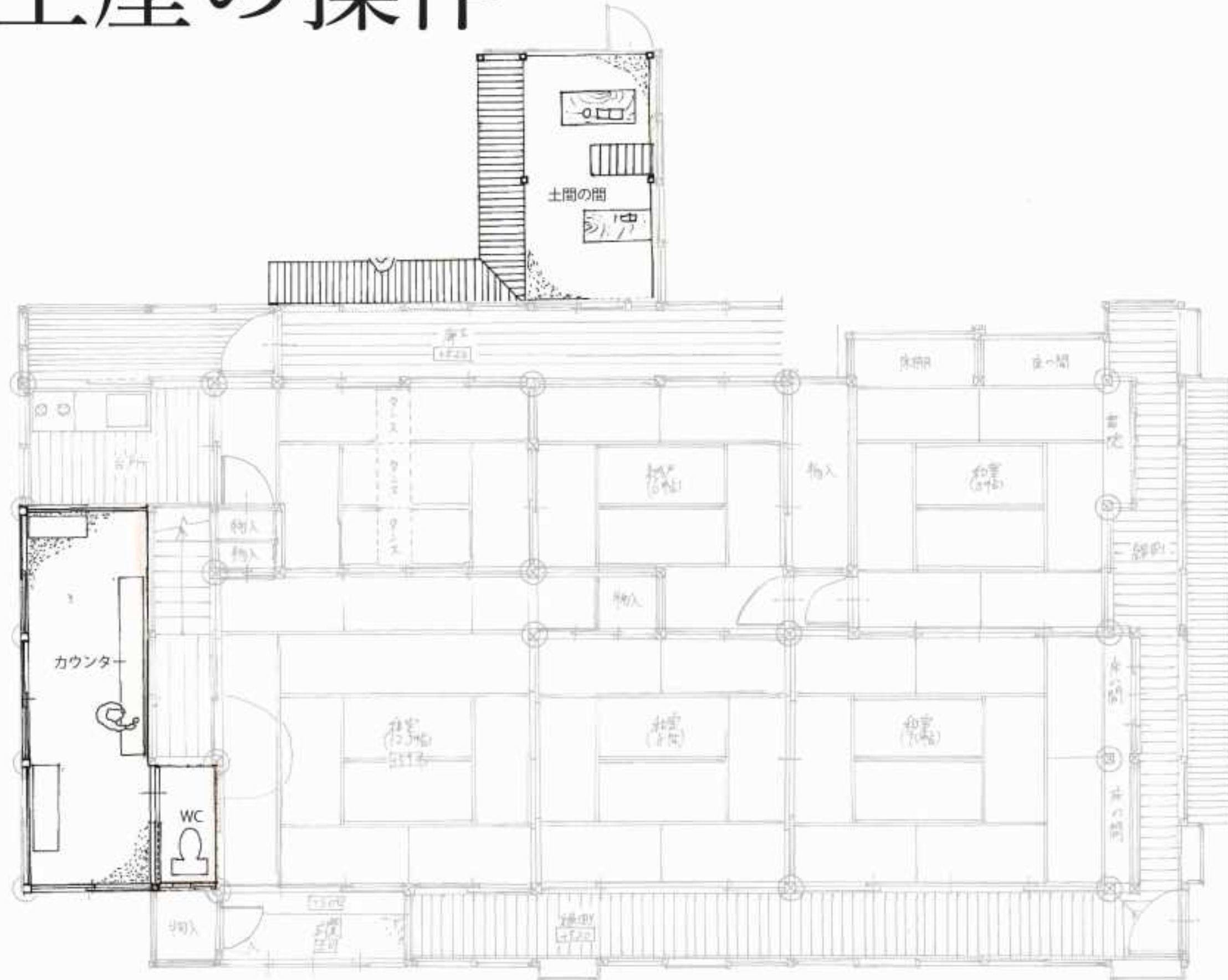


既存



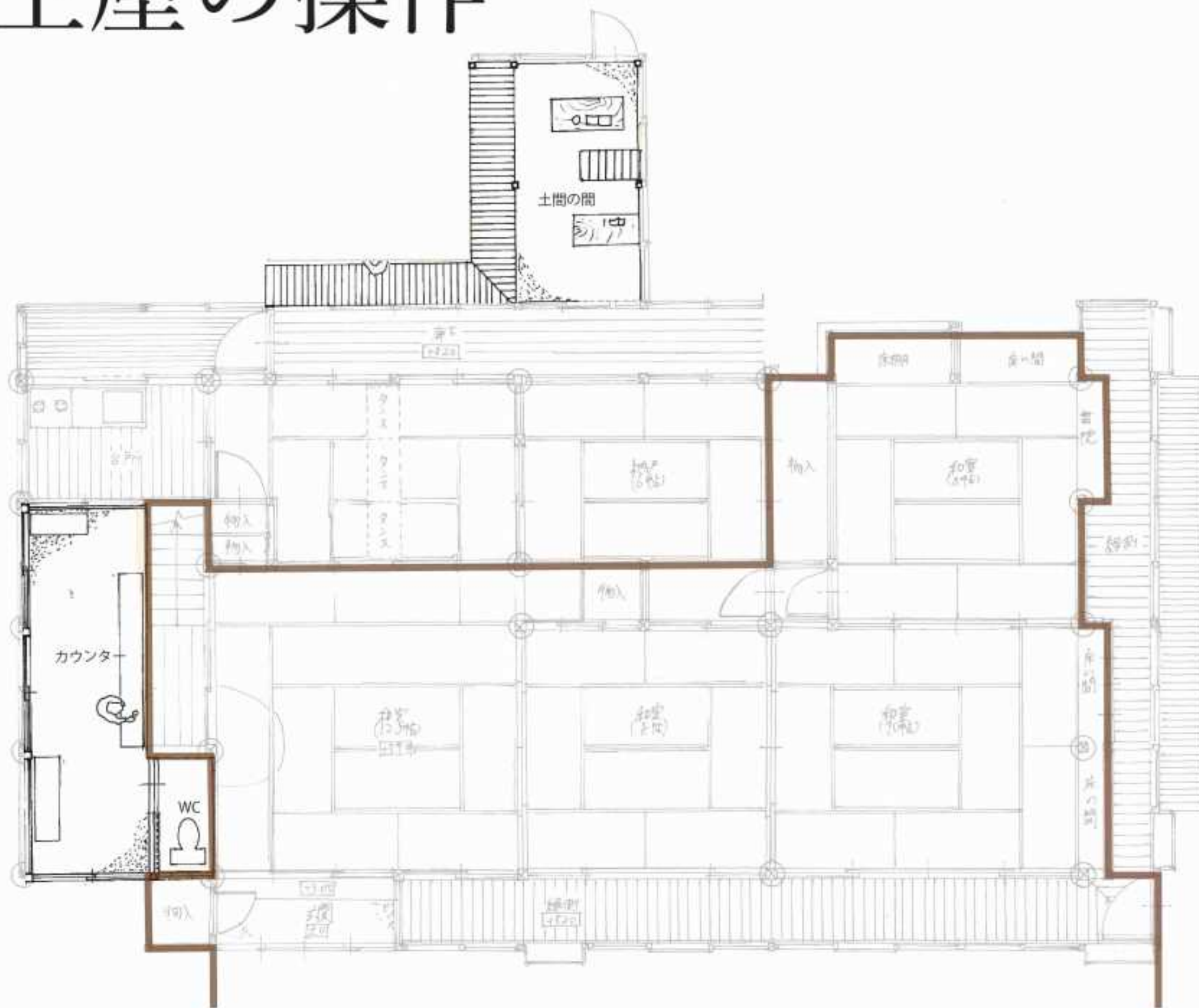


主屋の操作



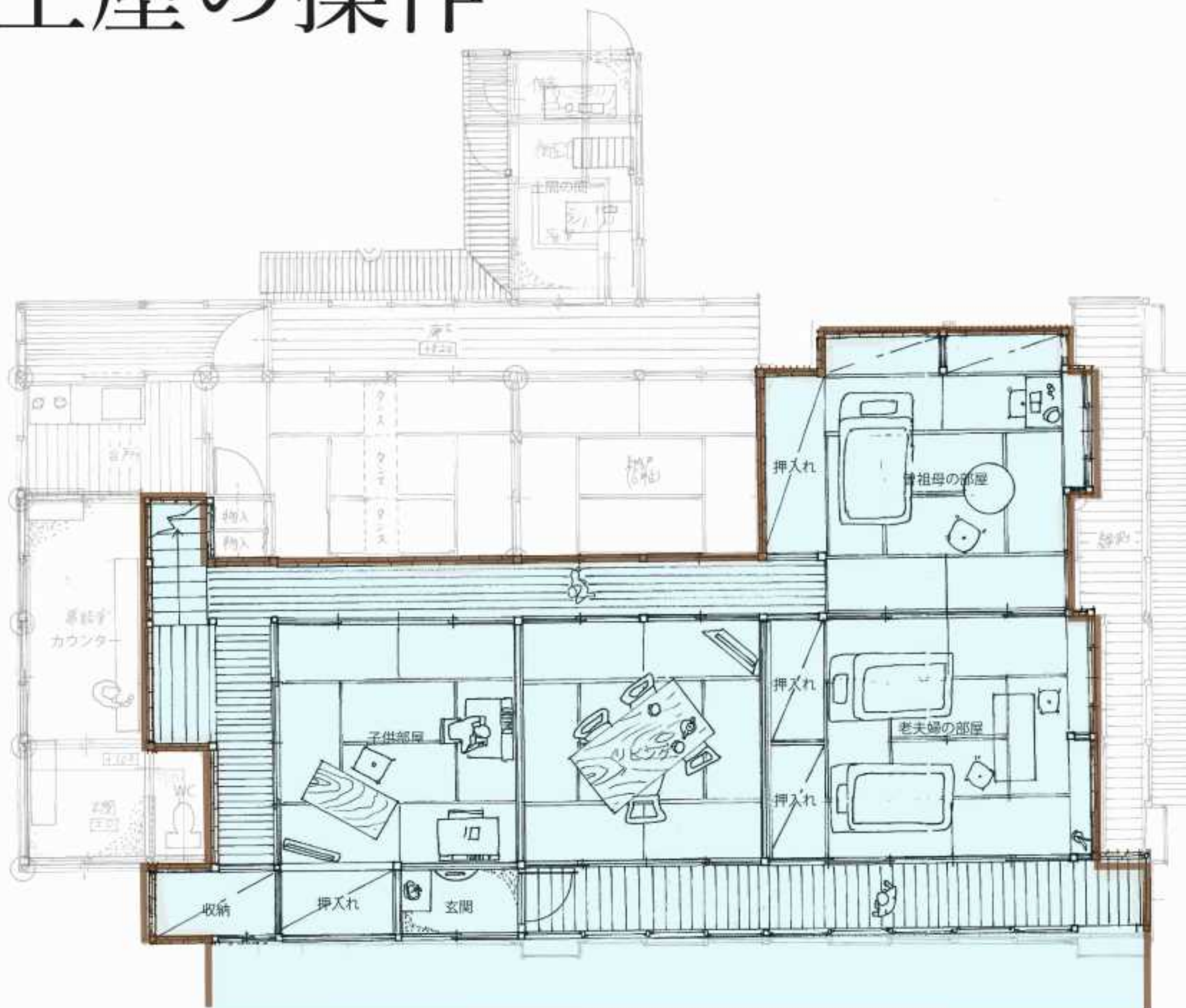


主屋の操作



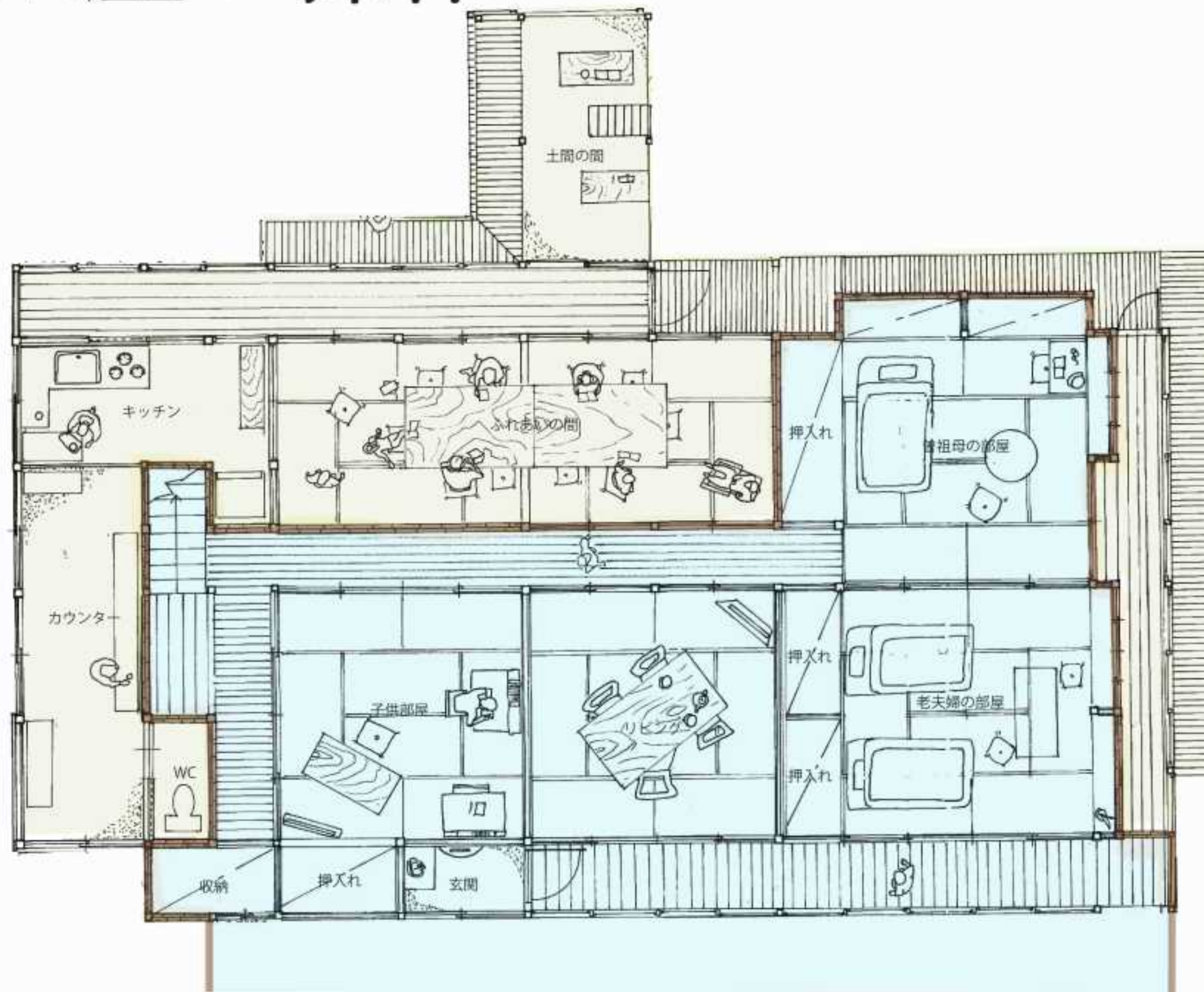


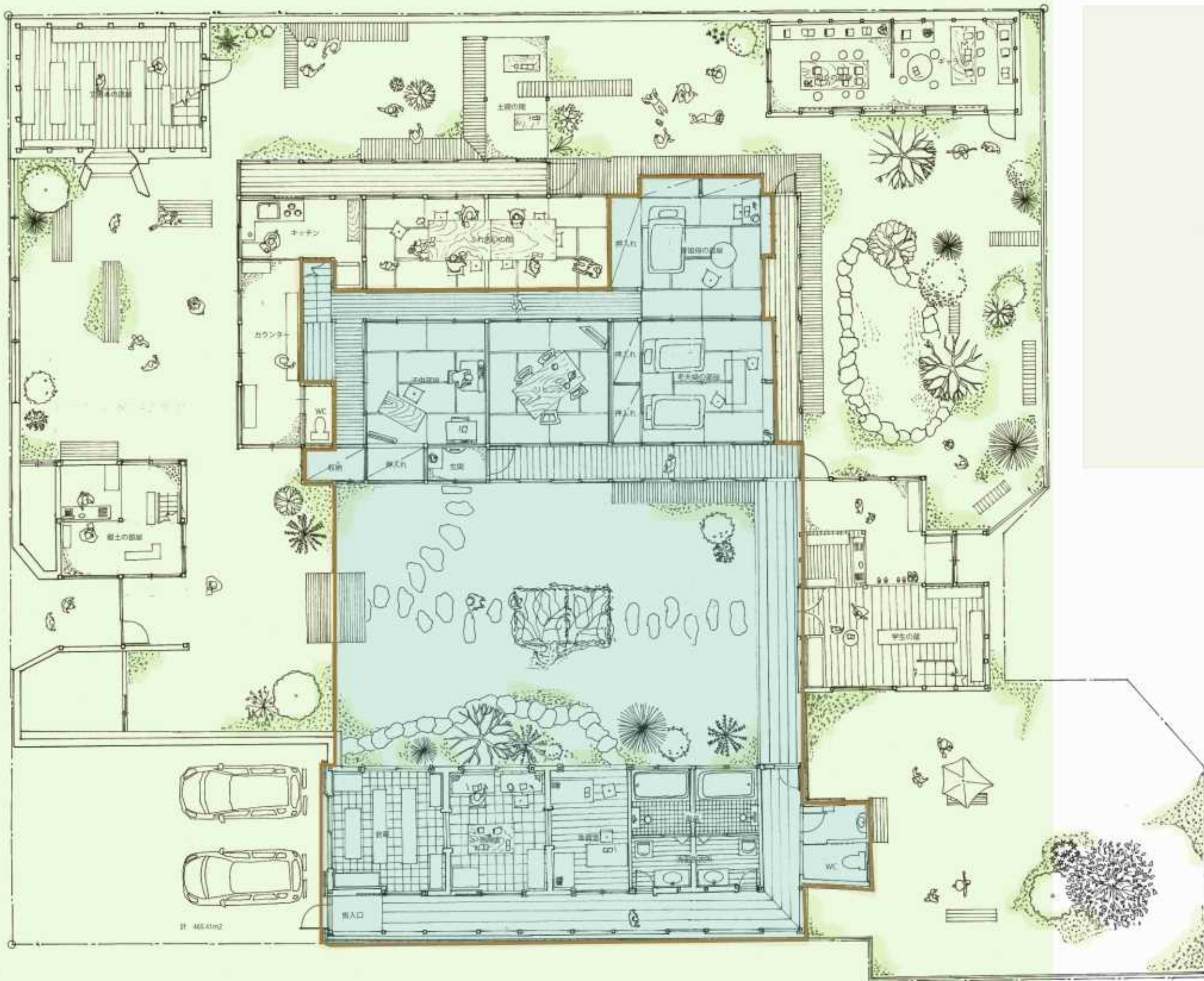
主屋の操作



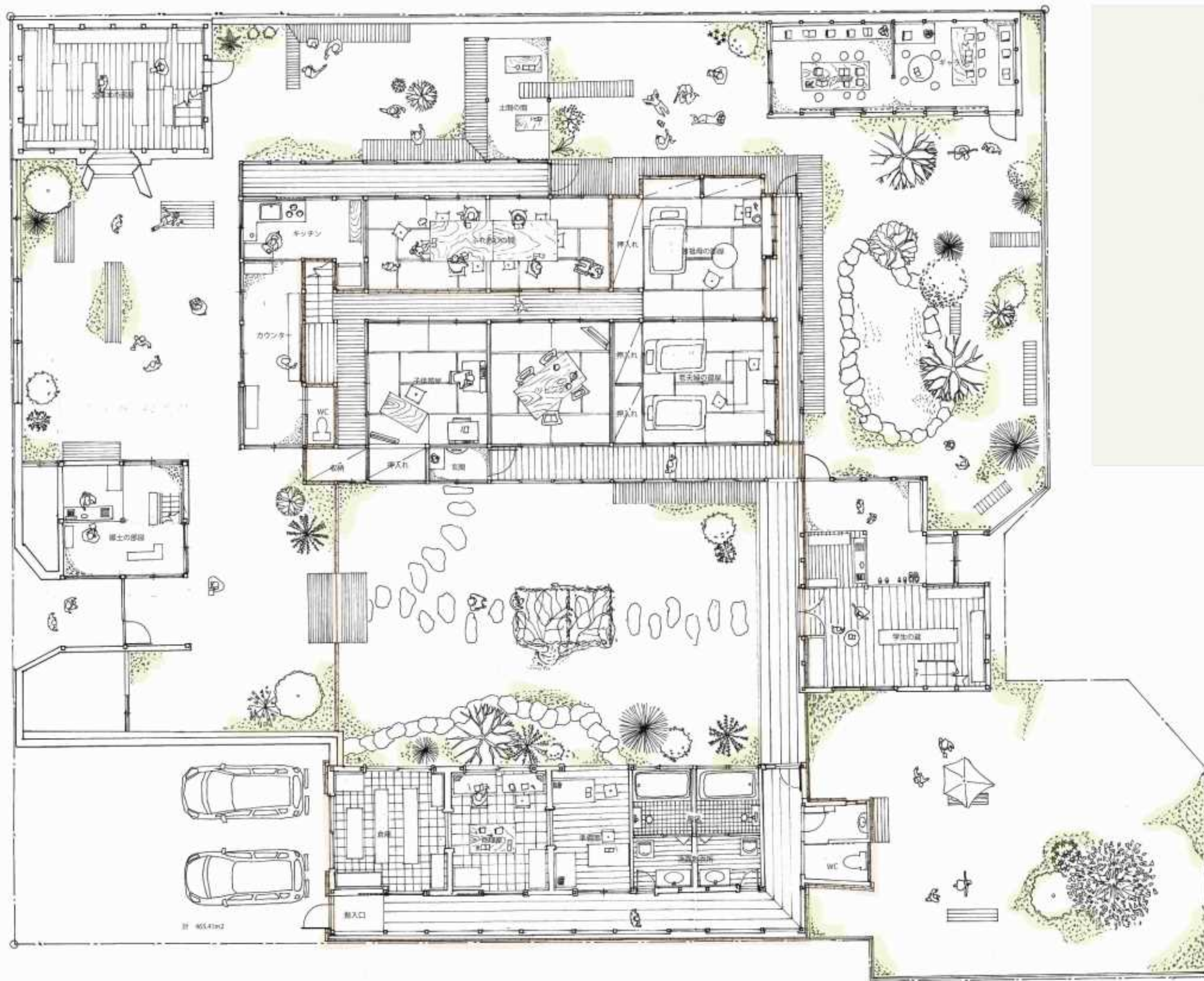


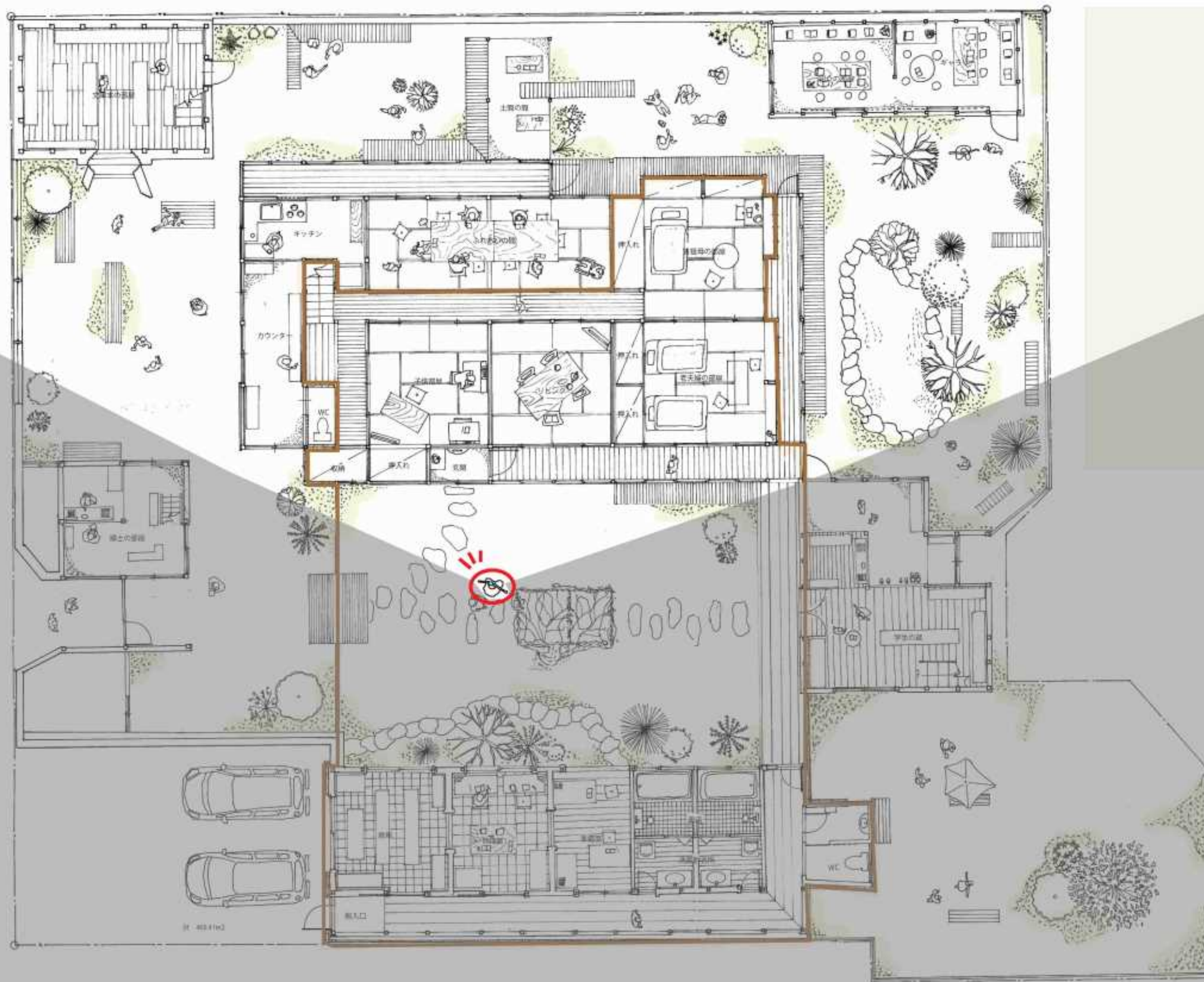
主屋の操作



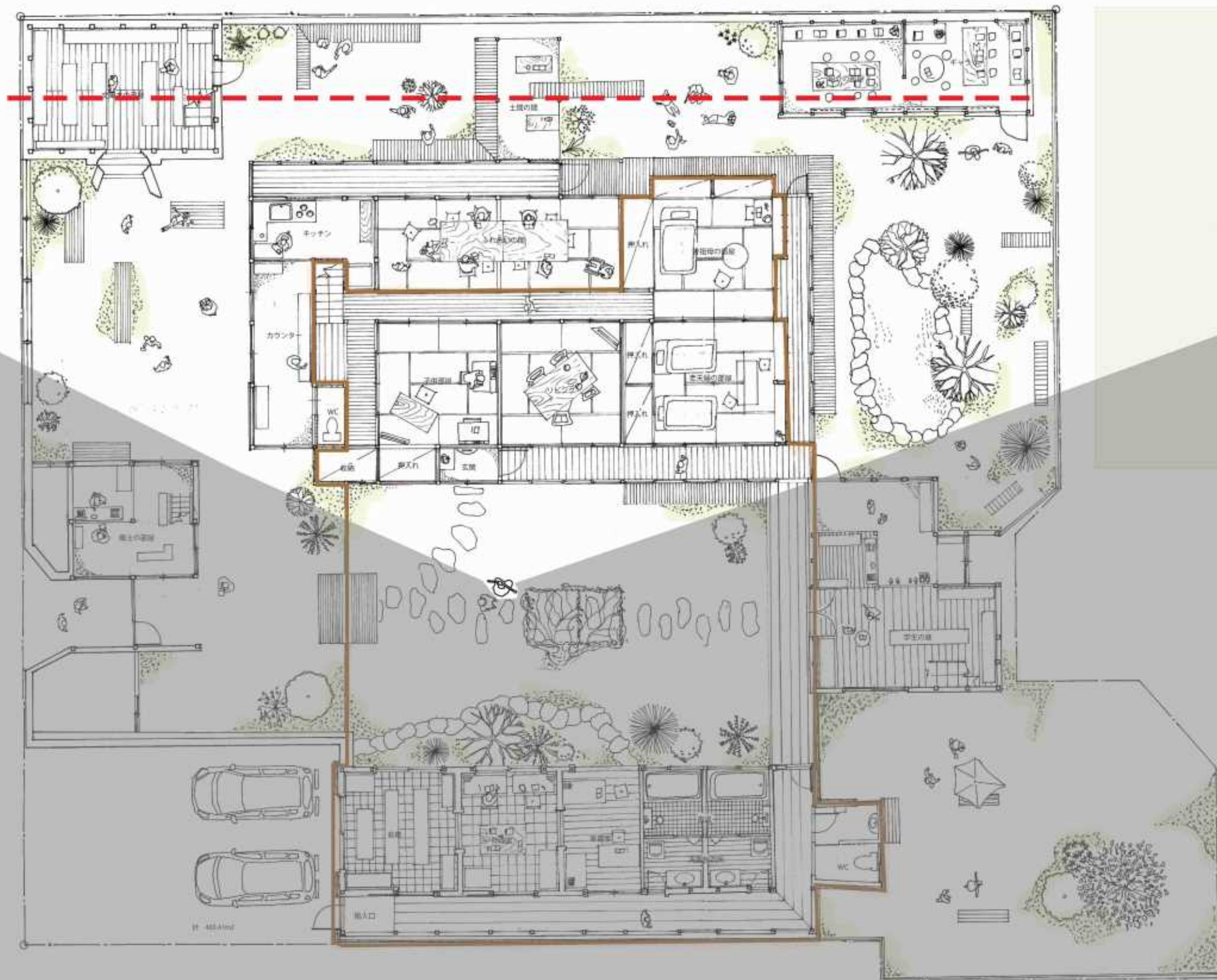


計 465.41m2















📖 おわりに



ご静聴ありがとうございました。



Family tree

～庭で組み合う人々のふれあい～

信州大学工学部 建築学科 3 年

14T7802B 齋藤 裕



製糸業とともに歴史刻んできた古き良き街である須坂市。
歴史的な建物は美しく保存されている一方で、そのポテンシャルを生かした利用のされ方をしているものは少ない。



実測より、しらふじの奥庭・座敷空間・小屋組に歴史性・美しさを感じた。
軸組模型を作ることで、構造的に不足していることが判った。



奥庭



座敷



小屋組

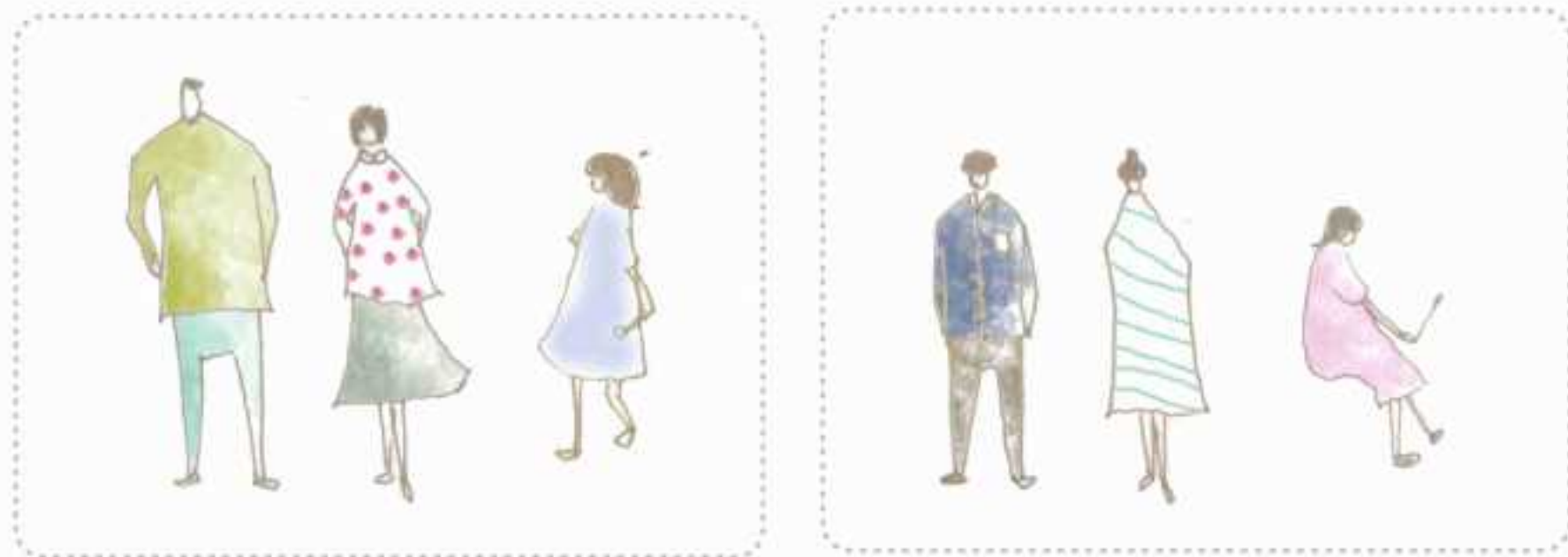
提案

建物全体を保存するのではなく、美しさ・歴史性を感じた部分の空間を
構造的に補強し、新しい価値生み出す。

補強することで、価値のある建築を後世まで残す。

歴史的な建物をアーティストの住居とすることで、須坂市の人々が街に
再び目を向けるきっかけとなる場所を目指す。

アーティストの住むギャラリーのある住宅



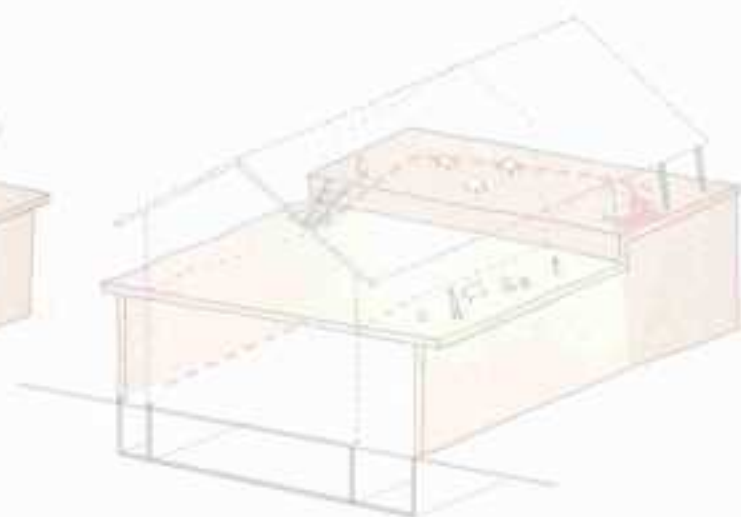
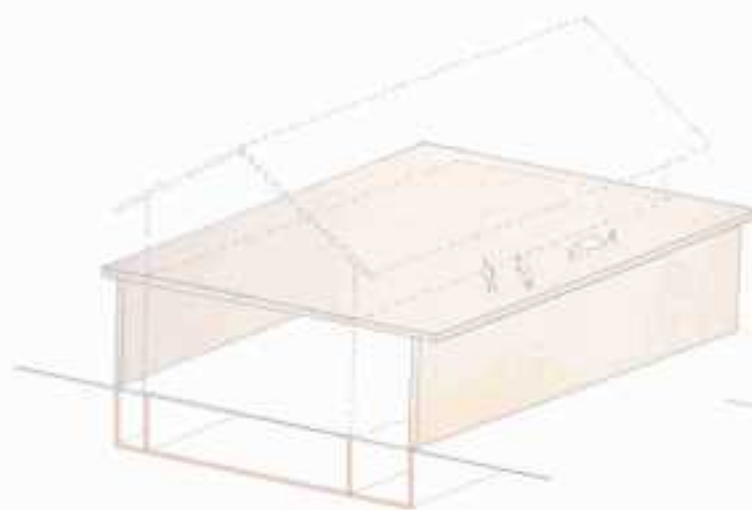
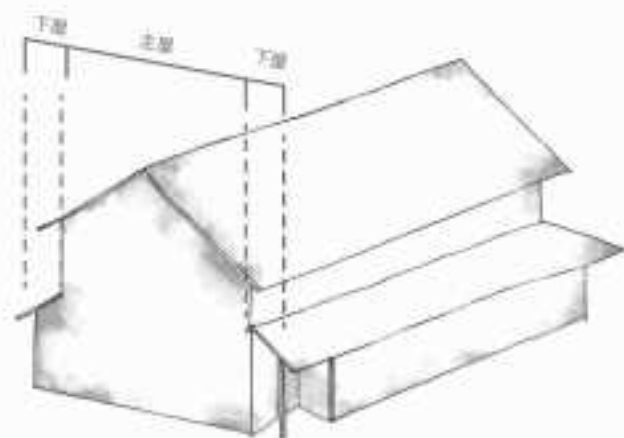
- ・アーティストの夫婦と子供1人×2の6人
- ・週に数回地域向けの絵画教室を行う
- ・ギャラリーでは、アーティストや須坂小学校の児童の作品を飾る



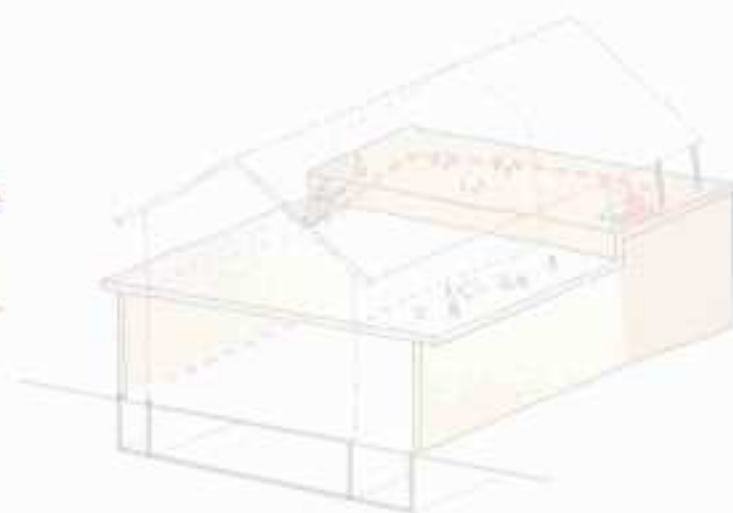
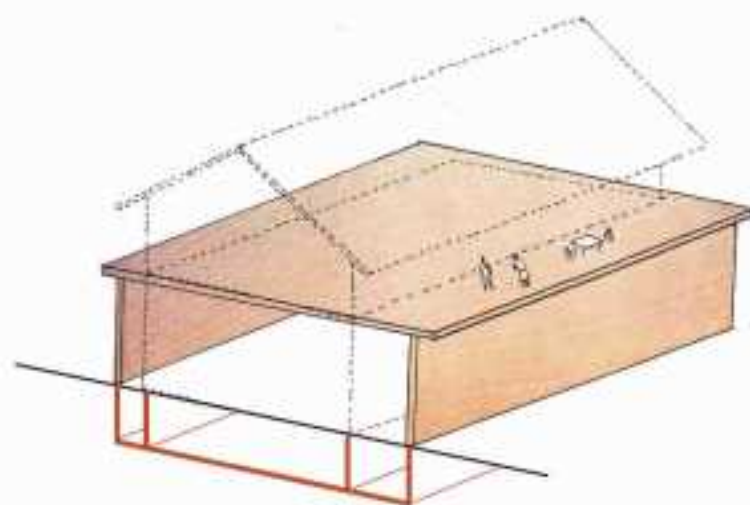
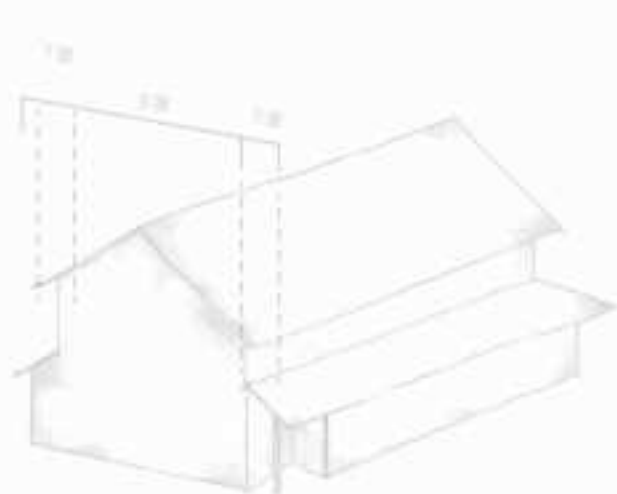
街の人は、作品を通して、街を再び見つめるきっかけを得る。

高基礎を用いた再生の手法

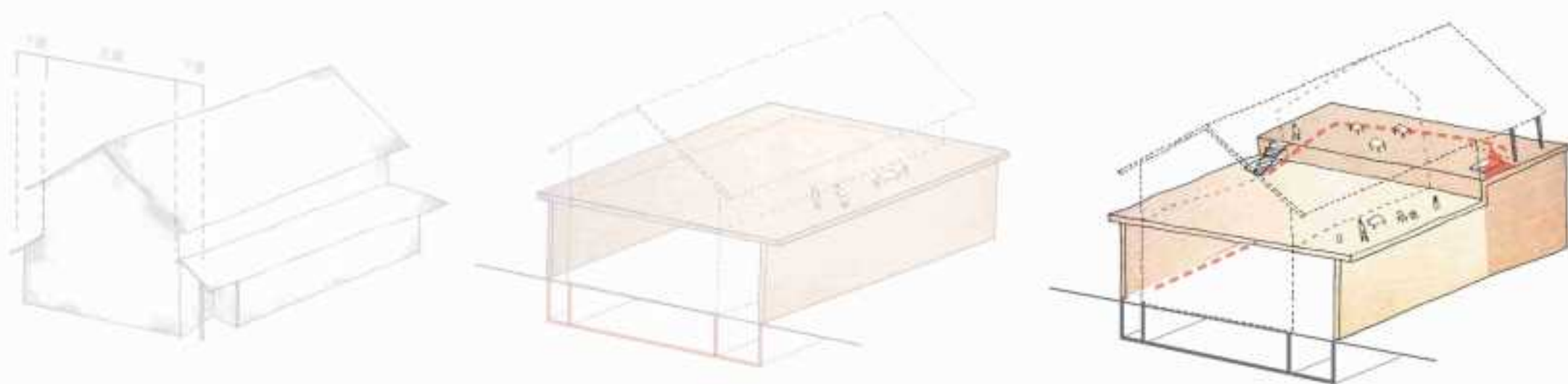
0. 既存の主屋は、主屋と下屋によって構成されており、2階は閉鎖的である。



1.2 階の FL に新たに高基礎を挿入する。構造的な補強を兼ねながら、2 階のテラス
となり、2 階が生活の中心となる。

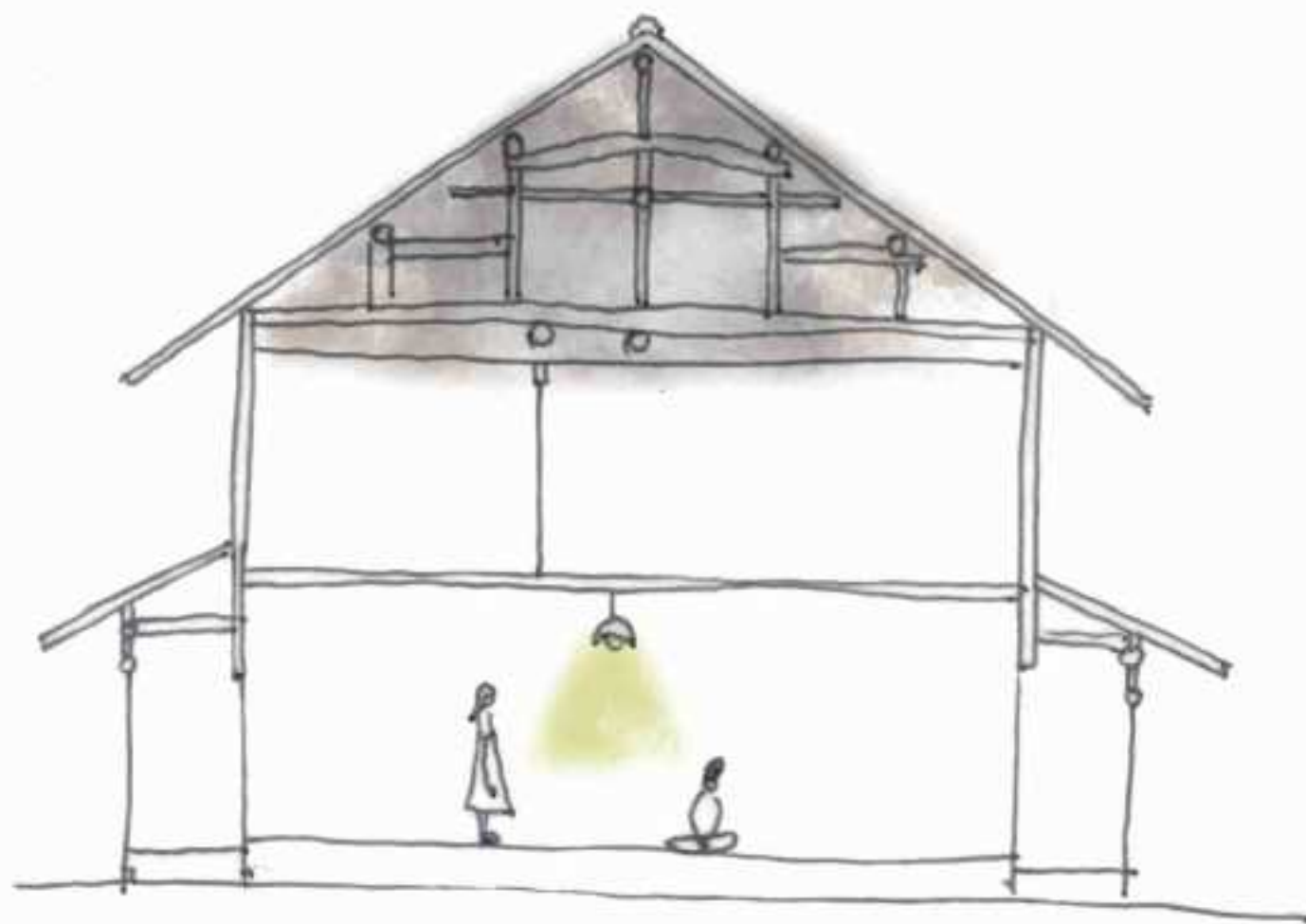


2. 座敷上部は基礎の高さをあげる。構造的な補強が回廊となり、しらふじ全体を巡る動線を生む。



歴史ある小屋組を活かすこと

既存の主屋の小屋組みを覗いてみると立派な小屋組みが現れた。
しかし、天井が貼られており、人の目に触れ流ことはない

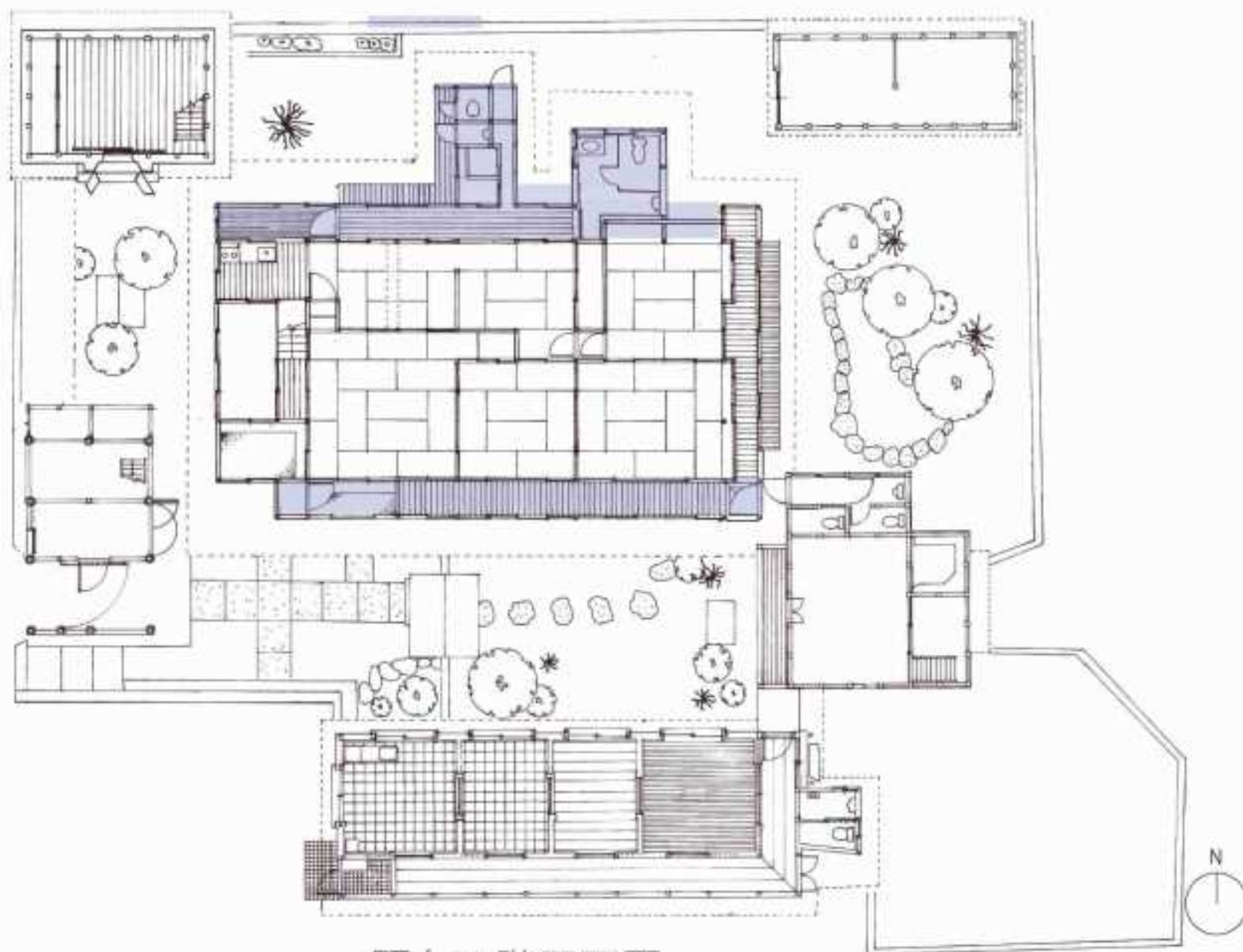


天井を剥がし、高基礎を挿入する。既存の小屋組は、吹き抜けを介し、一階から感じられる空間へと再生される。



後から取り付けられたような不整形な水回りを減築
北側の閉鎖的な塀を一部解体し、新しい動線を生む

減築： 



既存1階平面図

観光客・地域の動線

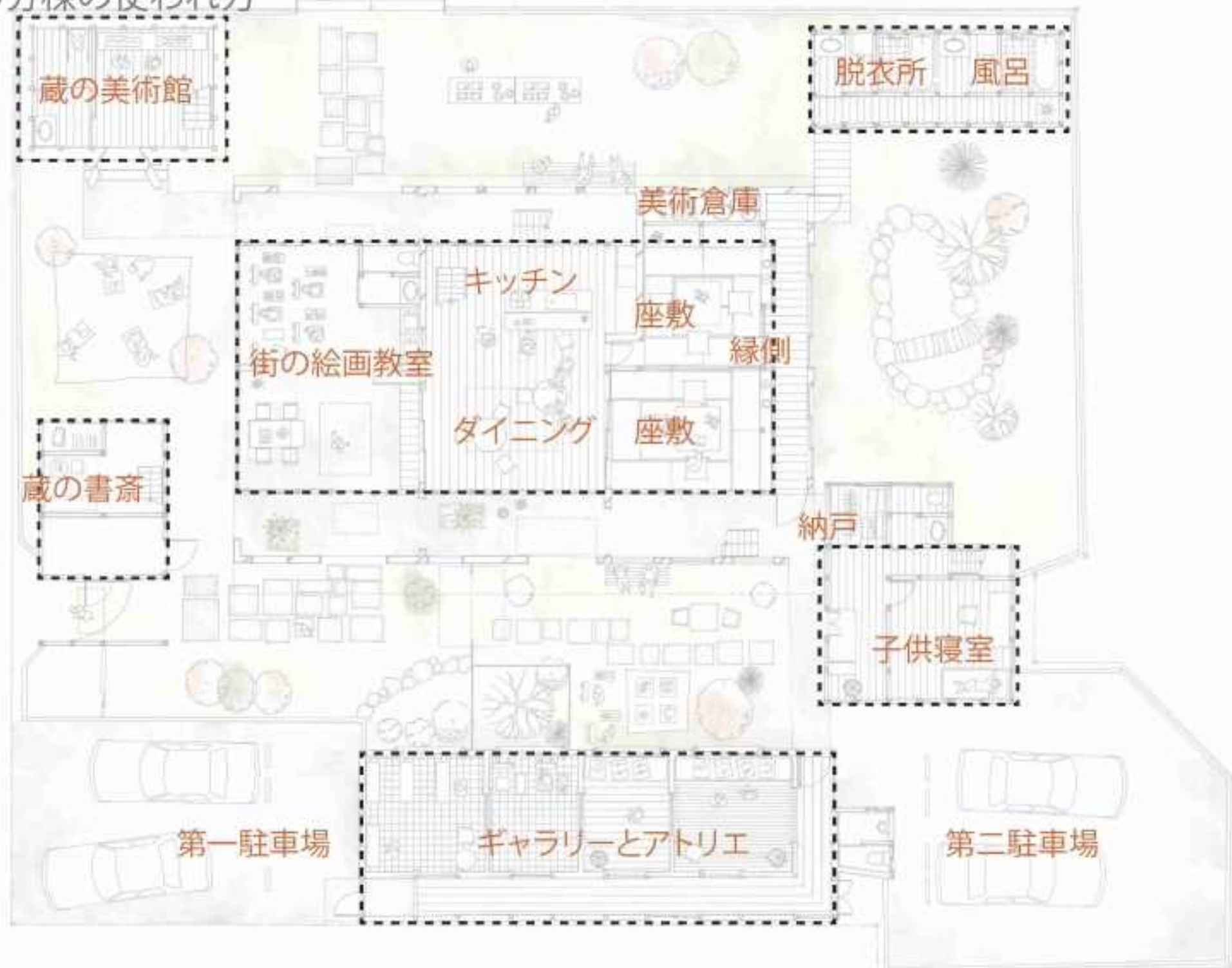
再生後平面図

国道406号線

住人の動線



5つの分棟の使われ方



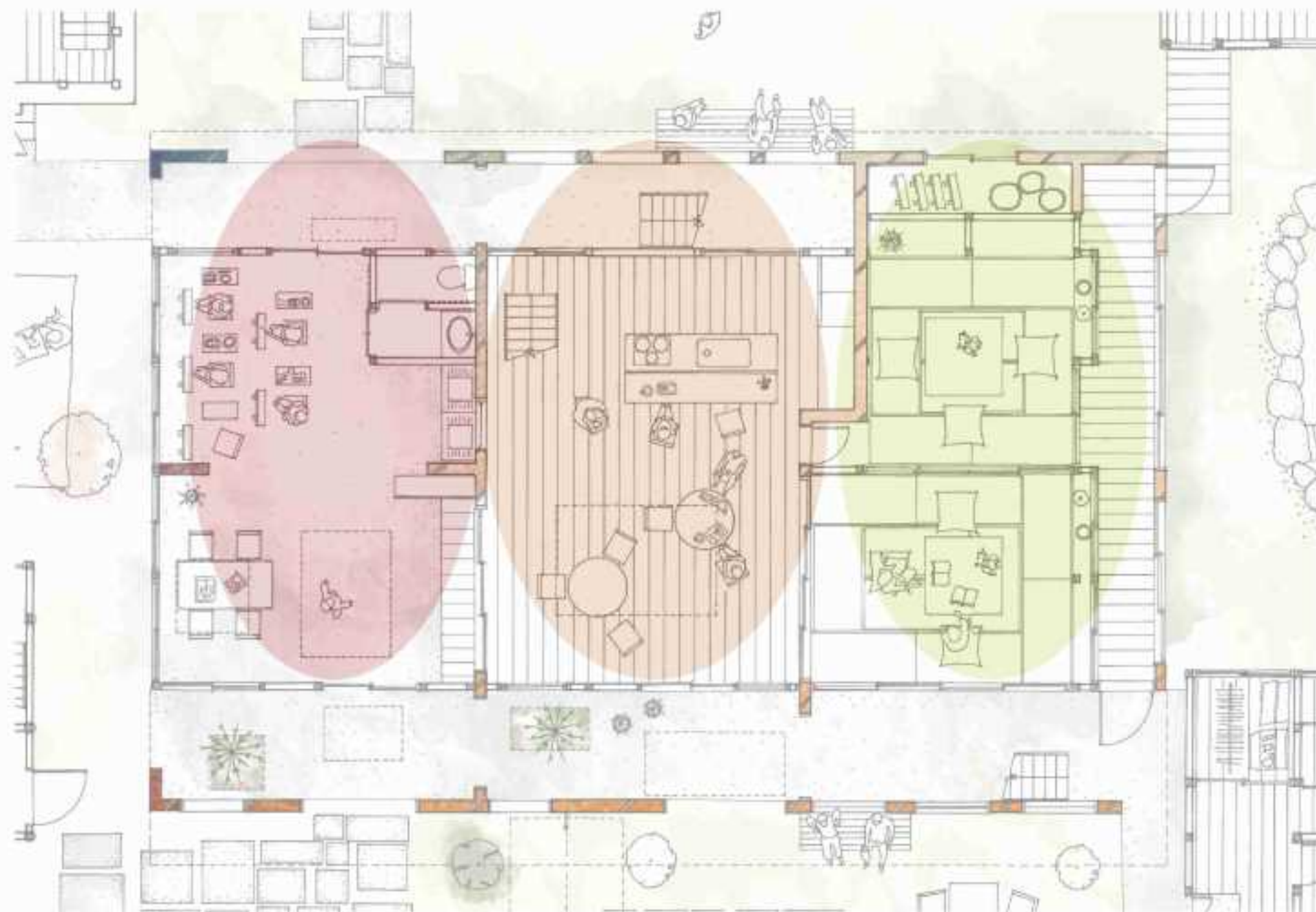
ギャラリーの動線



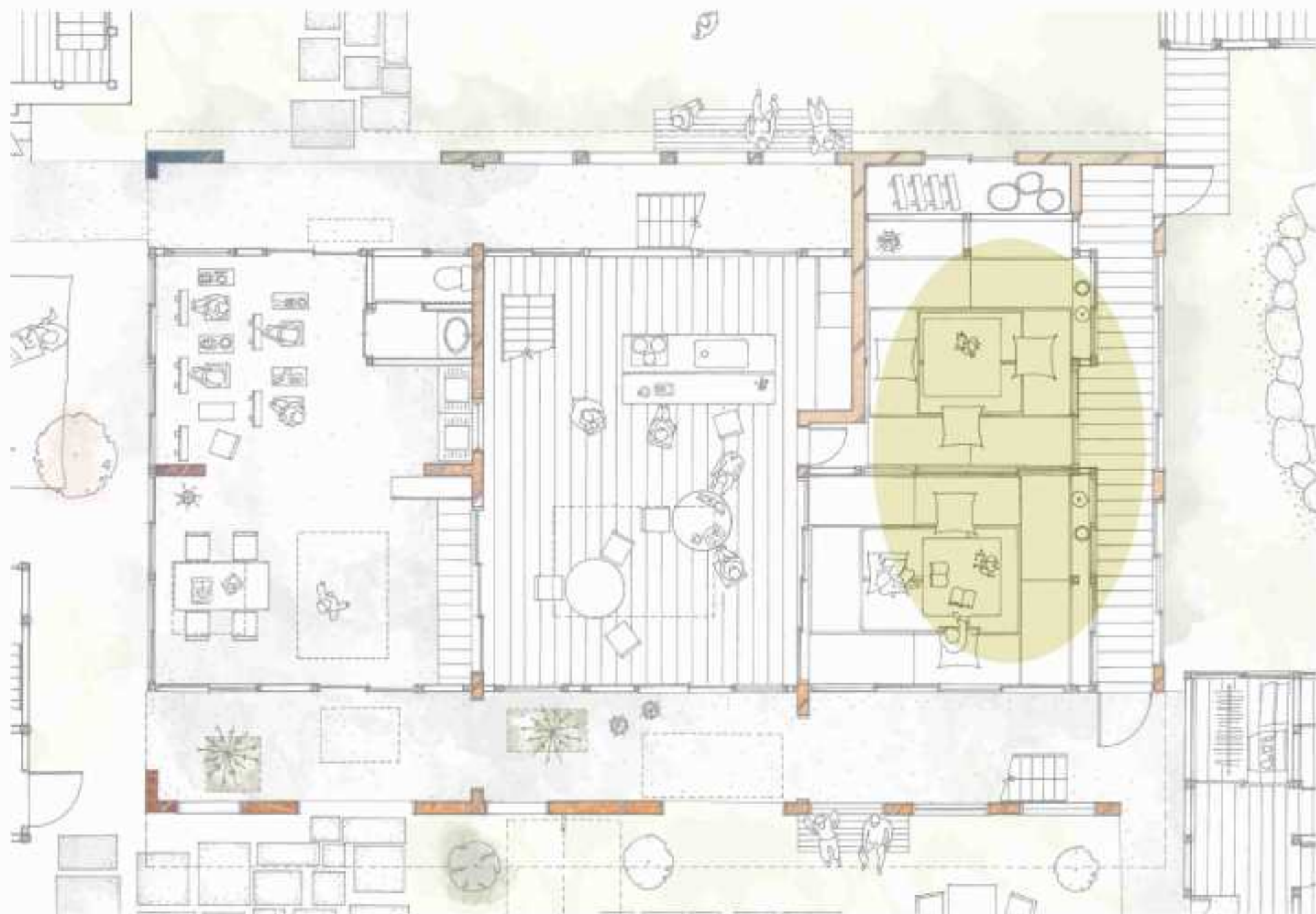
主屋について



挿入された高基礎により、プライベートからパブリックに緩やかに移り変わる住居となる

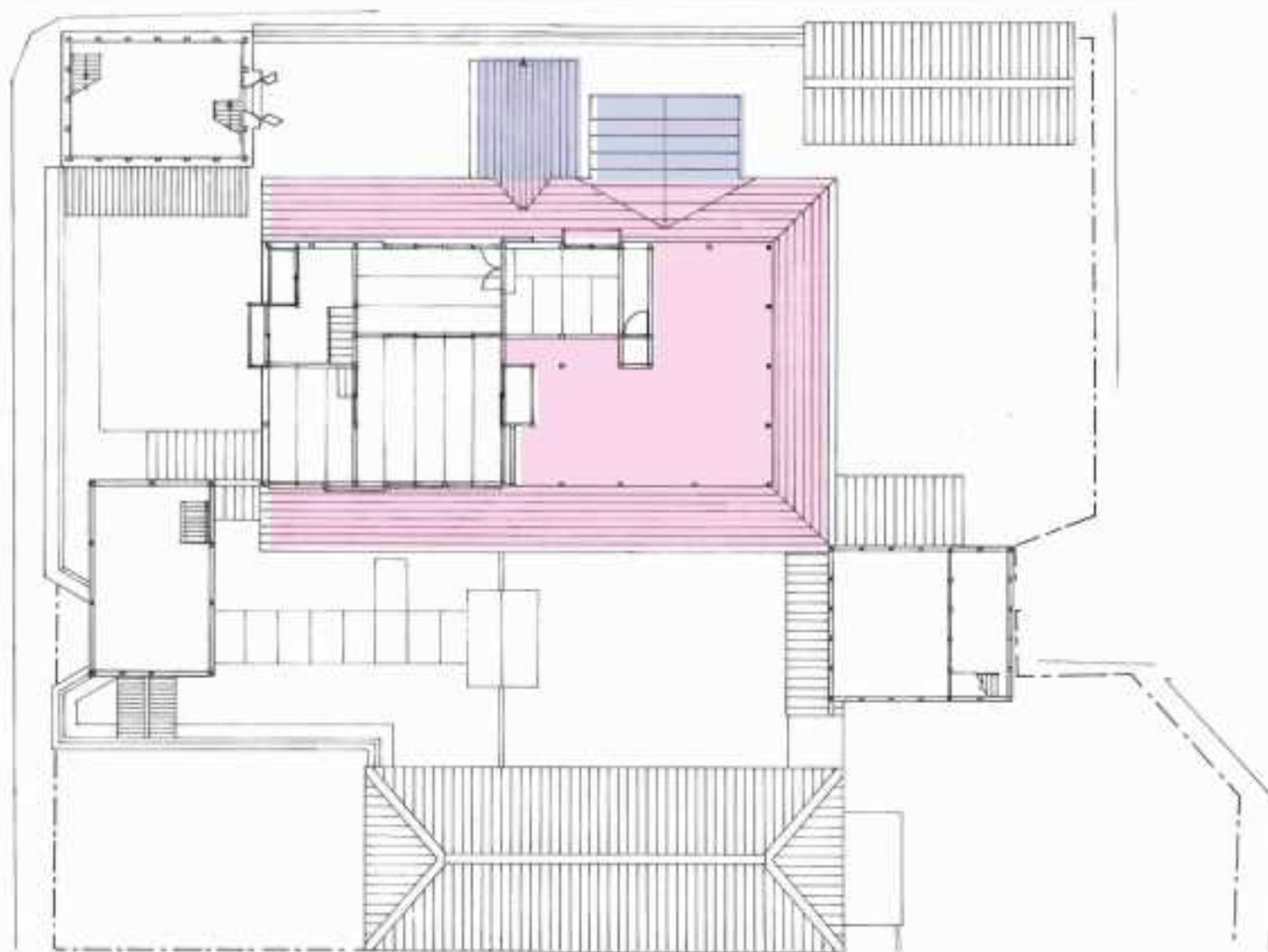


座敷空間、縁側、奥庭の関係性は、保存される



床を延長し、テラスを作る
小屋裏空間に新たに床を増やす

減築： 
増床： 

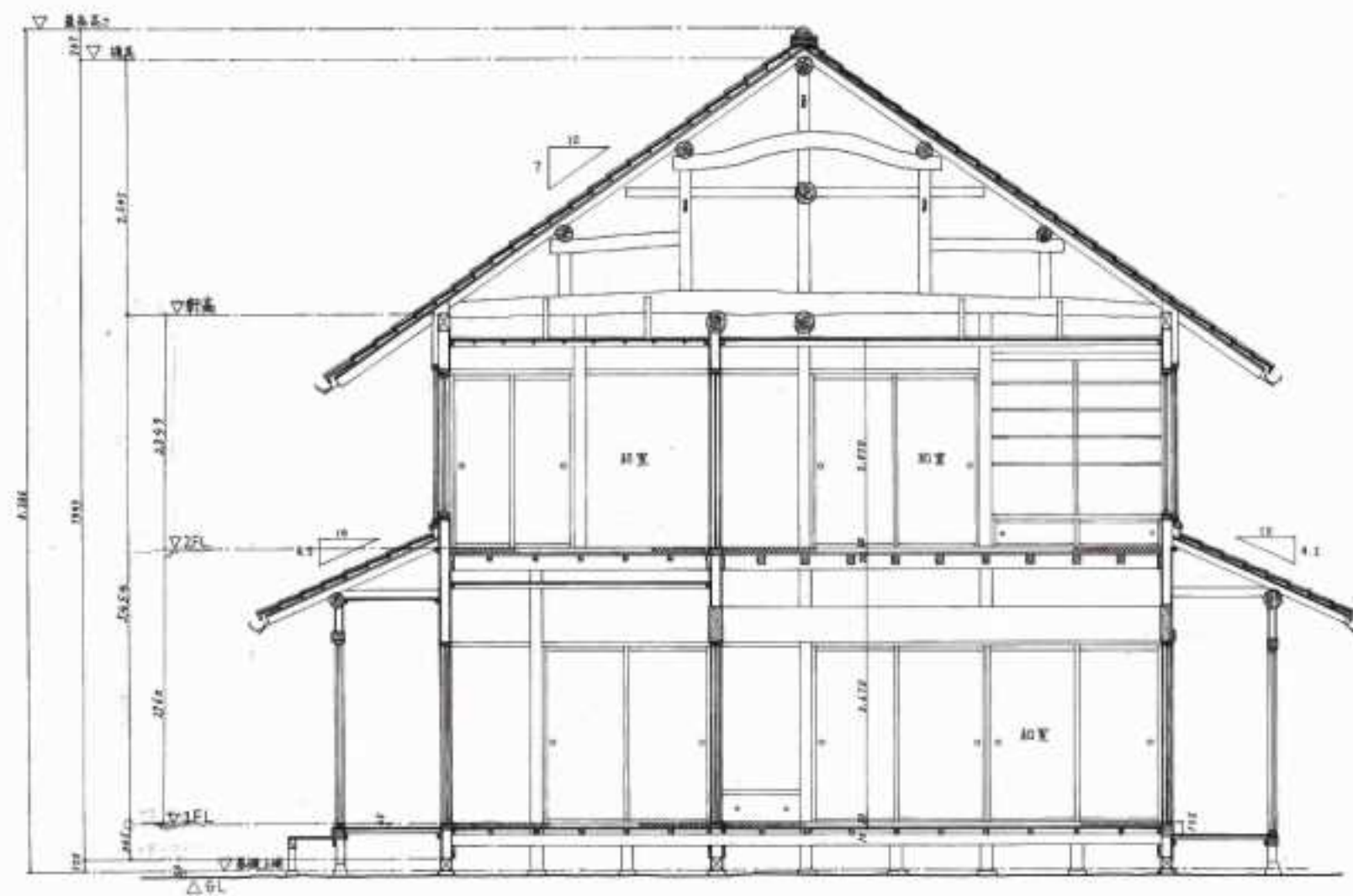


既存 2 階平面図

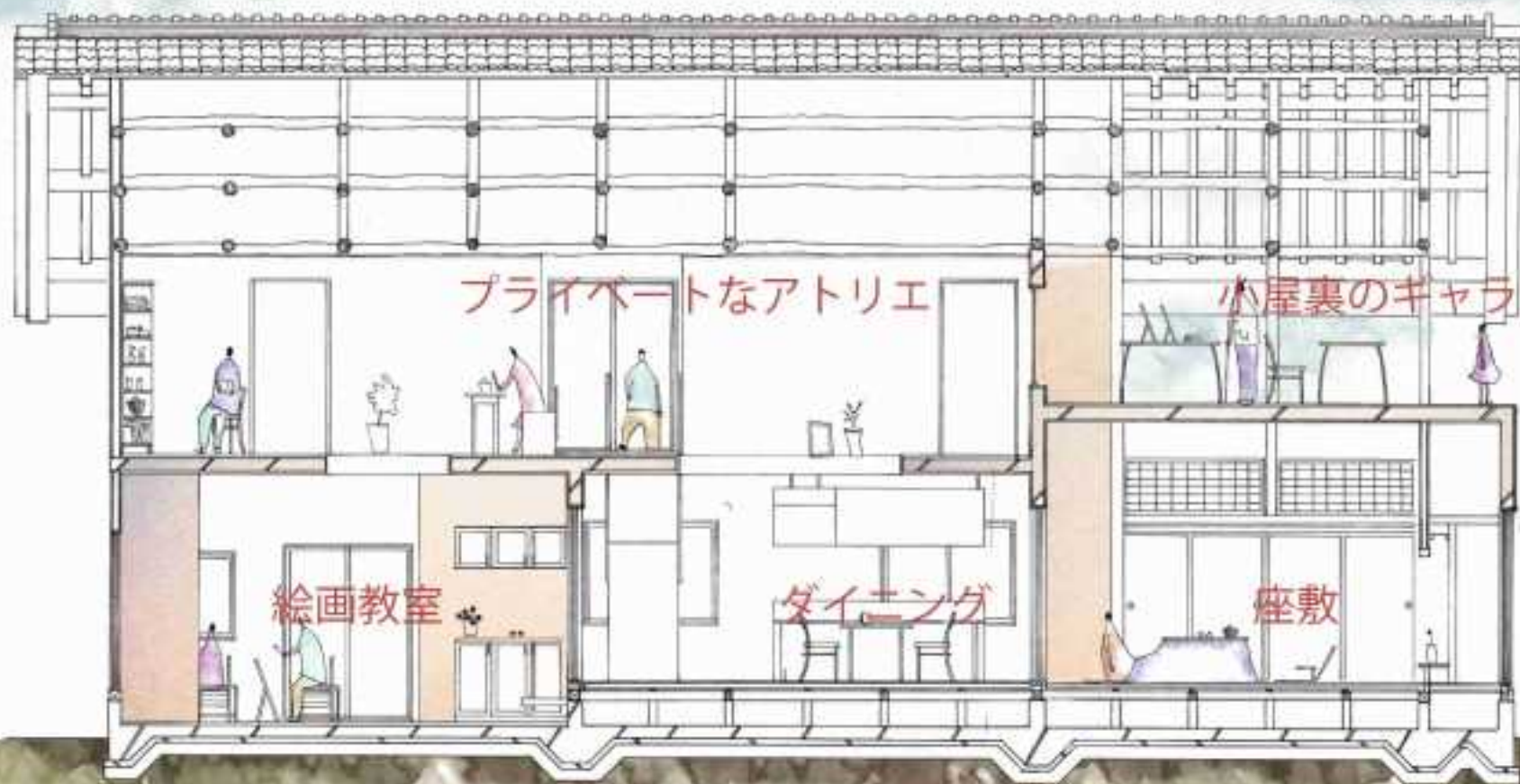
再生後 2 階平面図



再生前断面図







プライベートなアトリエ

小屋裏のギャラリー

絵画教室

ダイニング

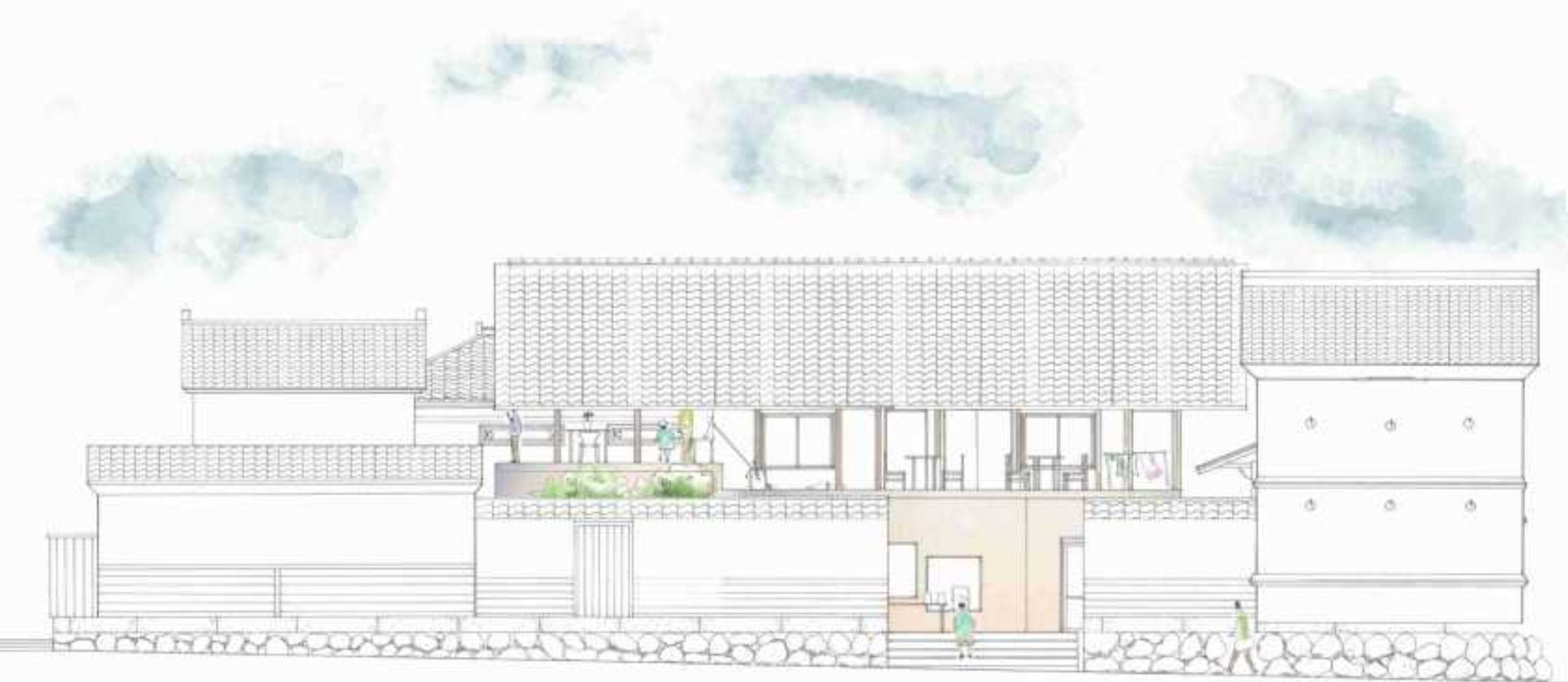
座敷

奥庭

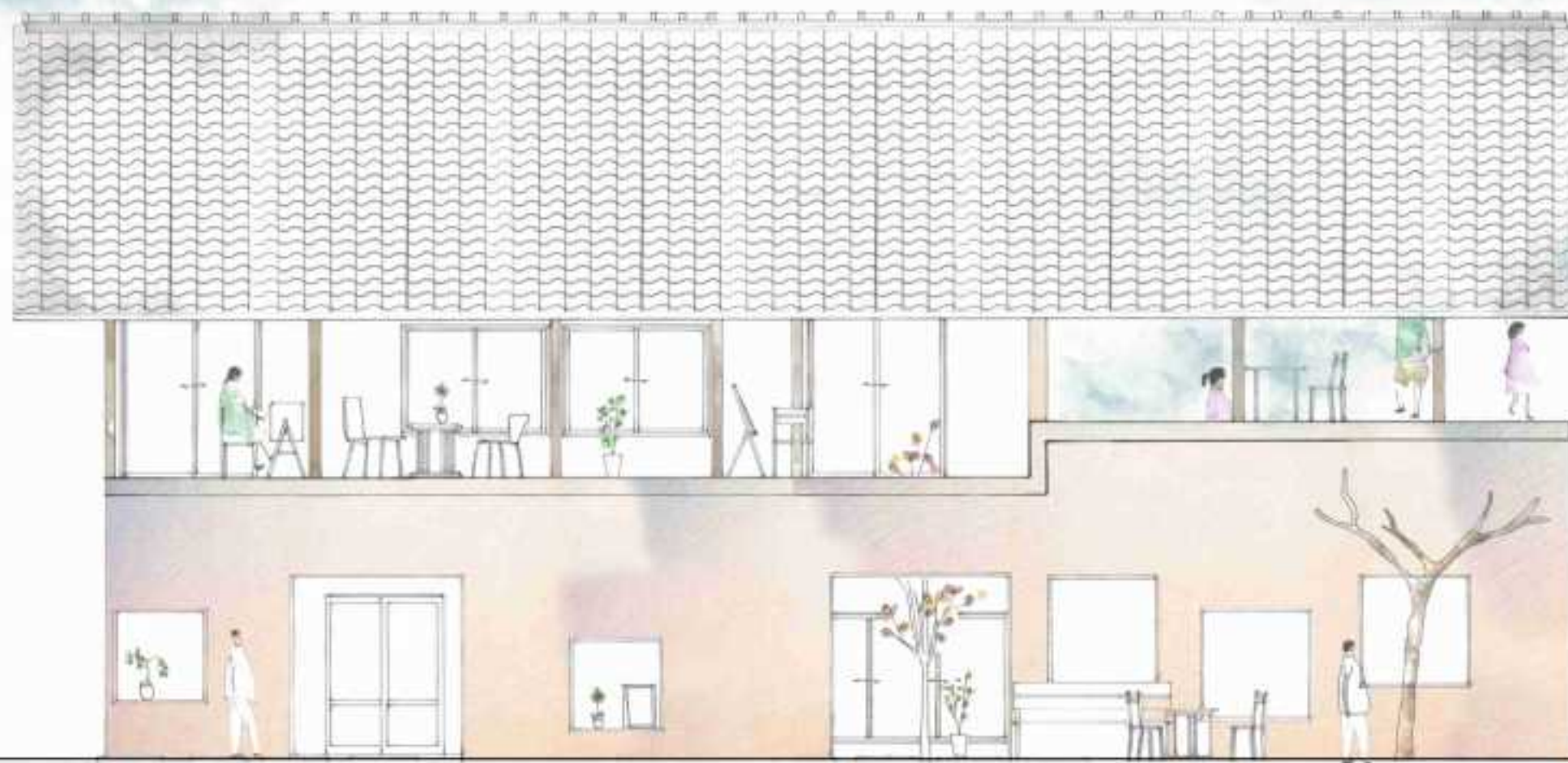
しらふじは高基礎により、ささやかな活気を取り戻し始める



地域の入り口の回廊が見えてくる風景は、人々を誘い込む



建物の表面には、住人の生活や展示物が溢れ出す



住民は、小屋組の下で暮らしながら須坂の歴史に思いを馳せる



高基礎は、ギャラリーとして展示物や植栽に彩られる



由緒ある奥庭は、住人にも街の人にも楽しめる



かつての勢いはないけれど、歴史ある小屋組や展示物は、須坂に暮らす人々に、「ここは歴史ある製糸業の街だ」という自覚さえ蘇らせる



しらふじは、これまでの歴史を高基礎とともに未来へと継承する

継承する立体高基礎



旧小田切家住宅 ベンチ計画

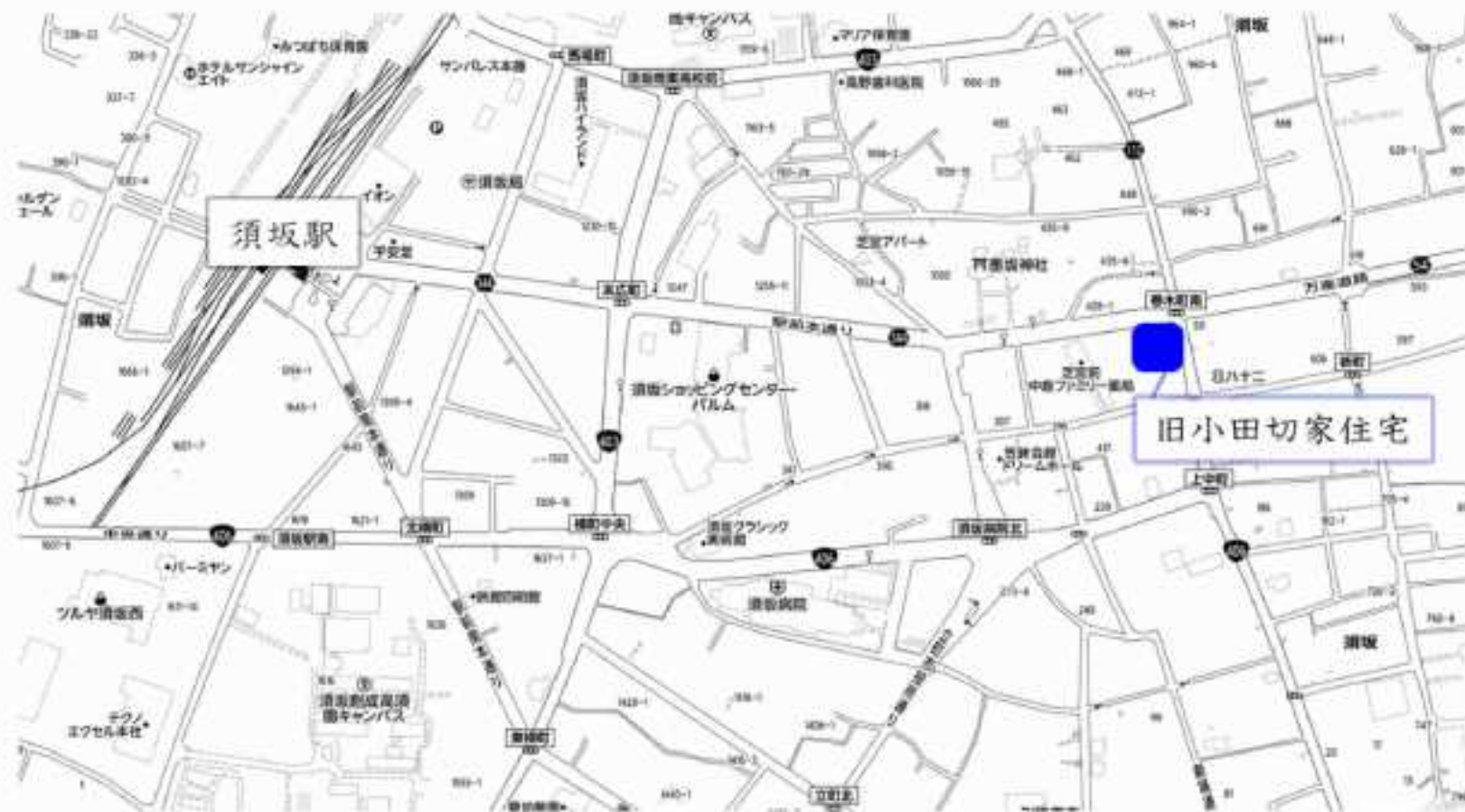
信州大学大学院 修士1年

平尾 真也

讀山 彩代子

旧小田切家住宅

- ・ 明治から昭和初期に製糸業で栄えた須坂市において、蚕糸、麴、呉服商などを営んでいた。
- ・ 現存するほとんどの建物は明治時代に再建。須坂市指定有形文化財(平成25年)である。
- ・ 昨年、喫茶スペースや様々なイベントを行える文化施設として始動。



旧小田切家住宅 【車寄せ】



出典: 旧小田切家住宅調査報告書 - 旧小田切家住宅調査委員会による中間報告 - 信伝研, 2014.3.31

配置図(敷地図)



出典: <http://www.culture-suzaka.or.jp/otagiri/>

- 人力車を収めていた場所
- 木造平屋建て
- 梁間10尺×桁行2間2尺

ベンチの概要

コンセプト



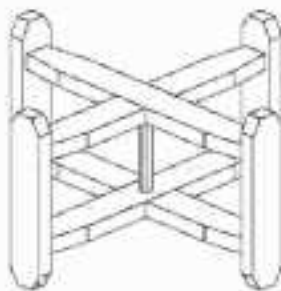
木枠

製糸業の発展に貢献
→ 紡いだ糸を巻き取る
「木枠」がモチーフ

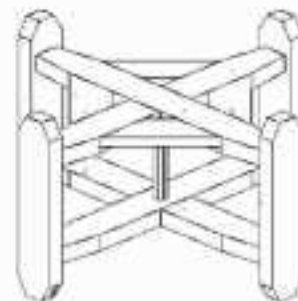
ダイアグラム



立てた状態の木枠



接合、構造面の強化



座面を足す

ダイアグラム



立てた状態の木枠

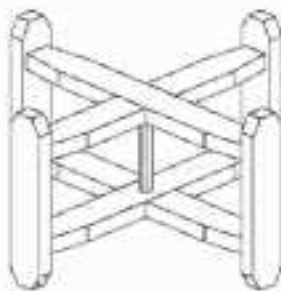


座面を足す

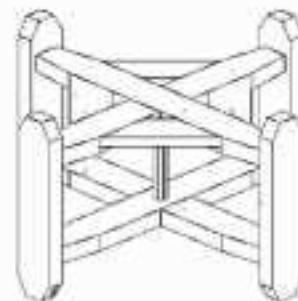
ダイアグラム



立てた状態の木枠



接合、構造面の強化

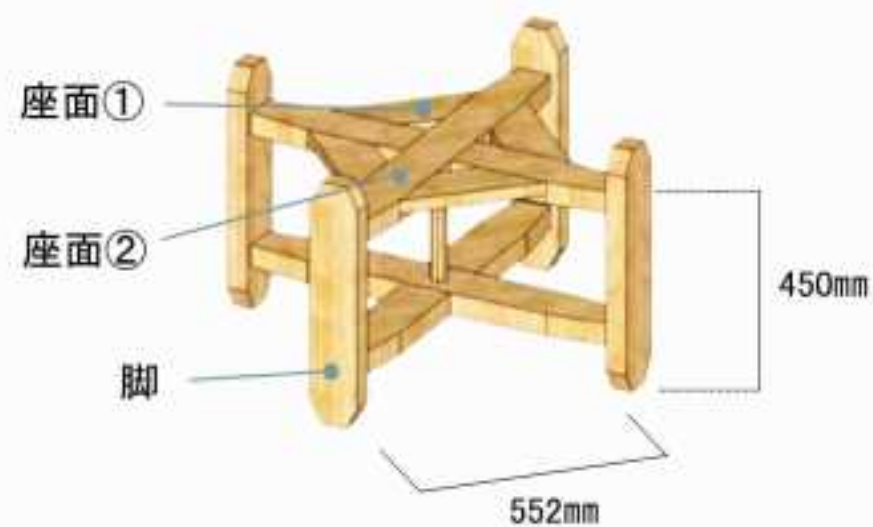


座面を足す

ダイアグラム



寸法



イメージ



